TMDU OVERVIEW 2009

国立大学法人
東京医科歯科大学　概要

編集発行
国立大学法人 東京医科歯科大学広報室
〒113-8510　東京都文京区湯島 1-5-45
電話：03-5803-5011
ホームページ：http://www.tmd.ac.jp/

平成21年度

国立大学法人 東京医科歯科大学 概要

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

TMDU OVERVIEW 2009

TMDU
OVERVIEW 2009
平成21年度

国立大学法人
東京医科歯科大学　概要
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

Tokyo Medical and Dental University

教 育 理 念

幅広い教養と豊かな感性を備えた
人間性の養成

自己問題提起、
自己問題解決型の創造的人間の養成

国際性豊かな医療人の養成

学長からのメッセージ

国立大学法人　東京医科歯科大学
学長
大山　喬史

“世界で活躍する人材の育成を目指して”

東京医科歯科大学は、医歯学総合研究科、保健衛生学研究科、生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部の3つの大学院組織、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科の4つの学部学科組織、教養教育を担当する教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の2つの附置研究所、および医学部附属病院、歯学部附属病院を擁する日本唯一の医療系総合大学院大学です。

本学が学生諸君に求める人間像は、あらゆる事象に好奇心を持ち、その多様性を尊重しつつも変化を求め、未知なるものへのチャレンジ精神を備え、真理を探究する努力を惜しまぬ科学者像であります。それは、「医学」を学び、「医学・医療」に携わる人に求められる姿そのものです。しかも、その「科学」は「人が生きる」上で役立つものでなければなりません。だからこそ、学生諸君がそれぞれの将来において、それまでの苦労を超えた、科学者としての無上の喜び、充実した達成感を得ることができるのです。

本学は、社会の要請に応え得る医師、歯科医師、コ・メディカルスタッフの養成は勿論、世界の第一線で活躍し得る研究者、指導者の育成を目指しております。したがって、大学は勉強するところではなく、勉強する方法を自ら学び、自律するための場であるとの認識を学生諸君に徹底しております。 以上の目標、目的を達成するため、本学では3つの教育理念を掲げております。

Message from the President

1　幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の養成

論語に『君子は､器ならず』とあります。ここで言う「器」とは特定の目的に使用される道具です。君子は決して単なる専門家ではいけないという意味です。「君子」とは学者、そして聖人を意味しますが、幅広い知識、豊かな感性が必要だと言っております。医療人こそ、ここで言う「器」であってはならないのです。

弟子が孔子に､「生涯守るもので一つを挙げるとしたら、それは何でしょうか」と尋ねたところ､「それは恕です。自分にして欲しくないことは、人にしてはならない」と孔子は答えております。「恕」とは「思いやり」を意味します。さらに弟子の曾子は、老師の人生は忠（まごころ）と恕（思いやり）、それに尽きますと述べています。「忠」とは、自分の良心に忠実なことを意味しますが、それだけでは他人に通用しない。そこで「恕」すなわち他人の身になってみて考える知的な同情を併せ持つことが大切だと答えています。

この「知的」というところが肝心で、単なる優しさ、憐みではなく、幅広い教養に根づいた同情を意味します。「忠」と「恕」とが一体となっているのが論語の根本原理「仁」なのです。まさに医療人たる心得を述べていると言えます。

私たち、医療の現場では、当然最善を尽くします。そこではある達成感があります。しかし、それだけでは自己満足にしか過ぎません。「最善を尽くしました」では済まされないのです。医療現場での達成感とは患者さん、ご家族の方々から「ありがとうございました」ということばがあって、はじめて真の達成感が得られるものです。私たち医療人の「忠恕」には患者さん、ご家族からの「ありがとう」との「答え」が必要なのです。

医学に携わるものは、「死とは」「老いるとは」というような、従来なら哲学の領域だったテーマにも関心を持ち、造詣を深めておき、自らの哲学的思考を絶えず磨き続ける努力をしていなければなりません。というのは､「再生医療」や「遺伝子治療」が注目されてきた最近の医療現場では、様々な場面で倫理上の決断を否応なく迫られることになるからです。

教養教育を通じて、幅広い知識や思考法などを獲得し、人間としてのあり方や生き方への深い洞察力を養うことが求められます。

2　自己問題提起、自己問題解決型の創造的人間の養成

最近まで、詰め込み教育を蔑視する傾向がありました。しかし、私たち医療人に限っては別です。先ず十分な知識、技術を身につけて、初めて的確な問題発見・適切な問題解決が可能となります。そうして将来リーダーシップを発揮できる研究者、教育者、臨床家が育つというものです。一流のリーダーになるには、「知」と「技」に「ゆとり」があってはじめて可能となります。同時に、そのためには努力、忍耐が必要で､それに負けないだけの「体力と精神力」にも「ゆとり」が必要です。

また､「知識や情報を沢山得て、どれだけ習っていても自分で考えてみないと、自分の人生でどう生かせばよいのか分からない。逆に、個人の理性の中だけに頼った思案だけでは独善的になって過ちを犯すことになり兼ねない」という意味の言葉『学びて思わざれば則（すなわ）ち罔（くら）く、思いて学ざれば則ち殆（うたが）う』がありますが、これは、カントの批判哲学『知識は経験と共にはじまるが、思惟がなければ盲目となる』を連想させる孔子の発想です。

学生諸君には、教養科目、専門科目のいずれにおいても、決して蔑ろにすることなく自ら学んで、自ら問いかける学問をしていただきたい、そして自ら答えを導き出す能力を自ら育む習慣を身につけてもらうことを期待しております。

3　国際性豊かな医療人の養成

本学は臨床面でも研究面でも国際舞台でリーダーシップがとれる医療人を養成することを目指しております。日本人としての幅広い教養を身につけ、日本の精神文化と豊かな感性を備えて、はじめて国際性豊かな人材が育まれるものです。幅広い教養を身につければ、日本の文化に根付いた教育、研究､臨床を創出できる医療人が育つものと期待しております。

医学部ではハーバード大学での臨床実習を行っており、今まで数十名の学生が参加し、教育現場で高い評価を得ています。歯学部においてもそのような教育カリキュラムの導入について検討を開始しております。これは、教育を外国に委託するということではなく､また単なる物まねでもありません。確かに「学ぶ」とは「まねる」から派生したことばのようですが、本学では既に「まねる」から脱して「医学・歯学融合教育」という本学独自の教育システムを構築しております。

また、それとは別に各学部学科の成績・就学態度の優秀者には数ヶ月の海外研修の機会が与えられます。すべての学生諸君に頑張ってもらって、是非その機会を掴んでもらいたいと思っております。

最後に、論語に『徳は孤(こ)ならず､必ず鄰(となり)有り』とあります。これは、人間としての徳を磨き、徳を備えれば、一見孤立しているように見えても、必ず理解者、感銘を受けた人が傍に集まってくるものです。大学時代に多くの良き友人、尊敬する先輩、師匠、恩師に出会い、自分自身を磨いてもらいたいものです。人こそ生涯にわたる貴重な財産となります。

参考文献：論語　貝塚茂樹訳注／中公文庫

沿革・組織

沿革図
歴代校長及び学長
運営組織等
機構図
役職員

Overview 2009

沿革図

明治 32.4 Apr.1899 東京医術開業試験附属病院（永楽病院）
〔麹町区永楽町（現在の千代田区丸の内1丁目、2丁目）〕

大正 6.8.1 Aug.1,1917 歯科医師開業試験附属病院
〔東京帝国大学医科大学附属医院分院（通称小石川分院）と同居〕

大正 7.6 Jun.1918 歯科医師開業試験附属病院
〔東京外国語大学のテニスコート跡地に建物を建築〕
神田区錦町（千代田区神田錦町 3 丁目）〔東京高等歯科医学校の発祥の地〕
〔文部省歯科医師試験病院（通称「文部省歯科病院」と命名）〕

大正 11.1 Jan.1922 歯科医師附属病院（改称）

昭和 9.4.1 本郷通りから正門

昭和 3.10.12 Oct.12,1928
東京高等歯科医学校
Tokyo National School of Dentistry

昭和 5.12 Dec.1930
東京高等歯科医学校
東京女子高等師範学校の跡地（現在地）に移転

昭和 19.4 Apr.1944（～ Mar.1950）
東京医学歯学専門学校
（医学科設置）（S.25.3 廃止）
Tokyo Medical and Dental College

昭和 21.8（旧制） Aug.1946
東京医科歯科大学
Tokyo Medical and Dental University
（The Former System）

平成 16.4（設立） Established Apr.2004
国立大学法人東京医科歯科大学
National University Corporation
Tokyo Medical and Dental University

昭和 26.4（新制） Apr.1951
東京医科歯科大学
Tokyo Medical and Dental University
（The New System）

昭和 4.4 Apr.1929 東京高等歯科医学校附属医院

昭和 21.12 Dec.1946
附属医院霞ヶ浦分院

昭和 22.11 Nov.1947
附属医院国府台分院

昭和 21.10 Oct.1946（～ 1950）
予科設置（S. 25 廃止）

昭和 21.8 Aug.1946
附属図書館
University Library

昭和 33.4 Apr.1958
分館設置（国府台分校）
Branch Library

昭和 39.4 Apr.1964
国府台分館（改称）
Kounodai Branch Library

昭和 24. 6 Jun.1949
医学部附属病院
University Hospital of Medicine

霞ヶ浦分院（平成 9.4 廃止）
Kasumigaura Branch
（～ Apr.1997）

国府台分院（昭和 40.4 廃止）
Kounodai Branch
（～ Apr.1965）

昭和 24. 6 Jun.1949
歯学部附属病院
University Hospital of Dentistry

大学院 Graduate School

平成 11.4 医歯学総合研究科（3 専攻）
Apr. 1999 Graduate School

平成 12.4 医歯学総合研究科（10 専攻）
Apr. 2000 Graduate School of Medical and Dental Sciences

昭和 30.4 医学研究科
Apr. 1955 Medical Research Division

平成 5.4 医学系研究科（保健衛生学専攻設置）
Apr. 1993 Medical Research Division

昭和 30.4 歯学研究科
Apr. 1955 Dental Research Division

平成 12.4 保健衛生学研究科
Apr. 2000 Graduate School of
Health Care Sciences

平成 13.4 保健衛生学研究科（2 専攻）
Apr. 2001 Graduate School of Health Care Sciences

平成 15.4 生命情報科学教育部（2 専攻）
Apr. 2003 Biomedical Science PhD Program

平成 15.4 疾患生命科学研究部
Apr. 2003 School of Biomedical Science

学　部 Faculties

昭和 26.4 Apr. 1951
医学部
Faculty of Medicine

昭和 26.4 Apr. 1951
医学科
School of Medicine

昭和 28.8 農村厚生医学研究施設
Aug. 1953 Institute for Medical Research on Rural Welfare
昭和 29.4 難聴研究施設
Apr. 1954 Institute for the Deaf
昭和 30.7 総合法医学研究施設
Jul. 1955 Institute for Forensic Sciences
昭和 33.4 硬組織生理研究施設
Apr. 1958 Institute for Hard Tissue Research
昭和 36.4 遺伝病研究施設
Apr. 1961 Institute of Medical Genetics
昭和 37.4 心臓血管病研究施設
Apr. 1962 Institute for Cardiovascular Diseases
昭和 44.4 内分泌腫瘍研究施設
Apr. 1969 Institute of Endocrine Diseases

（昭和 48.9 廃止）
（難治疾患研究所設置）

昭和 47.5 動物実験施設（平成 15.4 改組）
May. 1972 Animal Research Center
昭和 51.5 家族性ポリポージス解析センター（昭和 58.4 廃止）
May. 1976（～ Apr. 1983）Polyposis Center
昭和 58.4 ポリポージス腸疾患研究センター（平成 5.4 廃止）
Apr. 1983（～ Apr. 1993）Polyposis and Bowel Disease Research Center

平成 1.4 保健衛生学科
Apr. 1989 School of Health Care Sciences

昭和 26.4 Apr. 1951
歯学部
Faculty of Dentistry

昭和 26.4 Apr. 1951
歯学科
School of Dentistry

昭和 42.6 顎口腔総合研究施設（平成 4.4 廃止）
Jun. 1967（～ Apr. 1992）Institute of Stomatognathic Science

平成 15.4 口腔保健教育研究センター
Apr. 2003 Center for Education and Research in Oral Health Care

平成 16.4 口腔保健学科
Apr. 2004 School of Oral Health Care Sciences

昭和 30.4 医学、歯学進学課程（千葉大学文理学部内）（昭和 33.3 廃止）
Apr. 1955 Premedical and Predental Course（Faculty of Humanities and Sciences, University of Chiba）

昭和 33.4 医学、歯学進学課程（国府台分校）
Apr. 1958 Premedical and Predental Course（Kounodai Annex）

昭和 40.4 Apr. 1965
教養部
College of Liberal Arts and Sciences

附置研究所 Research Institutes

昭和 26.4 歯科材料研究所
Apr. 1951 Research Institute for Dental Materials

昭和 41.4 医用器材研究所（改称）
Apr. 1966 Institute for Medical and Dental Engineering

平成 11.4 生体材料工学研究所（改組）
Apr. 1999 Institute of Biomaterials and Bioengineering

昭和 48.9 難治疾患研究所
Sep. 1973 Medical Research Institute

附属教育施設 Educational Facilities

昭和 25.4 医学部附属厚生女子部
Apr. 1950

昭和 26.4 医学部附属看護学校（平成 3.3 廃止）
Apr. 1951（～ Mar.1991）School of Nursing

昭和 37.4 医学部附属衛生検査技師学校（昭和 48.3 廃止）
Apr. 1962（～ Mar. 1973）School of Medical Technology

昭和 47.4 医学部附属臨床検査技師学校（平成 3.3 廃止）
Apr. 1972（～ Mar. 1991）School of Medical Technology

昭和 26.4 歯学部附属歯科衛生士学校（平成 17.3 廃止）
Apr. 1951（～ Mar. 2005）School for Dental Hygienists

昭和 27.4 歯学部附属歯科技工士学校
Apr. 1952 School for Dental Technologists

昭和 32.4 実習科
Apr. 1957 Special Training Course

昭和 45.4 保健管理センター
Apr. 1970 Health Service Center

平成 21.12 スチューデントセンター
Dec. 2009 Student Center

全国共同利用施設 Nationwide Joint Institute

平成 14.4 医歯学教育システム研究センター
Apr. 2002 Center for Educational Research
in Medicine and Dentistry

学内共同教育研究施設 Joint Institutes for Research

平成 5.4 疾患遺伝子実験センター
Apr. 1993 Human Gene Sciences Center

平成 15.4 先端研究支援センター
Apr. 2003 Research Center for Frontier Life Sciences

平成 8.5 機器分析センター
May. 1996 Instrumental Analysis Research Center for Life Science

平成 10.4 アイソトープ総合センター
Apr. 1998 General Isotope Center

平成 15.4 医学部附属動物実験施設
Apr. 2003 Animal Research Center

平成 12.4 留学生センター
Apr. 2000 International Student Center

平成 21.4 国際交流センター
Apr. 2009 International Exchange Center

平成 7.1 情報処理センター（情報医科学センター）
Jan. 1995 Information Center for Medical Sciences

平成 15.9 Sep. 2003
知的財産本部
Intellectual Property Division

平成 19.4 脳統合機能研究センター
Apr. 2007 Center for Brain Integration Research

歴代校長及び学長

東京高等歯科医学校長 Tokyo National School of Dentistry	昭和3年10月13日〜昭和19年3月31日 Oct.13,1928 〜 Mar.31,1944	島峰　徹 Shimamine Toru
東京医学歯学専門学校長 Tokyo Medical and Dental College	昭和19年4月1日〜昭和20年2月9日 Apr.1,1944 〜 Feb.9,1945	島峰　徹 Shimamine Toru
東京医学歯学専門学校長事務取扱 Tokyo Medical and Dental College	昭和20年2月10日〜昭和20年2月19日 Feb.10,1945 〜 Feb.19,1945	長尾　優 Nagao Masaru
東京医学歯学専門学校長 Tokyo Medical and Dental College	昭和20年2月20日〜昭和25年3月31日 Feb.20,1945 〜 Mar.31,1950	長尾　優 Nagao Masaru
東京医科歯科大学長事務取扱 Tokyo Medical and Dental University	昭和21年8月27日〜昭和21年10月4日 Aug.27,1946 〜 Oct.4,1946	長尾　優 Nagao Masaru
東京医科歯科大学長(旧制) Tokyo Medical and Dental University (The Former System)	昭和21年10月5日〜昭和26年3月31日 Oct.5,1946 〜 Mar.31,1951	長尾　優 Nagao Masaru
東京医科歯科大学長(新制) Tokyo Medical and Dental University (The New System)	昭和26年4月1日〜昭和36年6月30日 Apr.1,1951 〜 Jun.30,1961 昭和36年7月1日〜昭和43年2月29日 Jul.1,1961 〜 Feb.29,1968	長尾　優 Nagao Masaru 岡田　正弘 Okada Masahiro
東京医科歯科大学長事務取扱 Tokyo Medical and Dental University	昭和43年3月1日〜昭和43年3月15日 Mar.1,1968 〜 Mar.15,1968	太田　敬三 Ota Keizo
東京医科歯科大学長 Tokyo Medical and Dental University	昭和43年3月16日〜昭和44年10月8日 Mar.16,1968 〜 Oct.8,1969	太田　敬三 Ota Keizo
東京医科歯科大学長事務取扱 Tokyo Medical and Dental University	昭和44年10月9日〜昭和45年9月17日 Oct.9,1969 〜 Sep.17,1970	清水　文彦 Shimizu Fumihiko
東京医科歯科大学長 Tokyo Medical and Dental University	昭和45年9月18日〜昭和49年9月17日 Sep.18,1970 〜 Sep.17,1974 昭和49年9月18日〜昭和52年7月31日 Sep.18,1974 〜 Jul.31,1977 昭和52年8月1日〜昭和60年7月31日 Aug.1,1977 〜 Jul.31,1985 昭和60年8月1日〜平成3年7月31日 Aug.1,1985 〜 Jul.31,1991 平成3年8月1日〜平成7年7月31日 Aug.1,1991 〜 Jul.31,1995 平成7年8月1日〜平成16年3月31日 Aug.1,1995 〜 Mar.31,2004	清水　文彦 Shimizu Fumihiko 勝木　保次 Katsuki Yasuji 吉田　久 Yoshida Hisashi 加納　六郎 Kano Rokuro 山本　肇 Yamamoto Hajime 鈴木　章夫 Suzuki Akio
国立大学法人東京医科歯科大学長 National University Corporation Tokyo Medical and Dental University	平成16年4月1日〜平成20年3月31日 Apr.1,2004 〜 Mar.31,2008 平成20年4月1日〜 Apr.1,2008 〜	鈴木　章夫 Suzuki Akio 大山　喬史 Ohyama Takashi

運営組織等

体制図

役員会　Board of Trustees

重要事項の議決　Vote on important items

学長 President	大山 喬史 Ohyama Takashi	理事（教育担当） Trustee（Education）	須田 英明 Suda Hideaki
理事(企画・国際交流担当) Trustee（Planning/International Exchange ）	佐々木 成 Sasaki Sei	理事（研究担当） Trustee（Research）	森田 育男 Morita Ikuo
理事(総務・財務・施設担当) Trustee（General Affairs/Finance/Facilities）	谷本 雅男 Tanimoto Masao	理事（医療担当） Trustee（Medical and Dental Treatments）	吉澤 靖之 Yoshizawa Yasuyuki

経営協議会　Administrative Council

経営に関する重要事項を審議　Deliberate on management issues

【学内委員】 Internal Committee

学長 President	大山 喬史 Ohyama Takashi
理事（企画・国際交流担当） Trustee（Planning/International Exchange ）	佐々木 成 Sasaki Sei
理事（総務・財務・施設担当） Trustee（General Affairs/Finance/Facilities）	谷本 雅男 Tanimoto Masao
理事（教育担当） Trustee（Education）	須田 英明 Suda Hideaki
理事（研究担当） Trustee（Research）	森田 育男 Morita Ikuo
理事（医療担当） Trustee（Medical and Dental Treatments）	吉澤 靖之 Yoshizawa Yasuyuki

【学外委員】 External Committee

クオンタムリープ株式会社代表取締役 Chief Executive Officer, Quantum Leaps Corporation	出井 伸之 Idei Nobuyuki
財団法人放送大学教育振興会理事長 Chairperson, Society for the Promotion of the University of the Air	井上 孝美 Inoue Takayoshi
文京学院大学 保健医療技術学部長・教授 Dean, Faculty of Health Science Technology Bunkyo Gakuin University, Professor	小池 盛雄 Koike Morio
あいおい損害保険会社特別顧問 Aioi Insurance Co., Ltd, Special Adviser	瀬下 明 Seshimo Akira
高橋矯正歯科診療所理事長、本学名誉教授 Director, Takahashi Orthodontic Office , Professors Emeritus	三浦 不二夫 Miura Fujio
読売新聞グループ本社 代表取締役会長・主筆 Chairman, Board of Trustees, Editor-in-Chief, The Yomiuri Shimbun Holdings	渡邉 恒雄 Watanabe Tsuneo

教育研究評議会　Education and Research Council

教育研究に関する重要事項を審議　Deliberate on educational and research issues

学長 President	大山 喬史 Ohyama Takashi	生体材料工学研究所長 Director, Institute of Biomaterials and Bioengineering	山下 仁大 Yamashita Kimihiro
理事（企画・国際交流担当） Trustee（Planning/International Exchange ）	佐々木 成 Sasaki Sei	難治疾患研究所長 Director, Medical Research Institute	北嶋 繁孝 Kitajima Shigetaka
理事（総務・財務・施設担当） Trustee（General Affairs/Finance/Facilities）	谷本 雅男 Tanimoto Masao	附属図書館長 Director, University Library	天笠 光雄 Amagasa Teruo
理事（教育担当） Trustee（Education）	須田 英明 Suda Hideaki	医学部附属病院長 Director, University Hospital of Medicine	坂本 徹 Sakamoto Tohru
理事（研究担当） Trustee（Research）	森田 育男 Morita Ikuo	歯学部附属病院長 Director, University Hospital of Dentistry	嶋田 昌彦 Shimada Masahiko
理事（医療担当） Trustee（Medical and Dental Treatments）	吉澤 靖之 Yoshizawa Yasuyuki	大学院医歯学総合研究科教授（医学系） Professor, Graduate School of Medical and Dental Sciences (Medical Division)	湯浅 保仁 Yuasa Yasuhito
大学院医歯学総合研究科長、 医学部長 Dean, Graduate School of Medical and Dental Sciences Dean, Faculty of Medicine	大野 喜久郎 Ohno Kikuo	大学院医歯学総合研究科教授（歯学系） Professor, Graduate School of Medical and Dental Sciences (Dental Division)	山口 朗 Yamaguchi Akira
大学院保健衛生学研究科長 Dean, Graduate School of Health Care Sciences	佐藤 健次 Sato Kenji	大学院保健衛生学研究科教授 Professor, Graduate School of Health Care Sciences	井上 智子 Inoue Tomoko
大学院生命情報科学教育部長 Dean, Biomedical Science PhD Program	田中 博 Tanaka Hiroshi	教養部教授 Professor, College of Liberal Arts and Sciences	千葉 司 Chiba Tsukasa
大学院疾患生命科学研究部長 Dean, School of Biomedical Science	鍔田 武志 Tsubata Takeshi	生体材料工学研究所教授 Professor, Institute of Biomaterials and Bioengineering	三林 浩二 Mitsubayashi Koji
歯学部長 Dean, Faculty of Dentistry	田上 順次 Tagami Junji	難治疾患研究所教授 Professor, Medical Research Institute	石野 史敏 Ishino Fumitoshi
教養部長 Dean, College of Liberal Arts and Sciences	和田 勝 Wada Masaru		

機構図

- **学長** President
  - **理事** Trustees
    - 副理事 Associate Managing Trustees
    - 学長特別補佐 Executive Advisers to the President
  - **学長選考会議** Presidential Selection Screening Committee
  - **副学長** Vice-Presidents
    - 学長特別補佐 Executive Advisers to the President
  - 監査室 Inspection Office
  - 評価情報室 University Evaluation Office
  - 広報室 Public Relations Office
  - **経営協議会** Administrative Council
  - **教育研究評議会** Education and Research Council
  - **役員会** Board of Trustees
    - 学長 President
    - 理事 Trustees
      - ・企画・国際交流担当 Planning/International Exchange
      - ・総務・財務・施設担当 General Affairs/Finance/Facilities
      - ・教育担当 Education
      - ・研究担当 Research
      - ・医療担当 Medical and Dental Treatments
  - **監事** Auditors
  - **事務局** Administration Bureau
    - 総務部 General Affairs Division
      - ・総務課 General Affairs Section
      - ・人事課 Personnel Section
      - ・職員課 Staff Section
    - 財務部 Financial Division
      - ・財務課 Financial Section
      - ・資金課 Fund Management Section
      - ・契約課 Contract Section
      - ・照査管理課 Financial Proof and Management Section
    - 施設部 Facilities Division
      - ・施設企画課 Facilities Planning Section
      - ・建築課 Construction Section
      - ・設備課 Equipment Section
    - 学務部 School Affairs Division
      - ・学務企画課 Educational Planning Section
      - ・教務課 Educational Affairs Section
      - ・学生支援課 Student Support Section
      - ・入試課 Admission Section
    - 学術国際部 Science and International Affairs Division
      - ・研究推進課 Research Development Section
      - ・学術連携・国際課 Collaboration and International Affairs Section
      - ・情報推進課 Information Development Section
  - **大学院** Graduate School
    - 医歯学総合研究科 Graduate School of Medical and Dental Sciences — 教務課 Educational Affairs Section
    - 保健衛生学研究科 Graduate School of Health Care Sciences — 教務課 Educational Affairs Section
    - 生命情報科学教育部 Biomedical Science PhD Program — 難治疾患研究所事務部 Medical Research Institute Administration Office / 教務課 Educational Affairs Section
    - 疾患生命科学研究部 School of Biomedical Science — 難治疾患研究所事務部 Medical Research Institute Administration Office
  - **医学部** Faculty of Medicine
    - 附属病院 University Hospital of Medicine
    - 事務部 Administrative Division
      - 総務課 General Affairs Section
      - 管理課 Administration Section
      - 医事課 Business Section
  - **歯学部** Faculty of Dentistry
    - 附属病院 University Hospital of Dentistry
    - 附属歯科技工士学校 School for Dental Technologists
    - 口腔保健教育研究センター Center for Education and Research in Oral Health Care
    - 事務部 Administrative Division
      - 総務課 General Affairs Section
      - 業務課 Business Section
  - **教養部** College of Liberal Arts and Sciences — 事務部 Administration Office
  - **生体材料工学研究所** Institute of Biomaterials and Bioengineering — 事務部 Administration Office
  - **難治疾患研究所** Medical Research Institute — 事務部 Administration Office
  - **附属図書館** University Library — 事務部 Administration Office
    - 国府台分館 Kounodai Branch Library — 事務部 Administration Office
  - **医歯学教育システム研究センター** Center for Education Research in Medicine and Dentistry — 学務企画課 Educational Planning Section
  - **疾患遺伝子実験センター** Human Gene Sciences Center — 研究推進課 Research Development Section
  - **先端研究支援センター** Research Center for Frontier Life Sciences — 研究推進課 Research Development Section
    - ・機器分析センター Instrumental Analysis Research Center for Life Science
    - ・アイソトープ総合センター General Isotope Center
    - ・医学部附属動物実験施設 Animal Research Center
  - **国際交流センター** International Exchange Center — 学術連携・国際課 Collaboration and International Affairs Section
  - **情報処理センター** Information Center for Medical Sciences — 研究推進課 Research Development Section
  - **保健管理センター** Health Service Center — 学生支援課 Student Support Section
    - 分室 Branch Center — 学生支援課 Student Support Section
  - **スチューデントセンター** Student Center — 学生支援課 Student Support Section
  - **知的財産本部** Intellectual Property Division — 学術連携・国際課 Collaboration and International Affairs Section
  - **脳統合機能研究センター** Center for Brain Integration Research — 研究推進課 Research Development Section
  - **硬組織疾患ゲノムセンター** ＊硬組織疾患研プロジェクト実施期間中設置 Hard Tissue Genome Research Center — 研究推進課 Research Development Section
  - **生命倫理研究センター** ＊国際的な生命倫理学に関する研究創出事業実施期間中設置 Bioethics Research Center — 研究推進課 Research Development Section
  - **歯と骨のGCOE拠点** ＊歯と骨の GCOE プロジェクト実施期間中設置 Global Center of Excellence for Tooth and Bone Research — 研究推進課 Research Development Section

役職員

学長
President

大山 喬史
Ohyama Takashi

理事
Trustees

企画・国際交流担当 Planning/International Exchange	佐々木 成 Sasaki Sei
総務・財務・施設担当 General Affairs/Finance/Facilities	谷本 雅男 Tanimoto Masao
教育担当 Education	須田 英明 Suda Hideaki
研究担当 Research	森田 育男 Morita Ikuo
医療担当 Medical and Dental Treatments	吉澤 靖之 Yoshizawa Yasuyuki

監事
Auditors

小林 徹
Kobayashi Toru

高橋 茂樹
Takahashi Shigeki

副学長
Vice-Presidents

総括 Overall Management	大野 喜久郎 Ohno Kikuo
入試 Entrance Exam	喜多村 健 Kitamura Ken
評価 Evaluation	木村 彰方 Kimura Akinori
情報管理 Information management	高瀬 浩造 Takase Kozo
苦情相談・学生支援 Complaint Consultation and Student support	谷口 尚 Taniguchi Hisashi
広報 Public Relations	髙谷 節雄 Takatani Setsuo
産学連携 Industrial Collaboration	宮坂 信之 Miyasaka Nobuyuki
	佐々木 成 Sasaki Sei
	須田 英明 Suda Hideaki
	森田 育男 Morita Ikuo
	吉澤 靖之 Yoshizawa Yasuyuki

副理事
Associate Managing Trustees

企画・国際交流担当 Planning/International Exchange	烏山 一 Karasuyama Hajime
教育担当 Education	和田 勝 Wada Masaru
研究担当 Research	北嶋 繁孝 Kitajima Shigetaka
研究担当 Research	水澤 英洋 Mizusawa Hidehiro
医療担当 Medical Treatment	坂本 徹 Sakamoto Tohru
医療担当 Dental Treatment	嶋田 昌彦 Shimada Masahiko

学長特別補佐
Executive Advisers to the President

企画・国際交流担当 Planning/International Exchange	川口 陽子 Kawaguchi Yoko
教育担当 Education	田中 雄二郎 Tanaka Yujiro
教育担当 Education	小村 健 Omura Ken
研究担当 Research	森山 啓司 Moriyama Keiji
入試 Entrance Exam	東 みゆき Azuma Miyuki
入試 Entrance Exam	森尾 友宏 Morio Tomohiro
評価 Evaluation	水谷 修紀 Mizutani Shuki
評価 Evaluation	柳下 正樹 Yanagishita Masaki
苦情相談・学生支援 Complaint Consultation and Student support	松浦 雅人 Matsuura Masato
苦情相談・学生支援 Complaint Consultation and Student support	江石 義信 Eishi Yoshinobu
広報 Public Relations	髙久田 和夫 Takakuda Kazuo
産学連携 Industrial Collaboration	水島 昇 Mizushima Noboru

監査室
Inspection Office

監査室長 Head, Inspection Office	須田 英明 Suda Hideaki

広報室
Public Relations Office

広報室長 Head, Public Relations Office	髙谷 節雄 Takatani Setsuo

評価情報室
University Evaluation Office

評価情報室長 Head, University Evaluation Office	木村 彰方 Kimura Akinori

事務局
Administration Bureau

事務局長 Director General	谷本 雅男 Tanimoto Masao
総務部長 Director, General Affairs Division	島村 富雄 Shimamura Tomio
総務課長 Head, General Affairs Section	成瀬 智 Naruse Satoru
人事課長 Head, Personnel Section	後藤 玄政 Goto Hiromasa
職員課長 Head, Staff Section	遠藤 弘行 Endo Hiroyuki
財務部長 Director, Financial Division	皆川 秀徳 Minakawa Shutoku
財務課長 Head, Financial Section	山腰 俊昭 Yamagoshi Toshiaki
資金課長 Head, Fund Manegement Section	齋藤 勝男 Saitou Katsuo
契約課長 Head, Contract Section	本多 伸次 Honda Shinji
照査管理課長 Head, Financial Proof and Management Section	吉原 澄吉 Yoshihara Sumiyoshi
施設部長 Director, Facilities Division	田中 敏夫 Tanaka Toshio
施設企画課長 Head, Facilities Planning Section	京田 昭男 Kyoda Akio
建築課長 Head, Construction Section	草 一宏 Kusa Kazuhiro
設備課長 Head, Equipment Section	倉持 友末 Kuramochi Tomosue
学務部長 Director, School Affairs Division	谷田 弘 Tanida Hiroshi
学務企画課長 Head, Educational Planning Section	入江 久男 Irie Hisao
教務課長 Head, Educational Affairs Section	齋藤 良雄 Saitou Yoshio
学生支援課長 Head, Student Support Section	山本 正彦 Yamamoto Masahiko
入試課長 Head, Admission Section	木川 政夫 Kikawa Masao
学術国際部長 Director,Science and International Affairs Division	下田 重敬 Shimoda Shigeyuki
研究推進課長 Head, Research Development Section	村田 正一 Murata Shoichi
学術連携・国際課長 Head, Collaboration and International Affairs Section	小関 仁志 Koseki Hitoshi
情報推進課長 Head, Information Development Section	山口 善久 Yamaguchi Yoshihisa

大学院
Graduate Schools

医歯学総合研究科長 Dean, Graduate School of Medical and Dental Sciences	大野 喜久郎 Ohno Kikuo
医歯学総合研究科副研究科長 Vice Dean, Graduate School of Medical and Dental Sciences	田上 順次 Tagami Junji
保健衛生学研究科長 Dean, Graduate School of Health Care Sciences	佐藤 健次 Sato Kenji
生命情報科学教育部長 Dean, Biomedical Science PhD Program	田中 博 Tanaka Hiroshi
疾患生命科学研究部長 Dean, School of Biomedical Science	鍔田 武志 Tsubata Takeshi

医学部
Faculty of Medicine

医学部長 Dean, Faculty of Medicine	大野 喜久郎 Ohno Kikuo
医学科長 Director, School of Medicine	四宮 謙一 Shinomiya Kenichi
保健衛生学科長 Director, School of Health Care Sciences	井上 智子 Inoue Tomoko
附属病院長 Director, University Hospital of Medicine	坂本 徹 Sakamoto Tohru
事務部長 Director, Administrative Division	加藤 健 Kato Ken
総務課長 Head, General Affairs Section	富田 有一 Tomita Yuichi
管理課長 Head, Administration Section	菅瀬 真生 Sugase Manabu
医事課長 Head, Business Section	鈴木 茂男 Suzuki Shigeo

歯学部
Faculty of Dentistry

歯学部長 Dean, Faculty of Dentistry	田上 順次 Tagami Junji
歯学科長 Director, School of Dentistry	大谷 啓一 Ohya Keiichi
口腔保健学科長 Director, School of Oral Health Care Sciences	吉増 秀實 Yoshimasu Hidemi
附属病院長 Director, University Hospital of Dentistry	嶋田 昌彦 Shimada Masahiko
歯科技工士学校長 Principal, School of Dental Technologists	三浦 宏之 Miura Hiroyuki
口腔保健教育研究センター長 Director, Center for Education and Research in Oral Health Care	髙木 裕三 Takagi Yuzo
事務部長 Director, Administrative Division	中嶋 恒夫 Nakajima Tsuneo
総務課長 Head, General Affairs Section	石橋 秀昭 Ishibashi Hideaki
業務課長 Head, Business Section	田中 孝行 Tanaka Takayuki

教養部
College of Liberal Arts and Sciences

教養部長 Dean, College of Liberal Arts and Sciences	和田 勝 Wada Masaru
事務長 Office Head	古市 和正 Furuichi Kazumasa

生体材料工学研究所
Institute of Biomaterials and Bioengineering

研究所長 Director	山下 仁大 Yamashita Kimihiro
事務長 Office Head	山戸 惠秀 Yamato Suguru

難治疾患研究所
Medical Research Institute

研究所長 Director	北嶋 繁孝 Kitajima Shigetaka
事務長 Office Head	川柳 成巳 Kawayanagi Narumi

附属図書館
University Library

館長 Director	天笠 光雄 Amagasa Teruo
国府台分館長 Director, Kounodai Branch Library	板橋 作美 Itabashi Sakumi
事務長 Office Head	竹内 勉 Takeuchi Tsutomu

医歯学教育システム研究センター
Center for Education Research in Medicine and Dentistry

センター長 Director	奈良 信雄 Nara Nobuo

疾患遺伝子実験センター
Human Gene Sciences Center

センター長 Director	中村 正孝 Nakamura Masataka

先端研究支援センター
Research Center for Frontier Life Sciences

センター長 Director	田邊 勉 Tanabe Tsutomu

機器分析センター
Instrumental Analysis Research Center for Life Sciences

センター長 Director	田邊 勉 Tanabe Tsutomu

アイソトープ総合センター
General Isotope Center

センター長 Director	鍔田 武志 Tsubata Takeshi

医学部附属動物実験施設
Animal Research Center

施設長 Director	湯浅 保仁 Yuasa Yasuhito

国際交流センター
International Exchange Center

センター長 Director	森尾 郁子 Morio Ikuko

情報処理センター
Information Center for Medical Sciences

センター長 事務取扱 Director, Administration Director	高瀬 浩造 Takase Kozo

保健管理センター
Health Service Center

センター長 Director	三宅 修司 Miyake Shuji

スチューデントセンター
Student Center

センター長 Director	谷口 尚 Taniguchi Hisashi

知的財産本部
Intellectual Property Division

知的財産本部長 Director, Intellectual Property Division	宮坂 信之 Miyasaka Nobuyuki

脳統合機能研究センター
Center for Brain Integration Research

センター長 Director	水澤 英洋 Mizusawa Hidehiro

硬組織疾患ゲノムセンター
Hard Tissue Genome Research Center ＊硬組織疾患プロジェクト実施期間中設置

センター長 Director	野田 政樹 Noda Masaki

生命倫理研究センター
Bioethics Research Center ＊国際的な生命倫理学に関する研究創出事業実施期間中設置

センター長 Director	水谷 修紀 Mizutani Shuki

歯と骨のGCOE拠点
Global Center of Excellence for Tooth and Bone Research
＊歯と骨のGCOEプロジェクト実施期間中設置

拠点長 Director	野田 政樹 Noda Masaki

大学院・学部等

Graduate Schools, Faculties

大学院

医歯学総合研究科 Graduate School of Medical and Dental Sciences

理念

21 世紀における国民と国際社会のニーズに応え、医学・歯学の分野での世界的な教育研究の拠点となり、世界をリードする研究者、研究心旺盛な高度専門医療人（アカデミックドクター）を養成する。

修士課程では、出身学部学科で習得した知識・技術を生かしつつ、医学・歯学の幅広い知識を身につけることによって医科学・歯科学の基礎研究の分野で高度の学識を有する人材を養成する。さらに博士課程では、先端的な生命科学分野での指導的研究者、基礎医学と臨床医学の融合を図る臨床指向型研究者、医学・歯学の連携を図る学際型研究者、幅広い学識に基づき全人的診断治療の進歩に貢献できる医療人を養成する。

修士課程

医歯科学専攻 Medical and Dental Sciences

医歯科学専攻 医療管理政策学コース Medical and Dental Sciences, Master of Medical Administration Course

博士課程

口腔機能再構築学系専攻 Oral Health Science

講座	分野		教授・准教授
口腔機能再建学講座 Oral Restitution	口腔病理学	Oral Pathology	山口 朗 Yamaguchi Akira
	細菌感染制御学	Bacterial Pathogenesis	中川 一路 Nakagawa Ichiro
	分子免疫学	Molecular Immunology	東 みゆき Azuma Miyuki
	口腔放射線腫瘍学	Oral Radiation Oncology	三浦 雅彦 Miura Masahiko
	顎口腔外科学	Oral and Maxillofacial Surgery	小村 健 Omura Ken
	口腔放射線医学	Oral and Maxillofacial Radiology	倉林 亨 Kurabayashi Toru
	麻酔・生体管理学	Anesthesiology and Clinical Physiology	小長谷 光 (准) Kohase Hikaru
	疼痛制御学	Orofacial Pain Management	嶋田 昌彦 Shimada Masahiko
	口腔病態診断科学	Diagnostic Oral Pathology	岡田 憲彦 (准) *4 Okada Norihiko
口腔機能発育学講座 Orofacial Development and Function	小児歯科学	Developmental Oral Health Sciences	髙木 裕三 Takagi Yuzo
	咬合機能矯正学	Orthodontic Science	
摂食機能保存学講座 Restorative Sciences	う蝕制御学	Cariology and Operative Dentistry	田上 順次 Tagami Junji
	摂食機能保存学	Fixed Prosthodontics	三浦 宏之 Miura Hiroyuki
	歯髄生物学	Pulp Biology and Endodontics	須田 英明 Suda Hideaki
	先端材料評価学	Advanced Biomaterials	高橋 英和 (准) Takahashi Hidekazu
	有機材料学	Organic Biomaterials	秋吉 一成 *1 Akiyoshi Kazunari
	機能材料学	Functional Biomaterials	岸田 晶夫 *1 Kishida Akio
摂食機能回復学講座 Masticatory Function Rehabilitation	部分床義歯補綴学	Removable Prosthodontics	五十嵐 順正 Igarashi Yoshimasa
	インプラント・口腔再生医学	Oral Implantology and Regenerative Dental Medicine	春日井 昇平 Kasugai Shohei
	全部床義歯補綴学	Complete Denture Prosthodontics	水口 俊介 Minakuchi Shunsuke

＊(注) 所属　*1 …生体材料工学研究所 *2 …難治疾患研究所 *3 …医学部附属病院 *4 …歯学部附属病院 *5 …医歯学教育システム研究センター *6 …疾患遺伝子実験センター *7 …先端研究支援センター

顎顔面頸部機能再建学系専攻 Maxillofacial/Neck Reconstruction

講座	分野		教授・准教授
顎顔面機構制御学講座 Maxillofacial Biology	顎顔面解剖学	Maxillofacial Anatomy	山下 靖雄 Yamashita Yasuo
	認知神経生物学	Cognitive Neurobiology	田岡 三希 (准) Taoka Miki
	分子発生学	Molecular Craniofacial Embryology	井関 祥子 Iseki Sachiko
	分子細胞機能学	Cellular Physiological Chemistry	森田 育男 Morita Ikuo
	分子神経生物学	Molecular Neurobiology	野崎 修一 Nozaki Shuichi
顎顔面機能修復学講座 Maxillofacial Reconstruction and Function	顎顔面外科学	Maxillofacial Surgery	天笠 光雄 Amagasa Teruo
	顎顔面矯正学	Maxillofacial Orthognathics	森山 啓司 Moriyama Keiji
	顎顔面補綴学	Maxillofacial Prosthetics	谷口 尚 Taniguchi Hisashi
	障害者歯科学	Dentistry for Persons with Disabilities	山崎 統資 (准) Yamazaki Tsuneyoshi
	金属材料学	Metallic Biomaterials	塙 隆夫 [*1] Hanawa Takao
	機械学	Biomechanics	高久田 和夫 [*1] Takakuda Kazuo
頭頸部再建学講座 Head and Neck Reconstruction	臨床解剖学	Clinical Anatomy	秋田 恵一 (准) Akita Keiichi
	形成外科学	Plastic, Reconstructive and Cosmetic Surgery	岡崎 睦 Okazaki Mutsumi
	頭頸部外科学	Head and Neck Surgery	岸本 誠司 Kishimoto Seiji
	腫瘍放射線医学	Diagnostic Radiology and Oncology	渋谷 均 Shibuya Hitoshi

生体支持組織学系専攻 Bio-Matrix

講座	分野		教授・准教授
生体硬組織再生学講座 Hard Tissue Engineering	硬組織構造生物学	Biostructural Science	高野 吉郎 Takano Yoshiro
	硬組織薬理学	Pharmacology	大谷 啓一 Ohya Keiichi
	硬組織再生学	Tissue Regeneration	篠村 多摩之 (准) Shinomura Tamayuki
	硬組織病態生化学	Biochemistry	柳下 正樹 Yanagishita Masaki
	分子情報伝達学	Cell Signaling	高柳 広 Takayanagi Hiroshi
	歯周病学	Periodontology	和泉 雄一 Izumi Yuichi
	無機材料学	Bioceramics	山下 仁大 [*1] Yamashita Kimihiro
支持分子制御学講座 Molecular Regulation of Supportive Tissue	細胞生物学	Cell Biology	中田 隆夫 Nakata Takao
	病態代謝解析学	Medical Biochemistry	畑 裕 Hata Yutaka
	運動器外科学	Orthopedic Surgery	宗田 大 Muneta Takeshi

＊(注) 所属 *1…生体材料工学研究所 *2…難治疾患研究所 *3…医学部附属病院 *4…歯学部附属病院 *5…医歯学教育システム研究センター *6…疾患遺伝子実験センター *7…先端研究支援センター

環境社会医歯学系専攻 Public Health

講座	分野		教授・准教授
国際健康開発学講座 International Health Development	健康推進医学	Health Promotion	高野 健人 Takano Takehito
	国際環境寄生虫病学	Environmental Parasitology	太田 伸生 Ohta Nobuo
	司法医学	Forensic Medicine	上村 公一 Uemura Koichi
	国際保健医療協力学	International Health	中村 桂子 (准) Nakamura Keiko
	健康推進歯学	Oral Health Promotion	川口 陽子 Kawaguchi Yoko
	スポーツ医歯学	Sports Medicine/Dentistry	上野 俊明 (准) Ueno Toshiaki
	法歯学	Forensic Dentistry	
	幹細胞医学	Stem Cell Biology	西村 栄美 [*2] Nishimura Emi
	分子疫学	Molecular Epidemiology	佐藤 憲子 (准) [*2] Sato Noriko
医療政策学講座 Health Science Policies	政策科学	Health Care Management and Planning	河原 和夫 Kawahara Kazuo
	医療経済学	Health Care Economics	川渕 孝一 Kawabuchi Koichi
	歯学教育開発学	Dental Education Development	森尾 郁子 Morio Ikuko
	研究開発学	Research Development	高瀬 浩造 Takase Kozo
	医療情報システム学	Health Care Informatics	伏見 清秀 (准) [*3] Fushimi Kiyohide
	歯科医療政策学	Health Policy and Management in Dentistry	
	歯学教育システム評価学	Educational System Dentistry	荒木 孝二 [*5] Araki Kouji

老化制御学系専攻 Gerontology and Gerodontology

講座	分野		教授・准教授
口腔老化制御学講座 Gerodontology	高齢者歯科学	Gerodontology	植松 宏 Uematsu Hiroshi
加齢制御医学講座 Aging Control Medicine	包括病理学	Comprehensive Pathology	北川 昌伸 Kitagawa Masanobu
	統合呼吸器病学	Integrated Pulmonology	稲瀬 直彦 Inase Naohiko
	血流制御内科学	Geriatrics and Vascular Medicine	下門 顕太郎 Shimokado Kentaro
	血管・応用外科学	Vascular and Applied Surgery	河野 辰幸 (准) Kawano Tatsuyuki
	リハビリテーション医学	Rehabilitation Medicine	森田 定雄 (准) [*3] Morita Sadao

＊(注) 所属 *1…生体材料工学研究所 *2…難治疾患研究所 *3…医学部附属病院 *4…歯学部附属病院 *5…医歯学教育システム研究センター *6…疾患遺伝子実験センター *7…先端研究支援センター

全人的医療開発学系専攻　Comprehensive Patient Care

講座	分野		教授・准教授
包括診療歯科学講座 Comprehensive Oral Health Care	総合診療歯科学	General Dentistry	
	歯科心身医学	Psychosomatic Dentistry	豊福 明 Toyofuku Akira
	歯科医療行動科学	Behavioral Dentistry	俣木 志朗 Mataki Shiro
	顎関節咬合学	Temporomandibular Joint and Occlusion	木野 孔司 (准) Kino Koji
全人診断治療学講座 Comprehensive Diagnosis and Therapeutics	臨床検査医学	Laboratory Medicine	奈良 信雄 [5] Nara Nobuo
	救命救急医学	Critical Care Medicine	三高 千恵子 (准) Mitaka Chieko
	心療・緩和医療学	Liaison Psychiatry and Palliative Medicine	松島 英介 (准) Matsushima Eisuke
	薬物動態学	Pharmacokinetics and Pharmacodynamics	安原 眞人 [3] Yasuhara Masato
	臨床医学教育開発学	Medical Education Research and Development	田中 雄二郎 Tanaka Yujiro
	救急災害医学	Acute Critical Care and Disaster Medicine	大友 康裕 Otomo Yasuhiro

認知行動医学系専攻　Cognitive and Behavioral Medicine

講座	分野		教授・准教授
システム神経医学講座 Systems Neuroscience	神経機能形態学	Neuroanatomy and Cellular Neurobiology	寺田 純雄 Terada Sumio
	システム神経生理学	Systems Neurophysiology	杉原 泉 Sugihara Izumi
	眼科学	Ophthalmology and Visual Science	望月 學 Mochizuki Manabu
	耳鼻咽喉科学	Otolaryngology	喜多村 健 Kitamura Ken
	認知システム学	Molecular and Cognitive Neuroscience	
	生体システム制御学	Biosystem Regulation	
脳行動病態学講座 Brain Medical Science	細胞薬理学	Neurobiology and Cell Pharmacology	田邊 勉 Tanabe Tsutomu
	脳神経病態学	Neurology and Neurological Science	水澤 英洋 Mizusawa Hidehiro
	精神行動医科学	Psychiatry and Behavioral Sciences	西川 徹 Nishikawa Toru
	脳神経機能外科学	Neurosurgery	大野 喜久郎 Ohno Kikuo
	神経病理学	Neuropathology	岡澤 均 [2] Okazawa Hitoshi

*(注)所属　*1…生体材料工学研究所　*2…難治疾患研究所　*3…医学部附属病院　*4…歯学部附属病院　*5…医歯学教育システム研究センター　*6…疾患遺伝子実験センター　*7…先端研究支援センター

生体環境応答学系専攻　Bio-Environmental Response

講座	分野		教授・准教授
感染応答学講座 Infection and Bioresponse	免疫アレルギー学	Immunology Allergology	烏山 一 Karasuyama Hajime
	ウイルス制御学	Molecular Virology	山岡 昇司 Yamaoka Shoji
	免疫治療学	Immunotherapeutics	神奈木 真理 Kannagi Mari
	生体防御学	Biodefense Research	樗木 俊聡 [2] Ohteki Toshiaki
	病態細胞生物学	Pathological Cell Biology	清水 重臣 [2] Shimizu Shigeomi
生体応答学講座 Bioregulation	発生発達病態学	Pediatrics and Developmental Biology	水谷 修紀 Mizutani Shuki
	膠原病・リウマチ内科学	Rheumatology	宮坂 信之 Miyasaka Nobuyuki
	皮膚科学	Dermatology	横関 博雄 Yokozeki Hiroo
	代謝応答化学	Pathological Biochemistry	寺岡 弘文 [2] Teraoka Hirobumi
	免疫応答制御学	Immunology	安達 貴弘 (准) [2] Adachi Takahiro
	環境生物学	Cellular and Environmental Biology	原 正幸 (准) [7] Hara Masayuki

器官システム制御学系専攻　Systemic Organ Regulation

講座	分野		教授・准教授
消化代謝病学講座 Digestive and Metabolic Disease	人体病理学	Human Pathology	江石 義信 Eishi Yoshinobu
	消化器病態学	Gastroenterology and Hepatology	渡邊 守 Watanabe Mamoru
	腫瘍外科学	Surgical Oncology	杉原 健一 Sugihara Kenichi
呼吸循環病学講座 Cardio-Pulomonary Diseases	細胞生理学	Physiology and Cell Biology	水島 昇 Mizushima Noboru
	循環制御内科学	Cardiovascular Medicine	磯部 光章 Isobe Mitsuaki
	心肺統御麻酔学	Anesthesiology	槇田 浩史 Makita Koshi
	心肺機能外科学	Thoracic-Cardiovascular Surgery	荒井 裕国 Arai Hirokuni
	循環病態生理学	Cardiovascular Physiology and Pathophysiology	
	生体情報薬理学	Bio-informational Pharmacology	古川 哲史 [2] Furukawa Tetsushi
	分子代謝医学	Molecular Medicine and Metabolism	小川 佳宏 [2] Ogawa Yoshihiro
生体調節制御学講座 Regulation of Internal Environment and Reproduction	腎臓内科学	Nephrology	佐々木 成 Sasaki Sei
	生殖機能協関学	Comprehensive Reproductive Medicine	久保田 俊郎 Kubota Toshiro
	泌尿器科学	Urology	木原 和徳 Kihara Kazunori
	幹細胞制御学	Stem Cell Regulation	田賀 哲也 [2] Taga Tetsuya
	分子薬理学	Molecular Pharmacology	野田 政樹 [2] Noda Masaki
	細胞機能調節学	Molecular Cell Biology	
	形質発現制御学	Functional Genomics	
	エピジェネティクス	Epigenetics	石野 史敏 [2] Ishino Fumitoshi
	発生再生生物学	Developmental and Regenerative Biology	仁科 博史 [2] Nishina Hiroshi

*(注)所属　*1…生体材料工学研究所　*2…難治疾患研究所　*3…医学部附属病院　*4…歯学部附属病院　*5…医歯学教育システム研究センター　*6…疾患遺伝子実験センター　*7…先端研究支援センター

先端医療開発学系専攻 Advanced Therapeutic Sciences

講座	分野		教授・准教授
遺伝子・分子医学講座 Gene and Molecular Medicine	分子腫瘍医学	Molecular Oncology	湯浅 保仁 Yuasa Yasuhito
	血液内科学	Hematology and Oncology	三浦 修 Miura Osamu
	分子内分泌内科学	Clinical and Molecular Endocrinology	平田 結喜緒 Hirata Yukio
	シグナル遺伝子制御学	Signal Gene Regulation	中村 正孝 *6 Nakamura Masataka
	創薬化学 I	Drug Design Chemistry	平野 智也（准）*1 Hirano Tomoya
	創薬化学 II	Medicinal-Chemical Biology	玉村 啓和 *1 Tamamura Hirokazu
	遺伝制御学	Genetic Regulation	木村 彰方 *2 Kimura Akinori
	生命情報学	Bio-informatics	新村 芳人（准）*2 Niimura Yoshihito
	遺伝子応用医学	Applied Genetics	三木 義男 *2 Miki Yoshio
	分子細胞遺伝学	Molecular Cytogenetics	稲澤 譲治 *2 Inazawa Johji
	遺伝子機能医学	Biochemical Genetics	北嶋 繁孝 *2 Kitajima Shigetaka
先端外科治療学講座 Advanced Surgical Therapeutics	肝胆膵・総合外科学	Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	有井 滋樹 Arii Shigeki
	胸部臓器置換学	Thoracic Organ Replacement	坂本 徹 Sakamoto Toru
	整形外科学	Orthopaedic and Spinal Surger	四宮 謙一 Shinomiya Kenichi
	画像・核医学開発学	Investigative Radiology and Endoscopy	大橋 勇（准）*3 Ohhashi Isamu
	診断病理学	Surgical Pathology	明石 巧（准）*3 Akashi Takumi
	先端技術開発医学	Medical Technology	三林 浩二 *1 Mitsubayashi Kohji
	先端機器開発医学	Medical Instruments	安田 賢二 *1 Yasuda Kenji
	人工臓器工学	Artificial Organ Engineering	高谷 節雄 *1 Takatani Setsuo

＊(注) 所属　*1 …生体材料工学研究所 *2 …難治疾患研究所 *3 …医学部附属病院 *4 …歯学部附属病院 *5 …医歯学教育システム研究センター *6 …疾患遺伝子実験センター *7 …先端研究支援センター

寄附講座 Endowed Departments

臨床インフォマティクス講座	Department of Clinical Informatics
薬害監視学講座	Department of Pharmacovigilance
ナノメディスン（DNP）講座	Department of Nanomedicine
脊椎・脊髄再生治療学講座	Department of Regenerative Therapeutics for Spine and Spinal Cord
応用腫瘍学講座	Department of Translational Oncology
歯科睡眠呼吸障害管理学講座	Department of Sleep-Related Respiratory Disorders
生体機能性分子探索学講座	Development of Natural Bioproducts
血管病先進制御学講座	Department of Advanced Regulatory Vascular Surgery
分子肝炎制御学講座	Department for Hepatitis Control
軟骨再生学講座	Department of Cartilage Regeneration
消化管先端治療学講座	Department of Advanced Therapeutics for GI Diseases
睡眠制御学講座	Department of Sleep Modulatory Medicine

保健衛生学研究科 Graduate School of Health Care Sciences

理念

社会構造が複雑化した現代社会において、保健医療従事者は多職種の連携により学際的、国際的な視野から、人々の健康を守るための方法を開発し洗練させ、その成果を世界の隅々まで行き渡らせていく責務を負っている。

保健衛生学研究科では、看護学、検査学に求められた課題への対応を通じて、あらゆる健康問題に取り組む実践能力や、実践に有効な方法を開発する研究能力と共に、優れた人材を育てる教育能力を備えた人材の養成を目指している。すなわち、専門分野ごとの知識・技術に精通すると共に、現場が抱えている問題の把握力、解決力に優れ、実践的な問題意識と学際的な視野に根ざす臨床指向型研究を発展させ、世界の臨床現場に発信していくことのできる高度専門職業人ならびに指導的研究者の養成が本研究科の使命である。

博士課程

総合保健看護学専攻　Comprehensive Health Nursing Sciences

講座	分野		教授・准教授
地域・在宅ケア看護学講座 Community Health and Home Care Nursing	地域保健看護学	Community Health Nursing	佐々木 明子 Sasaki Akiko
	在宅ケア看護学	Home Care Nursing	本田 彰子 Honda Akiko
	リプロダクティブヘルス看護学	Reproductive Health Nursing	大久保 功子 Ohkubo Noriko
	精神保健看護学	Mental Health and Psychiatric Nursing	宮本 真巳 Miyamoto Masami
看護機能・ケアマネジメント開発学講座 Nursing Function and Care Management	生体・生活機能看護学	Fundamental Nursing and Life Support	齋藤 やよい Saito Yayoi
	小児・家族発達看護学	Child and Family Nursing	廣瀬 たい子 Hirose Taiko
	先端侵襲緩和ケア看護学	Critical and Invasive-palliated Care Nursing	井上 智子 Inoue Tomoko
	高齢者看護・ケアシステム開発学	Gerontological Nursing and Health Care System	山本 則子 Yamamoto Noriko
	看護システムマネジメント学	System Management in Nursing	
健康教育開発学講座 Health Education	健康情報分析学	Analytical Health Science	佐藤 千史 Sato Chifumi
	健康教育学	Occupational Health Education	森田 久美子 Morita Kumiko
	国際看護開発学	International Nursing Development	丸 光恵 Maru Mitsue

生体検査科学専攻　Biomedical Laboratory Sciences

講座	分野		教授・准教授
生命情報解析開発学講座 Life Sciences and Bio-informatics	分子生命情報解析学	Biochemistry and Biophysics	原 諭吉 Hara Yukichi
	形態・生体情報解析学	Anatomy and physiological Science	佐藤 健次 Sato Kenji
	生命機能情報解析学	Biofunctional Informatics	松浦 雅人 Matsuura Masato
	生体機能支援システム学	Biophysical System Engineering	若松 秀俊 Wakamatsu Hidetoshi
	疾患モデル生物情報解析学	Laboratory Animal Science	
分子・遺伝子応用検査学講座 Moleculo-genetic Sciences	先端分析検査学	Analytical Laboratory Chemistry	戸塚 実 Tozuka Minoru
	生体防御検査学	Microbiology and Immunology	岡村 登 Okamura Noboru
	分子病態検査学	Molecular Pathophysiology	滝澤 登一郎 Takizawa Toichiro
	先端血液検査学	Laboratory Molecular Genetics	小山 高敏（准） Koyama Takatoshi
	先端生体分子分析学	Advanced Analytical Chemistry	笠間 健嗣（准）*7 Kasama Takeshi

＊（注）所属　*1…生体材料工学研究所　*2…難治疾患研究所　*3…医学部附属病院　*4…歯学部附属病院　*5…医歯学教育システム研究センター　*6…疾患遺伝子実験センター　*7…先端研究支援センター

生命情報科学教育部　Biomedical Science PhD Program
疾患生命科学研究部　Graduate School of Biomedical Science

【教育理念】

1. 教育部・研究部方式を導入することにより、社会的ニーズと教育研究分野の変化に適切に対応した教育と研究を実施する。
2. 進展の著しい生命情報の理解を基礎として、分野融合的な先端的生命科学分野の研究・開発を担う人材を育てるとともに、生命情報解析に基づくマネジメント能力を身に着け実践的問題解決能力を有する人材の養成を目的とする。
3. 複雑な疾患研究領域と先端的な生命科学との融合的学際的分野での実践的な研究を推進する。

【教育目標】

1. 多様なバックグランドを持った学生を集め、学際的生命科学領域の発展を担える人材を養成する。
2. バイオサイエンスの知識に基づいて疾患・健康に関する諸課題の解決に実践的に関与できる人材を養成する。
3. 国際的に多方面の分野で必要とされる人材を養成する。

生命情報科学教育部　Biomedical Science PhD Program

博士課程

バイオ情報学専攻　Bioinformatics

高次生命科学専攻　Functional Biology

疾患生命科学研究部　Graduate School of Biomedical Science

研究部門	分野		教授・准教授
疾患生命情報研究部門 Medical Bioinformatics	疾患ゲノム	Genome Diversity	中島 敏晶（准） Nakajima Toshiaki
	疾患ゲノム	Gene Structure and Regulation	田中 裕二郎（准） Tanaka Yujiro
	システム情報生物学	Computational Biology	田中 博 Tanaka Hiroshi
	プロテオーム情報学	Proteome Informatics	
	疾患情報管理学	Disease Information Management	
	ゲノム情報処理学	Genome Informatics	
応用構造情報研究部門 Applied Structural Biology	分子構造情報学	Structural Biology	伊藤 暢聡 Ito Nobutoshi
	ケミカルバイオロジー	Medicinal Chemistry	影近 弘之 Kagechika Hiroyuki
	ケミカルバイオロジー	Chemical Bioscience	細谷 孝充 Hosoya Takamitsu
高次生命制御研究部門 Functional Biology	細胞機能制御学	Gene Expression	萩原 正敏 Hagiwara Masatoshi
	高次神経科学	Molecular Neuroscience	田中 光一 Tanaka Koichi
	高次生体制御学	Immunology	鍔田 武志 Tsubata Takeshi
	生命システムモデリング	Biosystem Modeling	増田 正 Masuda Tadashi
	生体異物情報学	Immune Recognition	
	発生再生医学	Development and Regenerative Medicine	

医学部

理念

医学部は1951年に設立され、現在は医学科と保健衛生学科からなっている。医学科の授業科目としては、機能形態学、機能協関学、分子遺伝学、感染免疫学、病因病態学、環境社会医学、全人診療学、内科学、小児医学、精神医学、外科学、感覚器医学、皮膚医学、女性医学、尿路生殖医学がある。保健衛生学科は看護学専攻と検査技術学専攻とからなる。看護学専攻の科目には基礎・臨床看護学と地域保健看護学があり、検査技術学専攻の授業科目には基礎検査学と病因・病態検査学がある。

医学科と保健衛生学科は、国内にとどまらず世界の医療現場においてリーダーとなりうる優秀な学生を歓迎する。さらに、本学は他の人々に深い配慮と豊かな想像力を持ち、国民の健康に貢献しようという強い意志を持った学生を求めている。

東京医科歯科大学の3つの教育理念に基づき、医学部の全教職員は学生が学術的・臨床的知識を習得し、臨床の場では高い技術を備えるよう指導するとともに、研究意欲に富み、すぐれた人格と洞察力を持つ医療人を育てるよう努める。本学学生の大多数が、国内・世界の人々に貢献できることを望んでいる。

保健衛生学科の教育理念は、豊かな教養と高い倫理観に基づくものである。自ら学び研究し、創意工夫をすることができる医療人を育て、個々に応じた指導を目指している。学際的視点に立ち看護学・検査学それぞれの領域への専門的な教育を提供している。

医学科 School of Medicine

学科目

機能形態学	Functional Morphology
機能協関学	Physiology and Pharmacology
分子遺伝医学	Molecular Genetics
感染免疫学	Infectious Immunology
病因病態学	Pathology
外科学	Surgery
感覚器医学	Sensory Organ Sciences
皮膚医学	Dermatology and Plastic Surgery

女性医学	Female Medicine
尿路生殖医学	Urology and Reproductive Medicine
環境社会医学	Environmental Social Medicine
全人診療学	Comprehensive Diagnostics
内科学	Internal Medicine
小児医学	Pediatric Medicine
精神医学	Neurology and Psychiatry

保健衛生学科 School of Health Care Sciences

専攻	学科目	
看護学専攻 Nursing Science	基礎・臨床看護学	Fundamental and Clinical Nursing
	地域保健看護学	Community Health Nursing
検査技術学専攻 Medical Technology	基礎検査学	Laboratory Science
	病因・病態検査学	Laboratory Technology

歯学部

歯学科 School of Dentistry

【教育理念】

豊かな人間性を有し、使命感をもって全人的な歯科医療を実践し、国民の健康維持・増進に寄与するとともに、国際的視野から歯科医学・歯科医療の向上に貢献できる指導者を育成する。

【教育目標】

1. 幅広い教養を身につけ、歯科医師としての豊かな人間性を培う。
2. 基本的な科学の原理と概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
3. 科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。
4. 全身を理解した上で、口腔領域の疾患の予防、診断、治療に関する知識と基本的技術を修得する。
5. 社会における歯科医学・歯科医療の役割とその重要性を理解する。

学科目

口腔顎顔面構造学	Oral and Maxillofacial Structure
口腔顎顔面機能学	Oral and Maxillofacial Function
口腔病因病態学	Oral Pathology and Pathophysiology
口腔顎顔面再生医工学	Oral and Maxillofacial Bioengineering
歯科社会医療倫理学	Oral Public Health and Ethics in Dentistry
包括診療歯科学	Comprehensive Oral Health Care
歯科保存・齲蝕制御学	Restorative Dentistry/Cariology
歯周病学	Periodontology
口腔顎顔面外科学	Oral and Maxillofacial Surgery
歯科補綴学	Prosthodontics
高齢者歯科・口腔老化制御学	Gerodontology
口腔機能咬合機能育成制御学	Orofacial Development and Function
障害者歯科・生体管理学	Dentistry for the Disabled/Clinical Physiology

口腔保健学科 School of Oral Health Care Sciences

【基本的理念】
温かく豊かな人間性を有し、口腔保健･福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

【一般教育目標】
口腔保健学科では、次のような一般教育目標の基に教育を行っています。
・生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
・基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
・社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
・心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
・科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
・保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
・口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。

講座	分野		教授・准教授
口腔保健衛生基礎学講座 Fundamental Oral Health Care Sciences	顎口腔基礎科学	Oral and Maxillofacial Biology	
	口腔保健衛生基礎学	Fundamental Oral Health Care Science	杉本 久美子 Sugimoto Kumiko
口腔健康推進統合学講座 Oral Health Care Promotion	口腔健康教育学	Oral Health Care Education	寺岡 加代 Teraoka Kayo
	口腔疾患予防学	Preventive Oral Health Care Science	木下 淳博 Kinoshita Atsuhiro
生涯口腔保健衛生学講座 Lifetime Oral Health Care Sciences	発達口腔保健衛生学	Pediatric Oral Health Care Science	石川 雅章 Ishikawa Masaaki
	成人口腔保健衛生学	Adult Oral Health Care Science	遠藤 圭子（准） Endo Keiko
	高齢者口腔保健衛生学	Geriatric Oral Health Care Science	下山 和弘 Shimoyama Kazuhiro
地域･福祉口腔保健衛生学講座 Community Oral Health Care Science	地域・福祉口腔保健衛生学	Community Oral Health Care Science	吉増 秀實 Yoshimasu Hidemi

附属教育研究施設 Affiliated Educational and Research Facilities

		設置目的
附属歯科技工士学校	School for Dental Technologists	歯科技工に関する高度の技術を授ける
口腔保健教育研究センター	Center for Education and Research in Oral Health Care	口腔保健の需要と供給に関する調査・研究

教養部

理念

東京医科歯科大学教養部は、東京医科歯科大学に入学したすべての学生に、教養教育を実施するために設置されています。教養部は、将来医療の分野で活躍するプロフェショナルに必要なしっかりとした土台を獲得してもらうために、いわゆるリベラル・アーツ教育と一般教育を融合したカリキュラムを組んでいます。

リベラル・アーツ教育は、学生が単なる知識ではなく、歴史、文化、哲学や倫理などの、人の活動によって生じるさまざまな問題を理解することが重要であり、この作業を通して、人に対する正しい理解と、人と向き合う態度を獲得させることであり、一般教育は、広い分野の人文・社会・自然科学に対する基礎的な知識と考え方を獲得させることだと考えています。これによって、本学に入学してくる高い能力をもった学生を、幅広い教養と豊かな感性を持ち、将来にわたって活躍できる有為な医療人への道へ導き、歩ませることができると考えています。

このような教養教育の理念を実現するために、教養部が行う教育のミッションは、次の４つの項目にまとめた能力や技能を、学生に獲得させることだと考えています。
「市民社会の一員として地球と世界を知り、市民社会の一員としての社会的倫理規範・法規範を理解し、他者と自己および社会との関係性を理解し、果たすべき責務を引き受ける能力を身に付ける」
「人文科学、社会科学、自然科学の各領域における学問の特色を理解し、研究の方法論と表現法を修得し、さまざまな視点から自発的に問いかけ、学ぶ能力を身に付ける」
「相互理解のための言語的、身体的コミュニケーション技術および情報を取り扱う技術を習得し、それにふさわしい表現技能を身に付ける」
「医学・歯学の専門教育に必要な基礎学力、論理的思考能力、実験技術、および発表技術を身に付ける」


ヒポクラテスホール（校舎棟）


シャン・ドゥ・コーズリー

学科目		教授・准教授	
哲学	Philosophy	田中 智彦 (准) Tanaka Tomohiko	
歴史学	History		
文学	Literature	土佐 朋子 (准) Tosa Tomoko	
社会思想史	History of Social Thought		
社会学	Sociology	板橋 作美 Itabashi Sakumi	
数学	Mathematics	清田 正夫 Kiyota Masao	
		徳永 伸一 (准) Tokunaga Shinichi	中口 悦史 (准) Nakaguchi Etsushi
物理学	Physics	千葉 司 Chiba Tsukasa	越野 和樹 (准) Koshino Kazuki
化学	Chemistry	岡崎 三代 Okazaki Mitsuyo	奈良 雅之 (准) Nara Masayuki
生物学	Biology	和田 勝 Wada Masaru	服部 淳彦 Hattori Atsuhiko
英語	English	フィリップ マイケル トロモビッチ Philip Michael Tromovitch	
		畔柳 和代 (准) Kuroyanagi Kazuyo	吉田 朋正 (准) Yoshida Tomonao
独語	German	シンチンガー・エミ Shinzinger Emi	
仏語	French	中島 ひかる Nakashima Hikaru	
保健体育学	Health Science and Physical Education	水野 哲也 Mizuno Tetsuya	


銀杏広場の「トシノカラス（鈴木貴雄作）」


ヒポクラテスホール入口吹き上げ壁面の「cyclops（岩田紗恵子作）」


古墳前広場の「変景（山内祈信作）」

生体材料工学研究所

理念

当研究所の前身である歯科材料研究所が昭和 26 年にスタートし、その後、半世紀に渡って歯科材料を含む生体材料学と医用器材の研究に特化した附置研究所として、他に先駆け医歯工連携の歴史を綴ってきました。 この間、昭和 41 年に医用器材研究所として、平成 11 年には現在の生体材料工学研究所（略称：生材研）として発展的に改組・改称され、現在では機能分子、素材、システムの 3 大部門、13 分野に拡大しました。これまでに世界に先駆け、1. 活性型ビタミン D 製剤の開発、2. 抗血栓性ポリマー（MPC）の開発、3. 超弾性型 Ti-Ni 合金ワイヤーの開発、4. 人工アパタイトの製造、などの研究成果を世に出し、基礎から医用デバイス、医療製品の開発に至る、生体材料工学に関する世界の研究拠点として活動してきました。

平成 16 年 4 月より国立大学の法人化に伴い、当研究所は新たに以下の中期計画を策定し、バイオマテリアル・バイオエンジニアリングに関する学際的基礎を深化させ、分子デバイスから人工臓器を包含する先端的応用研究を以下の通り推進しています。

（1）疾病に関する分子情報の集積や機能分子創製による、先端医療ナノバイオサイエンス
（2）バイオインスパイアードマテリアルの創製と応用研究
（3）バイオシステムエンジニアリングの先端医療への応用研究

わが国の研究環境は激変していますが、飛躍のための好機と捉え、世界に冠たる研究機関としての礎を一層強固にしつつあります。また、若い優秀な人材が魅力を感じる研究所作りを目指しています。


生体材料工学研究所

設置目的

生体に用いられる物質及び材料並びに生体工学に関する学理及びその応用の研究

●研究部門			教授・准教授
機能分子研究部門 Biofunctional Molecules	メディシナルケミストリー	Medicinal Chemistry	玉村 啓和 Tamamura Hirokazu
	分子設計	Molecular Design	平野 智也 (准) Hirano Tomoya
	分子制御	Applied Functional Molecules	岸田 晶夫 Kishida Akio
	バイオセンサー	Biosensors	古田 寿昭 Furuta Toshiaki
素材研究部門 Division of Biomaterials	金属材料	Metals	塙 隆夫 Hanawa Takao
	無機材料	Inorganic Materials	山下 仁大 Yamashita Kimihiro
	有機材料	Organic Materials	秋吉 一成 Akiyoshi Kazunari
	生体材料物性	Biomaterials Mechanics	テウボ アンテロ ヘントネン Teuvo Antero Hentunen
システム研究部門 Division of Biosystems	バイオデザイン	Biodesign	髙久田 和夫 Takakuda Kazuo
	情報	Biomedical Information	安田 賢二 Yasuda Kenji
	計測	Biomedical Devices and Instrumentation	三林 浩二 Mitsubayashi Kohji
	制御	Biosystem Regulation	
	生体システム	Artificial Organs	髙谷 節雄 Takatani Setsuo

難治疾患研究所

理念

東京医科歯科大学難治疾患研究所は、難治疾患病態発現の"学理"と"応用"、すなわち、基本原理を理解し、その診断、治療法を開発することを目指している。これらの難治疾患としては、がん、心血管、神経、運動器、代謝、免疫の広範囲にわたる。我々は、また、発生、分化の基本原理や難治疾患の新規治療法の開発をもたらすであろう幹細胞の研究を進展させようとしている。この目的達成のために、分子、細胞、そしてモデル動物までにわたる一流の研究者を集め、その結果、ヒトを含む生物全般に共通して働く分子機構を明らかにし、難治疾患に関わる臨床と実験試料の多大なリソースを集積してきた。

特に、難治疾患研究所は、文部科学大臣による「共同利用、共同研究拠点」の認定制度に基づき、「難治疾患共同研究拠点」認定の有効期間（平成 22 年 4 月 1 日〜平成 28 年 3 月 31 日）として認定された。そのおもなミッションは、以下の通りである。

（1）難治疾患の病因･病態形成機構解明と診断･予防･治療法開発の基盤形成に資する共同利用･共同研究拠点構築を目的とする。
（2）「疾患バイオリソース」、「疾患モデル動物」、「疾患オミックス」の 3 つの難治疾患研究リソースを活用した公募型の戦略的難治疾患克服共同プロジェクトを推進する。
（3）国内外の研究者に、上記のリソース群へのアクセスや現有する先端解析支援施設の利用機会の提供を行ない、本邦の難治疾患研究の広範な発展に貢献する。
（4）難治疾患研究に携わる若手研究者の育成・支援システムを整備する。
（5）シンポジウム等の開催により、難治疾患研究の啓発と最先端情報の発信に努める。

また、本研究所は、医歯学の学生、大学院学生の教育、若手研究者の育成に深く関与するとともに、海外の多くの研究機関との協定を結び、国際的なプラットフォームを形成している。難治疾


難治疾患研究所

設置目的

膠原病その他の難治疾患に関する学理及びその応用に関する研究

●研究部門

			教授・准教授
先端分子医学研究部門 Advanced Molecular Medicine	分子代謝医学	Molecular Medicine and Metabolism	小川 佳宏 Ogawa Yoshihiro
	分子薬理学	Molecular Pharmacology	野田 政樹 Noda Masaki
	分子細胞生物学	Molecular Cell Biology	澁谷 浩司 Shibuya Hiroshi
	分子神経科学	Molecular Neuroscience	
	生体防御学分野	Biodefense Research	樗木 俊聡 Ohteki Toshiaki
	生体情報薬理学	Bio-informational Pharmacology	古川 哲史 Furukawa Tetsushi
	幹細胞制御分野	Stem Cell Regulation	田賀 哲也 Taga Tetsuya
	プロジェクト研究室	Project Research Unit	
難治病態研究部門 Pathophysiology	神経病理学	Neuropathology	岡澤 均 Okazawa Hitoshi
	病態生化学	Pathological Biochemistry	寺岡 弘文 Teraoka Hirobumi
	病態細胞生物学	Pathological Cell Biology	清水 重臣 Shimizu Shigeomi
	発生再生生物学	Developmental and Regenerative Biology	仁科 博史 Nishina Hiroshi
	幹細胞医学分野	Stem Cell Biology	西村 栄美 Nishimura Emi
	免疫疾患	Immunology	安達 貴弘（准） Adachi Takahiro
	分子病態	Molecular Pathogenesis	木村 彰方 Kimura Akinori
	フロンティア研究室（ウィルス治療学）	Frontier Research Unit Virus Research Unit	清水 則夫（准） Shimizu Norio
	プロジェクト研究室	Project Research Unit	堀川 三郎（准） Horikawa Saburo
			山口 登喜夫（准） Yamaguchi Tokio
ゲノム応用医学研究部門 Medical Genomics	分子細胞遺伝	Molecular Cytogenetics	稲澤 譲治 Inazawa Joji
	分子遺伝	Molecular Genetics	三木 義男 Miki Yoshio
	分子疫学	Molecular Epidemiology	村松 正明 Muramatsu Masaaki
	遺伝生化	Biochemical Genetics	北嶋 繁孝 Kitajima Shigetaka
	形質発現	Functional Genomics	
	エピジェネティクス	Epigenetics	石野 史敏 Ishino Fumitoshi
	生命情報学	Bioinformatics	新村 芳人（准） Niimura Yoshihito
	フロンティア研究室（レドックス応答細胞生物学）	Frontier Research Unit. Redox Response Cell Biology	倉田 俊一（准） Kurata Shun-ichi
	プロジェクト研究室	Project Research Unit	坂本 忍（准） Sakamoto Shinobu
			窪田 道典（准） Kubota Michinori
客員研究部門 Division of Integrative Research	病態発現機構	Division of Pathogenetic Regulation	
	機能構築	Division of Biosystem Generation	

附属図書館

理念

学術情報の電子化が進み、情報流通形態が歴史的変革を遂げ、また利用者の情報利用行動が大きく変わりつつある中で、大学図書館には新たな役割が求められている。

特に、強化すべき機能として、1）大学の特色等を活かした戦略的な紙媒体資料の収集・保存の必要性、2）さまざまな学術資料の収集・保存体制の確立・強化、3）電子化を活用した狭隘化等への対策、4）大学図書館における基盤設備の整備の必要性という4点が今後の大学図書館に求められている。

本附属図書館もこれを踏まえ、(1) 情報利用サービスの拡大、(2) 学内情報資源の集約・組織化、(3) 利用者の量的・質的拡大に向けた戦略の3点に重点を置き、下記のとおり構想を重ねている。

（1）情報利用サービスの拡大
- ① 図書目録の電子化
- ② 電子媒体の充実と見直し
- ③ 情報コンセントの設置
- ④ 閲覧座席数の大幅増・多目的化
- ⑤ 医歯学メディアセンター利用者の拡大と導入機器の充実

（2）学内情報資源の集約・組織化
- ① 研究関連情報としては各分野が保管する研究関連資料
- ② 学習内容等を対象とした講義自動集録システムによる e-learning システムの活用

（3） 利用者の量的・質的拡大に向けた戦略
- ① 情報リテラシー教育の拡大
- ② 利用者の多目的なニーズへの対応
- ③ 快適な閲覧空間の創造

また、本附属図書館は、平成22年度に医歯学総合研究棟II期棟3階および4階に移転を計画しており、名称も「医歯学メディアセンター（仮称）」として、これらの構想を踏まえ生まれ変わろうとしている。


閲覧室

●蔵書数

区分	和書	洋書	計
附属図書館 The Main Library	111,485 冊	151,246 冊	262,731 冊
国府台分館 Kounodai Branch Library	66,095 冊	16,705 冊	82,800 冊
計 Total	177,580 冊	167,951 冊	345,531 冊

（平成20年度）（Fiscal Year 2008）

●施設

区分	閲覧室 面積	座席数	書庫	事務室・その他	計
附属図書館 The Main Library	551 ㎡	142 席	880 ㎡	1,192 ㎡	2,623 ㎡
国府台分館 Kounodai Branch Library	280 ㎡	125 席	468 ㎡	285 ㎡	1,033 ㎡

●利用状況

区分	開館日数	入館者数	開館時間		館外貸出冊数	
附属図書館 The Main Library	356 日	179,312 人	平日 9:00 ～22:00	土・日・祝日 9:00 ～ 17:00	学生 5,396 冊	教職員 1,498 冊
国府台分館 Kounodai Branch Library	240 日	41,175 人	平日 9:00 ～20:00	———	学生 1,841 冊	教職員 200 冊

（平成 20 年度）（Fiscal Year 2008）

全国共同利用施設

研究施設	設置目的	教授
医歯学教育システム研究センター Center for Education Research in Medicine and Dentistry	学習知識と態度・技能到達度評価の調査・研究 医学・歯学教育の教育内容およびカリキュラム改善の調査・研究	奈良 信雄 Nara Nobuo 荒木 孝二 Araki Koji

メルボルン大学視察調査
（平成 19 年度文科省委託事業）

スキルスラボでのシミュレーション教育実習

学内共同教育研究施設

研究施設	設置目的	教授
疾患遺伝子実験センター Human Gene Sciences Center	基礎・臨床疾患遺伝子分野に関する教育及び研究	中村 正孝 Nakamura Masataka
先端研究支援センター Research Center for Frontier Life Science		
機器分析センター Instrumental Analysis Research Center for Life Science	機器分析技術の開発、研究、教育および分析機器の利用提供と共同利用の推進	
アイソトープ総合センター General Isotope Center	放射性同位元素等の研究及び教育	
医学部附属動物実験施設 Animal Research Center	動物実験及び動物の飼育管理並びに研究	
情報処理センター （情報医科学センター） Information Center for Medical Sciences	情報医科学の教育及び研究	
国際交流センター International Exchange Center	国際交流に関する統括的な業務の実施及び国際交流の推進	

疾患遺伝子実験センター

国際交流センター

保健管理センター

	設置目的	教授
保健管理センター Health Service Center	保健管理の充実 学生及び職員の健康の保持増進	三宅 修司 Miyake Shuji

附属病院

医学部附属病院 University Hospital of Medicine
歯学部附属病院 University Hospital of Dentistry

理念

大学の基本理念を踏まえ、医学部附属病院（以下、「医学部病院」という。）および歯学部附属病院（以下、「歯学部病院」という。）は、全人的医療人育成の実践的培地であると同時に一流の医歯学研究者、臨床医、臨床歯科医およびコ・メディカル職員が活躍する場と考え、それぞれの使命と責務の達成に取り組んでいる。

附属病院の最終目標は医歯学領域における現在、未来への社会貢献である。ここでいう臨床医歯学の社会貢献とは、

1. 病者に最善の医療を提供して可能な限り発病以前の充実した社会生活ができるようにする
2. 予防医学や臨床的研究成果の活用により疾病の発生を防止する
3. 臨床治療成果を医療へ迅速に展開し、疾患治癒率の向上をはかる
4. 社会的要請に応える実践的医療人の育成
5. 臨床研修施設や大学附属病院において臨床指導を実践する医療人の育成
6. 将来の医療を考え次世代の医療の実践や人材養成を可能とする教育・研究者の育成

などが上げられる。これらを実現するために、

1. 学部学生への充実した臨床教育および卒後臨床研修への厚い指導層と症例数など拡充整備された医療環境の提供
2. 受診者への良質で安全な医療の提供
3. 首都、首都圏、関東甲信越圏などの地域中枢病院との人的・機能的連携ならびに国際的な医療貢献とそのための支援体制の構築
4. 広域な連携病院との臨床治験を含めた臨床研究の実践と広域医療レベル向上策の実施
5. 連合大学との連携による横断的研究体制と学内の基礎医学分野との連携による縦断的研究体制を組み合わせたマトリックス構想による先進医療の開発とその実践
6. 国民への安心・安全な医療提供を目指した病院の安全管理および経営の実学的構築

以上６項目の基本使命を掲げ、各附属病院が今後取り組んでいくべき具体的計画を作成した。

医学部病院では、国内地域医療上の課題への対応と解決策の提示を行うとともに、臨床研究や最先端医療面では国際的観点から、絶えず世界的貢献を視野に難治疾患や難手術などに新たな治療法の確立を目指す。また、歯学部病院では、今後もますます優れた医療人の育成に努め、患者一人ひとりにあった安全で質の高い歯科医療を実践し、口腔の健康増進を通して社会に貢献していくことを目指す。

附属病院の安定した運営は、大学経営にとっても非常に重要であることを踏まえ、継続的な努力を行い、学部学生や大学院生の教育並びに先進的な研究の推進に資する。

3号館・医科新棟

歯科棟・歯科外来事務棟

医学部附属病院 University Hospital of Medicine

病床数 800 Beds

診療科 Clinics

内科系診療部門 Department of Internal Medicine

血液内科	Hematology	老年病内科	Geriatrics
膠原病・リウマチ内科	Rheumatology	消化器内科	Gastroenterology and Hepatology
内分泌・代謝内科	Endocrine, Metabolic, Diabetes	循環器内科	Cardiovascular Medicin
腎臓内科	Nephrology	呼吸器内科	Pulmonary Medicine

外科系診療部門 Department of Surgery

食道・胃外科	Esophageal and Gastric Surgery	心臓・肺外科	Thoracic-Cardiovascular Surgery
大腸・肛門外科	Colorectal Surgery	胸部人工臓器外科	Thoracic Organ Replacement
肝胆膵外科	Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery	泌尿器科	Urology
乳腺外科	Breast Surgery	頭頸部外科	Head and Neck Surgery
血管外科	Vascular Surgery		

感覚・皮膚・運動機能診療部門 Department of Sensory, Motor System Medicine and Dermatology

眼科	Ophthalmology	形成・美容外科	Plastic and Aesthetic Surgery
耳鼻咽喉科	Oto-Rhino-Laryngology	整形外科	Orthopedic Surgery
皮膚科	Dermatology		

小児・周産・女性診療部門 Department of Pediatrics, Maternal and Woman's Clinic

小児科・小児外科	Pediatrics and Pediatric Surgery	遺伝子診療外来	Clinical Genetics Division
周産・女性診療科	Maternal and Woman's Clinic		

脳・神経・精神診療部門 Department of Neurology, Neurosurgery and Neuropsychiatry

脳神経外科	Neurosurgery	麻酔・蘇生・ペインクリニック科	Anesthesiology and Pain Clinic
神経内科	Neurology	心身医療科	Psychosomatic and Palliative Medicine
精神科	Neuropsychiatry		

放射線診療部門 Department of Radiology

画像診断・放射線治療科	Diagnostic Radiology and Oncology

救命救急センター Trauma and Acute Crtical Care Medical Center

中央診療施設等 Department of Internal Medicine

薬剤部 Department of Pharmacy	材料部 Supply Unit	外来化学療法・注射センター Outpatient Chemotherapy Center	高気圧治療部 Hyper Baric Medical Center
検査部 Clinical Laboratory	分娩部 Maternal fetal medicine division	核医学・PET センター Positron Emission Tomography Center	ME センター ME Center
手術部 Operating Center	病理部 Department of Pathology	がん治療センター Cancer Treatment Center	細胞治療センター Center for Cell Therapy
放射線部 Radiological Center	光学医療診療部 Department of Endoscopic Diagnosis and Therapy	医療福祉支援センター Center for Medical Welfare and Support	病歴管理部 Department of Medical Records
輸血部 Hospital Blood Transfusion Center	医療情報部 Department of Medical Informatics	臨床試験管理センター Clinical Research Center	安全管理対策室 Quality Management Section
理学療法部 Physical Medicine Center	血液浄化療法部 Department of Blood Purification	臨床教育研修センター Center for Postgraduate Medical Education	感染対策室 Infection Control Section
集中治療部 Intensive Care Unit	総合診療部 Department of General Medicine		

看護部 Nursing Department

歯学部附属病院 University Hospital of Dentistry

病床数 60 治療台 317 Beds Chair Units

診療科 Hospital Departments

育成系診療科 Clinics for Dentofacial Growth and Development

矯正歯科外来	Orthodontics
小児歯科外来	Pediatric Dentistry

維持系診療科 Clinics for Conservation of Oral and Maxillofacial Function

むし歯外来	Operative Dentistry and Endodontics	頭頸部心療外来	Head and Neck Psychosomatic Medicine
歯周病外来	Periodontics	顎関節治療部	Temporomandibular Joint Clinic
ペインクリニック	Orofacial Pain Clinic		

回復系診療科 Clinics for Oral and Maxillofacial Rehabilitation

口腔外科外来	Oral Surgery	スポーツ歯科外来	Sports Dentistry
顎顔面外科外来	Maxillofacial Surgery	言語治療外来	Speech Clinic
義歯外来	Prosthodontics	インプラント外来	Dental Implant Clinic
顎義歯外来	Maxillofacial Prosthetics		

総合診療科 Clinics for General Dentistry

歯科総合診療部	Oral Diagnosis and General Dentistry	スペシャルケア外来	Special Care Clinic
(専)いびき無呼吸歯科外来	Dental Sleep Clinic	(専)摂食リハビリテーション外来	Dysphagia Rehabilitation
第 1 総合診療室	General Dentistry Ⅰ	息さわやか外来	Fresh Breath Clinic
第 2 総合診療室	General Dentistry Ⅱ	クリーンルーム歯科外来	Cleanroom
第 3 総合診療室	General Dentistry Ⅲ	口腔ケア外来	Oral Health Care
歯科麻酔外来	Ambulatory Anesthesia Service	歯科アレルギー外来	Dental Allergy
歯科放射線外来	Oral and Maxillofacial Radiology		

中央診療施設等 Central Clinical Facilities

検査部 Clinical Laboratory	歯科臨床研修センター Center for Advanced Dental Clinical Education	歯科器材・薬品開発センター Center for Development of Instruments and Drugs in Dentistry	中央器材室 Section of Central Supplies
歯科技工部 Dental Laboratory	地域歯科医療連携センター Center for Clinical Cooperation	中央手術室 Division of Surgical Operation	
感染対策室 Unit for Infection Control	歯科医療情報センター Center for Dental Information	歯科病棟 Dental Ward	

薬剤部 Department of Pharmacy

看護部 Department of Nursing

歯科衛生保健部 Department of Dental Hygiene

●患者数 Number of Patients

区分	入院 Inpatients 延数 Total	1日平均 Per Day	病床稼働率 Bed Occupancy	外来 Outpatients 延数 Total	1日平均 Per Day
医学部附属病院 University Hospital of Medicine	253,020 人	691.3 人	86.4%	516,495 人	2,108.1 人
歯学部附属病院 University Hospital of Dentistry	17,768 人	48.7 人	81.1%	445,518 人	1,833.4 人
計 Total	270,978 人	740.4 人	86.1%	950,082 人	3,877.8 人

(平成 20 年度) (Fiscal Year 2008)

特色ある教育･研究

今年度新規採択プロジェクト
グローバル COE プログラム
教育研究高度化のための支援体制整備事業
大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（総合的連携型）
大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム
看護職キャリアシステム構築プラン
組織的な大学院教育改革推進プログラム
がんプロフェッショナル養成プラン
現代的教育ニーズ取組支援プログラム
大学病院連携型高度医療人養成推進事業
社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
大学院教育改革支援プログラム
科学技術振興調整費
（国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型共同研究））
地球規模課題対応国際科学技術協力事業
若手研究者交流支援事業 ― 東アジア首脳会議参加国からの招へい ―
日中韓フォーサイト事業
新興・再興感染症研究拠点形成プログラム
独創的シーズ展開事業 大学発ベンチャー創出推進
分子イメージング研究プログラム
ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業
日本学術振興会先端研究拠点事業
大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援（総合戦略型））
産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）
特別教育研究経費
政策課題対応経費
大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）
医療管理政策学（MMA）コース
知的財産本部・技術移転センター（TLO）

Current Projects

今年度新規採択プロジェクト

New Projects

2009年度は、以下のプロジェクトが新たな助成対象事業として採択されました。 (平成21年9月1日現在)(September 1, 2009)

◉ 教育研究高度化のための支援体制整備事業
東京医科歯科大学　教育研究国際化・高度化支援体制整備プロジェクト → 48 ページ

本学では、教育・研究・診療を通じた国際貢献を強化することとしており、本事業においては、海外教育研究拠点の形成・整備や各種の国際交流事業を実施します。また、世界的に最先端の基礎研究・臨床研究を展開するための基盤整備を図ることとし、教育・研究高度化や産学連携、若手・女性研究者の支援等の取組を推し進めます。

◉ 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（総合的連携型）
学際生命科学東京コンソーシアムによる全人的大学院人材育成拠点の確立 → 49 ページ

本事業では、東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学の学際生命科学領域が中核となって地域の企業や自治体と連携し、大学院教育の高度化と地域連携を行うことにより、幅広い学識を備え真の社会ニーズを理解して探究できる人材の育成を行うとともに生命科学領域の産官学地域拠点形成を行っていきます。

◉ 大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム
コンピュータによる診療模擬実習の展開 → 50 ページ

本取組では、医療系総合大学の学生が共通して、または相互に学ぶべき症例等に関する教材を、学科を超えて共同開発し、全学科の学生が、時間や空間の制約なく学べる教育システムを構築します。これにより、学生の臨床推論能力、臨床判断能力、問題解決能力、チーム医療実践力を培い、医療人としての学士力を確保します。

◉ 看護職キャリアシステム構築プラン
看護職 IKASHIKA キャリアパスの開発〜メンター・PBL 方式による〜 → 51 ページ

本事業は、自ら考え判断する高度な看護実践能力と質の高い教育力を備えた看護師を養成することを目的としています。そのために看護部と保健衛生学科が連携をとり、メンタリングと問題基盤型学習（PBL）技法を取り入れて、本学オリジナルの「看護職 IKASHIKA キャリアパス」を開発、実施し、各人の目標達成を支援します。

◉ 組織的な大学院教育改革推進プログラム
情報学と生命医学の発展的融合教育の新展開 → 52 ページ

本事業は東京工業大学と東京医科歯科大が共同で、四大学連合（本学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）の実績に立ち、情報科学と生命医学の融合教育プログラムを開発するものです。次世代シークエンス情報に基づくパーソナルゲノム時代の先端医療をリードできる、医科学研究者の育成を目指します。

◉ 科学技術振興調整費（国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型共同研究））
鳥インフルエンザ治療薬の国際共同開発研究 → 61 ページ

研究代表者萩原らが東京医科歯科大学で開発した抗ウイルス薬は、鳥インフルエンザに対しても効果が期待できるので、本国際共同研究に参加するハノイ医科大学およびベトナム国立ワクチン微生物研究所の研究者と協力して開発を推進し、次世代研究者の組織的交流を促すとともに最新の創薬技術の普及と研究者育成を図ります。

◉ 地球規模課題対応国際科学技術協力事業
開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究 → 66 ページ

2008年から本学の研究拠点が設置されているガーナ野口記念医学研究所を中心として、抗ウイルス・寄生虫活性を有する医用植物とその有効成分の研究を実施します。ガーナでは西洋医学の普及が十分でなく、国民の多くが歴史的に普及している生薬伝統医療に頼っている現状から、ガーナ共和国政府も本研究に大きな期待を寄せています。

◉ 若手研究者交流支援事業 — 東アジア首脳会議参加国からの招へい —
医歯学領域の若手研究者育成事業—東南アジア国際医療ネットワークの構築— → 67 ページ

本事業では若手研究者の人材育成を行い、東南アジア諸国において医療ネットワークを構築することを目指しています。若手研究者を継続して支援していくことで、高度専門医療人の育成、医歯学領域の研究・教育・臨床における国際化の推進、日本を中心とした教育者・研究者・医療人の国際ネットワークの形成・強化が期待できます。

◉ 日中韓フォーサイト事業
胃がん発症におけるエピジェネティック変化の関与 → 68 ページ

胃癌は日本・中国・韓国において頻度の高い癌なので、3カ国の研究機関が連携して胃癌症例におけるエピジェネティックな変化（遺伝子そのものには変化は無いが発現が変化する）を解析し、胃癌の新たな診断、予防、治療法を開発します。若手研究者を始めとして、3カ国間の人的交流にも力を入れます。

◉ 特別教育研究経費
パソ・シグナリングバイオロジー推進研究プログラム → 76 ページ

病態の発端となる生命体のシグナル異常“pathogenic signaling”を略しパソ・シグナリングとし、現代の治療困難な疾病の克服を目的として、疾患シグナル研究を推進します。特に高精度・次世代型の質量分析器、分子間相互作用解析装置を導入し、リン酸化蛋白情報とその分子間作用の変化を観察します。

◉ 特別教育研究経費
脳神経・血管制御センターの設立 → 77 ページ

脳神経・血管制御センターは、脳統合機能研究センターの臨床部門であり、今年度当該研究費にて教授と准教授を含む大学院医歯学総合研究科の分野として血管内治療科の新設が認められ、脳脊髄・頭頸部血管性病変の治療や腫瘍性病変の術前塞栓などを対象とするわが国でも有数の総合的血管内治療・研究分野を擁することとなります。

グローバル COE プログラム
Global COE Program

平成 14 年度から文部科学省において開始された「21 世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え方を継承した「グローバルCOEプログラム」に、東京医科歯科大学からは下記のプログラムが採択されました。このプログラムは大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図ること、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し国際競争力のある大学づくりを推進することを目的としています。

歯と骨の分子疾患科学の国際教育研究拠点

事業推進責任者 : 難治疾患研究所　野田政樹　教授

グローバル COE プログラム : 歯と骨の分子疾患科学の国際教育研究拠点 (－デント・メドミクスのインテリジェンスハブ－) の理念は新しい「若手に対する重点教育」による育成システムを創造することである。

本拠点は、2007 年度までの 21 世紀 COE プログラムにおいて、「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」と題して、教育研究活動を行い、世界最高レベルの歯と骨の研究の達成と“スーパースチューデント制度”と“シャペロン制度”を創成し、育成の成果を挙げげた。21 世紀 COE プログラムにおいては、その活動の中心を新たなシステムによる若手育成におき、客観的な評価と英語面接で選抜した大学院生 (スーパースチューデント (SS)) の重点教育と経済支援を行い、同時にシャペロン教員制度として創設したポスドク終了後以上の優れた若手研究員を育成した。また、シャペロン教員が自らの研究を推進するとともに、彼らも SS 大学院生を重点的に教育しつつ、研究を推進させるプログラムを展開した。

21 世紀 COE プログラムの成果として、世界の最先端の研究成果が挙げられ、また国内外の一流の研究機関にて活躍する優秀な若手が育成され、研究レベルの上でも着実な発展を遂げた。臨床的にも本拠点から発表された非侵襲性の治療の研究は特筆すべきであり、その成果は、わが国の多くのメディアをはじめ、全世界に報道された。事業推進担当者は優れた研究を推進し、本拠点から多数の業績を発信するとともに外部資金を充実させ大学院に新たな教育方式を取り入れ、人材を養成するなど研究、教育、診療にわたり本領域の発展に貢献した。

グローバル COE プログラムとして採択された課題は「歯と骨の分子疾患科学の国際教育研究拠点の形成」であり、本グローバル COE プログラムの目的は、世界で最も高齢化の進行する我が国において、人が生きる為に必須の“歯と骨”の疾患の分子病態とその再建・治療について、新たに新領域の研究者を加え最先端の研究をさらに推進し、現在の国際教育推進体制を新設し、次世代を担う「世界で活躍する若手研究者」を育成することである。

生命的な寿命のみならず“健康寿命”をいかに維持するかに重要な“歯と骨”の硬組織は、加齢により量・質共に喪失が進行し、これを完全に止めることは尚困難である。そこでいかにこれを“治療・再建”するかが緊急の課題で、ここに本研究の必要性があり国民の健康上の課題としての重要性が大きい。本拠点の期待される効果は、世界の最先端の“歯と骨”の領域における実績に基づき、

(1) さらにこれまでにない、先導的研究を歯と骨の研究領域に導入し、引き続き世界のトップとして牽引すること
(2) 我が国の“歯と骨に関わる国民の健康増進”に寄与すること
(3) また次世代の国際的に活躍する優秀な若手研究者を育成すること

である。

構想する拠点は、これまでの本領域における実績に加え、その規模と質の両面で高い評価を基盤とした基礎ならびに臨床研究を推進する歯と骨の研究領域における世界最高レベルの教育研究拠点であり、疾患の分子病態のメカニズムならびにその先進的治療法開発を実現する研究を推進し、国際的に活躍する若手研究者を育成するものである。

本拠点の研究活動の重点は

(1) 歯と骨の喪失に至る疾患の分子病態成立のメカニズムの解明
(2) 歯と骨の先進的再建の為の診断治療法の基盤研究の推進
(3) 歯と骨の疾患の機能ゲノム研究の推進

にある。

人材育成としては、本拠点においては以下の2つの柱がある。

若手研究者の養成としては“国際 PI シャペロン (PIC) 制度”で、これは、新たな公募により選抜され、国際的に活躍する自立した研究者を目指すシャペロン型 (大学院生を指導し共に研究する) 若手研究者の育成制度である。大学院生の教育としては“アドバンスト・I・スーパースチューデント (AI-SS) 制度“であり、重点的な大学院教育と経済支援を与えられ、国際的に発展する力をつける選抜された上位の学生の育成制度である。本拠点においては、これまでの大学院教育を発展させ、

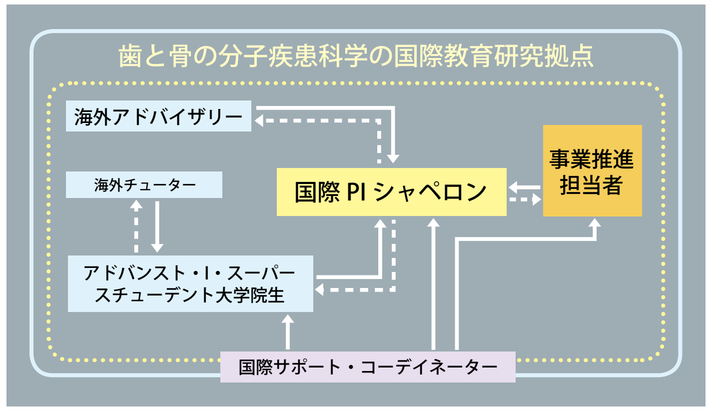
(i) 国際的に活躍する人材
(ii) 国際的に大学院生同士で相互に切磋琢磨する人材
(iii) 個性的な人材

として育成されることを目指す新システムを創設する。

AI-SS 制度においては、新たに、

(1) 国際教育としての国際メンター制度及び
(2) 国際 Interactive プログラム

を通して、一流の研究教育機関であるハーバード大 (米国)、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF、米国)、トロント大 (カナダ) 等の大学院における研究発表会形式の教育に参加し、海外拠点の大学院生との交流ならびに現地海外教員による教育を受け、早期から海外の教育研究環境におかれることによる相互作用を生み出し、本拠点の研究を発信することを目指す。



教育研究高度化のための支援体制整備事業

Project to assist the implementation of a high level research / education system

本事業は、博士課程を設置する大学について、大学教員・研究者、博士課程学生等が安心して教育研究に専念できるよう教育研究業務やプロジェクトマネジメント等を支援する体制を整備することを目的としております。

東京医科歯科大学　教育研究国際化・高度化支援体制整備プロジェクト

事業推進担当者：森田育男　理事（研究担当）

本学では、教育・研究・診療を通じた国際貢献を強化するため、ガーナに「新興・再興感染症研究拠点」を設けるとともに、南米や東南アジアにおいても順次、国際教育研究拠点網を構築しています。さらに、これらの国際化対応の取組に、一層弾みを付けるため、アジア地域の学生・若手研究者を招致するサマープログラム（レクチャー・コース及び国際シンポジウム）などを実施しております。なお、本学では、本年度、企画・国際交流担当理事を本部長とする国際交流推進本部を組織し、また、その実施に当たる組織として留学生センターを国際交流センターに改組しています。さらに、各種事業を推進支援するための事務体制として、本年度から学術国際部を設置し支援を充実しています。

また、本学が、世界的に最先端の基礎研究・臨床研究を展開するためには、基盤整備が喫緊の課題であり、この推進のため、本年度、研究担当理事を室長とする研究支援室を組織し各種研究支援センターの整備充実、若手・女性研究者支援、外部資金獲得支援等を行っています。本事業においては、実験設備等の高度化、研究費管理センターやスチューデントセンターの設置、産学連携の推進とともに、利益相反マネジメント及び研究者規範遵守の徹底など支援体制整備を行い、教員・研究者や学生が安心・安全に教育・研究に専念できるような環境を整え、世界トップレベルの研究拠点としての強化を推し進めています。

主な実施事業は以下のとおりです。

（1）海外教育研究拠点の形成、整備
- ○ガーナ大学（野口研拠点：新興・再興感染症研究拠点）
- ○チリ，ラス・コンデス病院（東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点）
- ○チュラロンコン大学（チュラロンコン大学－東京医科歯科大学研究教育協力センター）

（2）国際交流事業の推進
- ○サマープログラム（レクチャー・コース及び国際シンポジウム）
- ○留学生サポートプログラム（日本語教育）
- ○臨床実習指導教員等の海外研修

（3）国際交流センターの整備充実
- ○国際交流ディレクター等の雇用

（4）教育の高度化支援
- ○スチューデントセンターの設置（新設）
- ○教育用病理解剖標本作成支援及び写真室の整備
- ○動物実験施設設備の充実

（5）研究の高度化支援
- ○研究費管理センターの設置（新設）
- ○外部資金獲得のための要員の増員

（6）産学連携の推進

（7）研究者支援

ガーナ - 東京医科歯科大学「新興・再興感染症研究拠点」（ガーナ大学野口記念医学研究所内に設置）開所式典

「インターナショナル・サマー・プログラム2009」修了証授与式

「スチューデントセンター」における就職支援等相談

大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（総合的連携型）

The "Strategic University Collaboration and Assistance Program for the Enrichment of University Education"

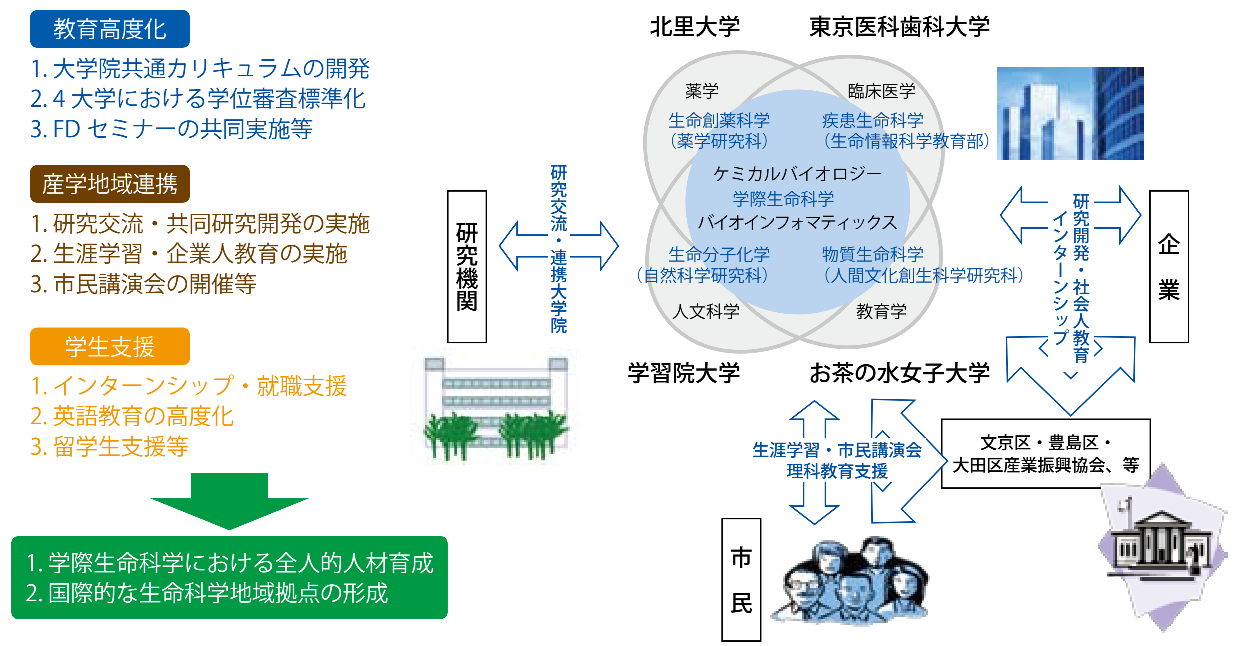
本プログラムは、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、大学運営基盤の強化等とともに、地域と一体となった人材育成の推進を図ることを目的として文部科学省が平成 20 年度から助成しています。平成 21 年度に全国の各大学・短期大学・高等専門学校から 119 件の応募があり、東京医科歯科大学が代表校となって申請した下記の連携取組を含む 38 件が採択され、平成 21 ～平成 23 年度まで実施されます。

学際生命科学東京コンソーシアムによる全人的大学院人材育成拠点の確立

取組責任者：大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

この取組は、学際生命科学分野の高度化において互いに補完的な特色を有し、東京の中心部に位置する東京医科歯科大学、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学の四大学の学際生命科学領域が中核となり、首都圏の様々な研究機関・企業・自治体と連携の輪を広げて産官学地域ネットワークを確立します。さらに、四大学がこのような地域ネットワークと連携しつつ補完的に大学院共通カリキュラムの開発やインターンシップ共同実施、学生支援共同実施等の教育高度化システム構築や地域連携を行うことにより、国・私立の枠を超えて地域と連携した異分野融合的教育研究環境を構築し、幅広い学識を備え真の社会ニーズを理解して探究できる人材の育成を行うとともに生命科学領域の産官学地域拠点形成を行っていきます。

プログラムの実施項目と連携スキーム



大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム

Program for Promoting University Education and Student Support.
Theme A: Program for Promoting University Education Reform.

大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム（大学における教育の質保証の取組の高度化）は、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的としています。本学からは、下記プロジェクトが採択されました。

コンピュータによる診療模擬実習の展開
― 医療専門職の推論・判断・解決・連携能力を向上させる、コンピュータシミュレーション実習 ―

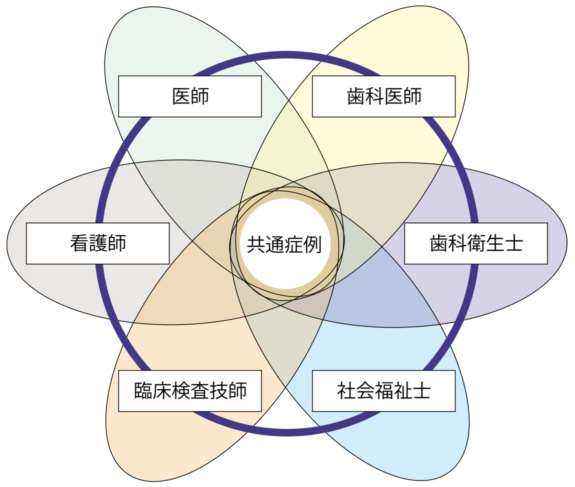
取組担当者：歯学部口腔保健学科　木下淳博　教授

医療人としての学士力（医学、歯学、看護学、保健学、口腔保健学）としては、保健医療活動に必要な専門的知識や技能はもとより、臨床現場での臨床推論能力、臨床判断能力、問題解決能力、チーム医療を実践するための連携能力も特に重要です。臨床現場に必要な推論・判断・解決・連携の能力を修得するためには、実際の患者を担当する臨床実習が最も効果的ですが、臨床実習における学生の経験症例数は十分とはいえません。

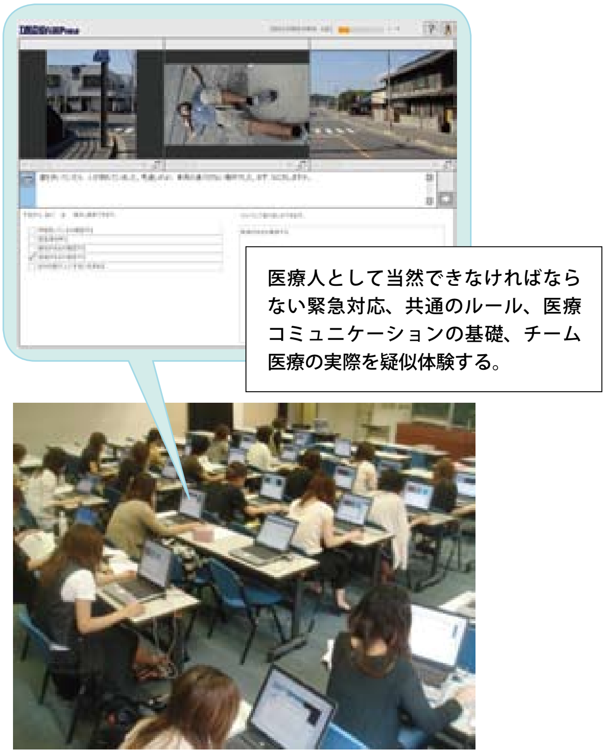
本学ではこれまで、臨床現場に即した多種多様の経験ができるコンピュータシミュレーション教材を独自に作成・活用してきました。しかし、各学科で育成する専門医療職が異なるため、今まではコンピュータシミュレーション教材を学科毎に独立して作成し、学生に活用していました。

本取組では、導入する教材制作・共有システム、診療映像収録・編集装置、教材作成・評価システム（データベース）を、既存のeラーニングシステム、双方向通信装置等と連携させ、情報通信技術の活用を図ることにより、医療系総合大学として、医学科、歯学科、保健衛生学科、口腔保健学科の学生が共通して、または相互に学ぶべき内容、症例等に関する教材を、学科を超えて共同開発し、全学科の学生が、時間や空間の制約なく学べる教育システムに発展させます。

また、臨床現場を疑似体験できるコンピュータシミュレーション教材を充実させることによって、学生の臨床推論能力、臨床判断能力、問題解決能力、チーム医療を実践するための連携能力を培い、医療人としての学士力を確保します。



すべての医療職は、他職種の立場や責務、業務内容や判断根拠を理解しながらチーム医療を実践する。



看護職キャリアシステム構築プラン

The plan of the construction of the career system of nurses

看護職キャリアシステム構築プランは、看護師の人材養成システムの確立を図る大学の取り組みを支援するため、体系立てられた看護教育プログラムの開発、看護用キャリアセンターやスキルスラボ（臨床技能学習のための施設）の整備等の支援を行います。

看護職 IKASHIKA キャリアパスの開発〜メンター・PBL 方式による〜

事業推進責任者：医学部附属病院看護部長　小牟田智子

この取り組みは看護職のキャリアシステムの構築を目的とする文部科学省の新規事業で、大学病院看護部と保健衛生学科が連携して臨床研修方法や体制を開発し、看護職及び基礎教育課程の教育レベルを向上させることによって、効率的・継続的な専門能力の向上を目指すものです。

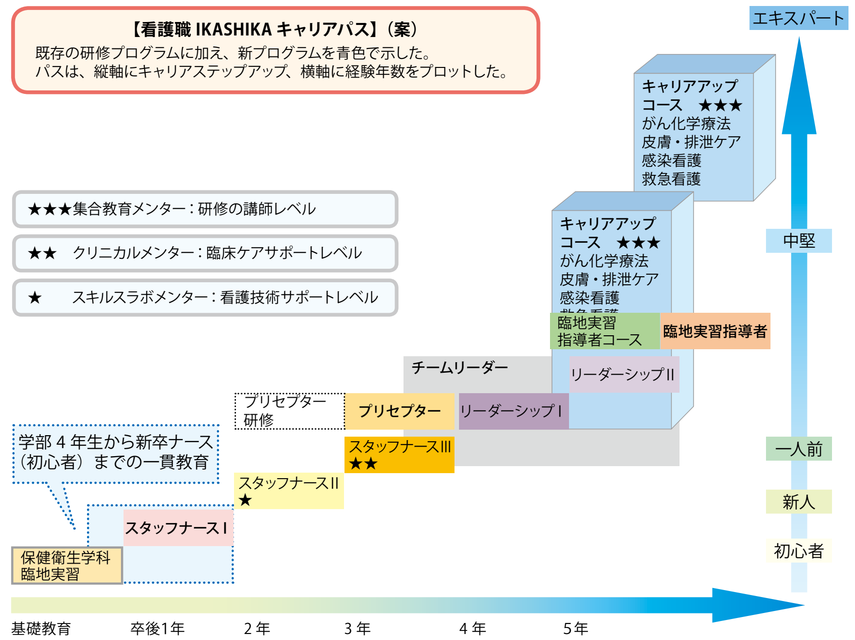
本学のプランにおいてはキャリア形成を系統的、効果的に支援するためにメンタリングと問題基盤型学習（PBL：Problem based learning）技法を取り入れ、本学オリジナルの「看護職 IKASHIKA キャリアパス」を開発、実施し、各人の目標達成を支援することを目指しています。このキャリアパスは、学生からエキスパートに至る看護職発達モデルに基づく一貫した支援システムであり、各段階に明確な到達目標が提示されています。この活用により、学生・スタッフの評価及び、部署毎や病院全体のキャリア能力の把握が可能となります。

具体的には図に示すように、基礎教育からスタッフナースⅠ、スタッフナースⅡからリーダーシップⅡ、キャリアアップコースの3段階を軸とし、メンター教育も取り入れたキャリアパスとなっています。

また、このプランでは、保健衛生学科と看護部との人事交流について重視しています。たとえば看護教員の院内研修制度や看護部職員による看護学生の演習指導、共同運営による院内看護専門窓口の開設等を推進します。

これらのプランを効果的に遂行するために、事業の中核となる「キャリア支援センター」を設置します。当センターは教育・研究・インターンシップ等の役割を担いますが、具体的な活動内容の1つに「看護スキルスラボ（仮称）」の開設及び運用があります。「看護スキルスラボ」とは看護技術のスキルアップを目的とした、各種シミュレータ等を設置した学習施設で、いつでも自由に看護技術を学ぶことができます。また、個人個人のスキルアップを評価できるようにポートフォリオを導入します。

以上のようなプランにより、自ら考え判断し実践する高度な看護実践能力と、質の高い教育力を備えた看護職の育成を目指します。



組織的な大学院教育改革推進プログラム

Program for Enhancing Systematic Education in Graduate Schools

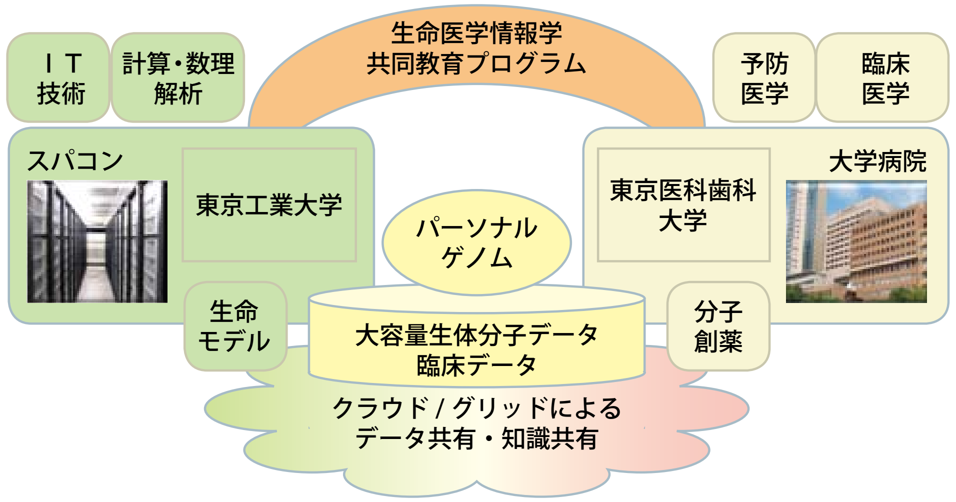
「組織的な大学院教育改革推進プログラム」は、平成 19 ～ 20 年度に実施した「大学院教育改革支援プログラム」を見直し、中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」（平成 17 年 9 月）や「教育振興基本計画」（平成 20 年 7 月閣議決定）等の提言を踏まえ、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化及びこれを通じた国際的教育環境の醸成を推進することを目的としています。

情報学と生命医学の発展的融合教育の新展開

取組実施責任者 : 大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

パーソナルゲノム解析時代に突入した生命科学・先端医療の分野では、ペタバイト級の大量で多様な情報を処理する高度な IT 技術と同時に、生命のシステム的な理解が本質的に必要な段階となっており、情報科学技術分野の人材に期待される部分が極めて大きい。具体的には、1) オミックス医療（プロテオーム等の網羅的分子情報を活用した疾患メカニズムのモデル化）、2) アカデミア創薬（難治疾患をも対象とできるアカデミアを中核とした創薬）、3) パーソナルゲノム情報を活用した健康予防（多因子疾患である生活習慣病や加齢の個別診断や予防）に代表される、情報学と生命医学の異分野融合領域（生命医学情報学）を推進できる人材の育成が求められている。

本プログラムは東京工業大学と東京医科歯科大学が共同で、四大学連合（東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学、平成 13 年に憲章締結）の実績に立ち、情報学と生命医学の融合教育プログラムを開発するものである。異分野の学生と教員が医療の高度化というひとつの目標に向かって切磋琢磨する場を提供することにより、真に社会に必要される技術開発を促進し、異分野融合領域で活躍できる能力を学生に付与することを目指とする。東京医科歯科大学の学生は、東京工業大学の教授陣から、生命ダイナミズムに関する情報概念やスーパーコンピュータ上の並列計算を含む最先端の情報工学を学ぶ。次世代シークエンサーなどが産出する膨大なパーソナルゲノム情報の意味を解析できる能力を身につけ、パーソナルゲノム先端医療をリードできる人材を育成する。



がんプロフェッショナル養成プラン

Human Resource Development Plan for Cancer

本学が中心となって申請し文部科学省に採択された「がん治療高度専門家養成プログラム」を開始して３年目に入りました。履修要項および各コースの授業科目やシラバスが整備され、本プログラムは連携大学および医療機関との実質的な組織体制のもとに運営されています。この事業は、文部科学省が全国国公私立大学に「がんプ ロフェッショナル養成プラン」として公募したもので、大学のがん治療の教育を活性化し、がん医療を担う医療人養成を推進させるために、質の高いがん専門医等を養成し得る優れたプログラムに財政支援を行うというものです。全国で 18 件のプログラムが採択されています。

がん治療高度専門家養成プログラム

事業推進責任者 : 大学院医歯学総合研究科長　大野喜久郎　教授

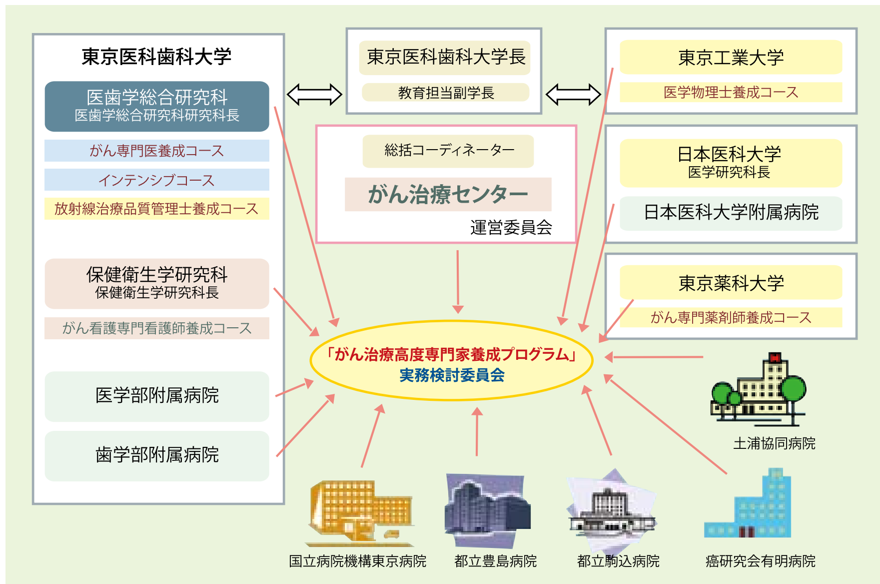
がんは、わが国の死亡率第 1 位の疾患ですが、診断から種々の治療、そして終末期にいたるまで総体としてチームによりがん医療を行う体制が整っておらず、その構築が急務と思われます。そのためには、がん医療を担う高度な知識や技術を持つ専門医のみならず、がん医療に携わるコメディカルも含めて、がん医療に特化した医療人を養成する必要があります。

本プログラムの特徴は、組織体制として、コーディネーターを中心に、本学大学院医歯学総合研究科・保健衛生学研究科ならびに医学部附属病院・歯学部附属病院、日本医科大学医学研究科および附属病院、東京工業大学大学院医歯工学特別専攻、東京薬科大学、そして連携医療機関から構成されることです。連携医療機関は、東京都立駒込病院、癌研究会有明病院、東京都立豊島病院、独立行政法人国立病院機構東京病院、土浦協同病院となっています。

本プランのがん専門医療人養成計画のコースは大きく 3 つに分かれています。一つは、がん医療に携わる専門医師養成コースで、この中にはがん放射線療法専門医師コース、がん化学療法専門医師コース、がん緩和ケア専門医師コースがあります。二番目のコースは、がん医療に携わる専門のコメディカル養成コースで、がん看護専門看護師養成コースと医学物理士および放射線治療品質管理士養成コースを設けています。三つ目は、がん医療に携わる専門医師等の研修（インテンシブ）コースで、すでにがん治療に従事している医師の専門分野に対応する養成コースです。平成 20 年度から、本プログラムの履修要項ならびにシラバスに基づき、各コースの授業が始まっています。

本学は、これから、各科が個別にがんの治療を行うということではなく、また手術治療後に補助療法として放射線療法、化学療法などを行うというだけではなく、患者さんの全てを総体として捉え、関与する医師やコメディカルらの医療人がチームとして最も良い方法でがんに対する診断から治療の後のあらゆるケアのところまで行うことを考えられる、すなわちがんに対して一貫した医療を行うことができる、人と体制作りを目指しています。

がん治療高度専門家養成プログラム



現代的教育ニーズ取組支援プログラム
Support Program for Contemporary Educational Needs

現代的教育ニーズ取組支援プログラムは、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト（取組）を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。本学からは下記プロジェクトが採択されました。

ICT 活用教育と従来型臨床現場実習の連携

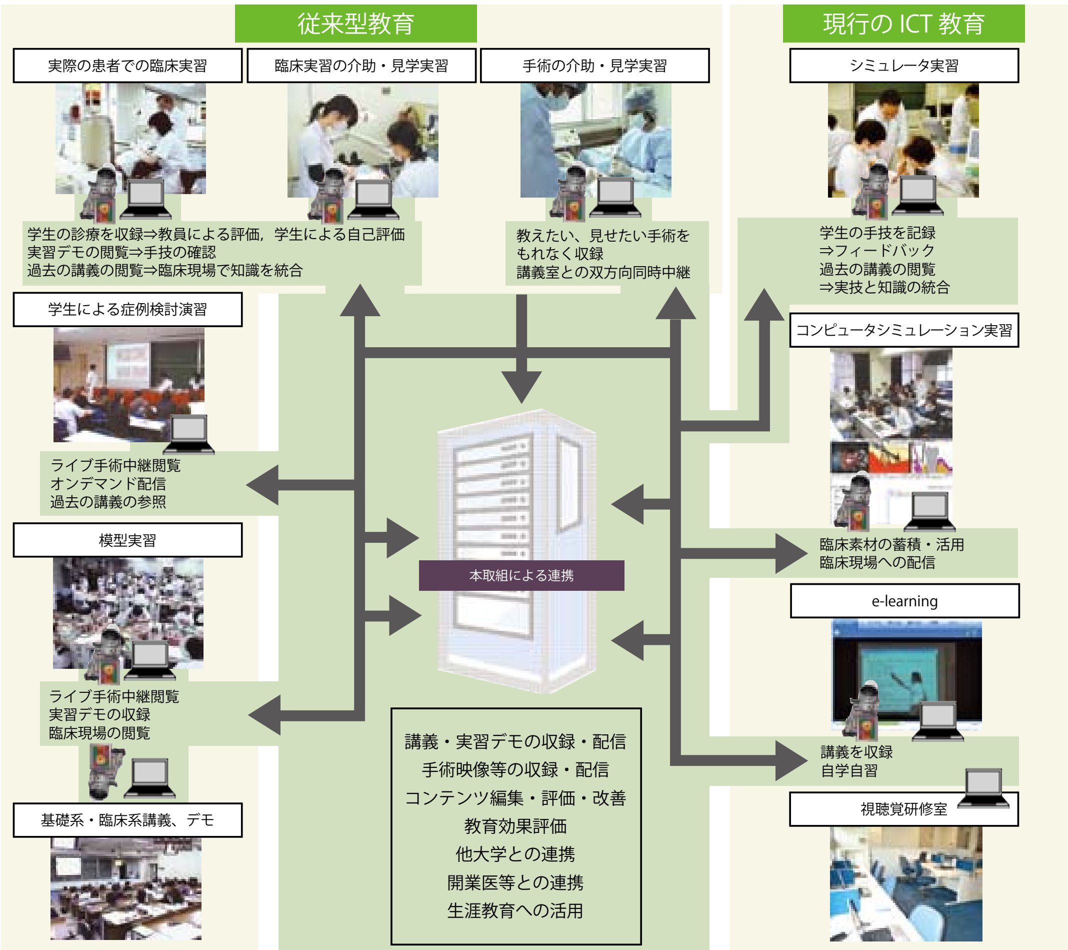
取組責任者 : 歯学部長　田上順次　教授

本学歯学部では創立以来、実際の患者を担当する臨床実習、マネキンによる模型実習を行っています。また、ICT（Information and Communication Technology）を活用し、シミュレーション実習、e-learning による収録講義の配信、課題提出、オンライン試験等を導入してきました。

本取組では、現在独立して実施されている ICT 活用教育と従来型の臨床実習、模型実習、講義を、複数のサーバを介して相互に連携させる新しい教育システムを開発・構築します。

第一の柱は、ICT 活用コンテンツの充実を図ることで、①臨床現場における処置・手術、②模型実習室でのデモ、③講義室での講義、④学生実習室で学生が行う模型実習・臨床実習手技等を映像自動収録装置によって日常的にもれなく収録、蓄積、評価します。第二の柱として、これら ICT 活用コンテンツをオンデマンド配信し、現行の教育との連携を図り、学年進行に合わせたフィードバック、自己評価、自己研鑽を推進します。

これにより、臨床直結型で臨場感のある歯学教育を確立し、自己問題提起・解決のできる、臨床能力に優れた人材を育成します。



大学病院連携型高度医療人養成推進事業
University Hospitals Collaborative Project to Develop Advanced Medical Specialists

本事業は、複数の大学病院が緊密に連携・協力しそれぞれの得意分野での相互的な補完を図ることで、各病院等を循環しながら修練や幅広い経験を積むことができる医師キャリア形成システムを構築するとともに、大学病院の若手医師に多様なキャリアパスを明確に示すことにより、若手医師が将来に希望を持ちながら安心して研修に専念でき、国民の要請に応えられる質の高い専門医や臨床研究者の養成に貢献することを目的としています。

都会と地方の協調連携による高度医療人養成 ―「付加価値」を身につけるテーラーメイド研修 ―

取組責任者 : 医学部附属病院長　坂本 徹　教授

平成 20 年度「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」で選定された「都会と地方の協調連携による高度医療人養成」は、首都圏と医療過疎地の医療の連携により、専門医および家庭医を育成する取組です。

東京医科歯科大学・秋田大学・島根大学の医学部は、それぞれ高度先進医療機関である附属病院と豊富な関連病院が一体となって、地域の医療を担う医師を輩出してきました。

この 3 大学は、昨年度より広域連携臨床研修プログラムを創設し（初期）臨床研修における連携を既に開始しました。これを踏まえ、新たに専門医および家庭医育成においても連携することとなりました。

3 大学が新たに提供する①短期（3 ヶ月）および②長期（1 年）パッケージ研修を活用することにより、付加価値のある専門医または家庭医になるための研修が可能となります。また、3 大学は（社会人）大学院を有し、後期研修の過程で発見した課題を、研修を継続しつつ研究に昇華・発展させる道も開いており、専門医に加え学位取得も可能です。

さらに、首都圏と医療過疎地という、全く異なる診療圏の医療を体験し、大きく視野を広げることも可能となります。

指導体制としては、大学病院においては屋根瓦方式の導入により、若手医師は、教育経験豊富な指導医から高度先進医療の指導を受けるとともに、初期臨床研修医や学生へ指導を行うことで、自らの知識・技術を定着させることができます。

また、情報共有のために、テレビ会議システムおよびオンラインネットワークを構築し、Web ベースの共通評価が可能となる電子ポートフォリオを運用します。その結果、研修先が変わっても指導の一貫性が担保される体制となります。さらに、短期および長期パッケージ研修というプログラムを導入することで、個々の補助金により滞在費・交通費が登録研修医に援助されます。

昨年度より開始された本事業は、大学間相互の派遣人数が 9 名を数え、個々に最適なテーラーメイドプログラムが実働を開始しています。

都会と地方の協調連携による高度医療人養成

パッケージ研修プログラム

社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
Remedial Training Program

社会人の「学び直し」のニーズに対応するため、大学、短期大学、高等専門学校における幅広い教育研究資源を活かした優れた学習プログラムを開発・実施することにより、学び直しに資する良質な教育プログラムの普及を図り、再チャレンジを可能とする柔軟で多様な社会の実現を目指します。

医師不足、診療科偏在の解消に向けたママさんドクター・リターン支援プログラム

事業推進責任者：医歯学教育システム研究センター（MD センター）長　奈良信雄　教授

医師不足・診療科偏在の解消を目指し、出産、子育てなどのため一時離職していた女性医師の臨床現場への復帰を支援するため企画した文部科学省委託事業である（平成 20 年 9 月 16 日から 23 年 3 月 31 日まで）。プログラムは 2 週間、最新医学講義とスキルスラボにおけるシミュレーション実習を東京医科歯科大学で 1 週間受け、臨床実習を青梅市立総合病院（原義人院長）で 1 週間受ける。プログラムは内科、小児科、産婦人科の 3 コースをそれぞれ年 3 回ずつ施行している。

内科コース講義は奈良(医療安全)が企画し、三宅修司教授(呼吸器内科)、東邦大学・藤代健太郎教授（循環器内科)、荒木葉子・女性研究者支援室特任教授（復帰支援)、都立墨東病院消化器内科・藤木和彦部長（消化器内科)、山脇正永准教授（神経内科)、せいきょう診療所・錦織麻紀子先生（一般内科)、鈴木利哉・MD センター准教授（血液内科)、別府正志・MD センター講師（中医学）が担当している。シミュレーション実習は鈴木准教授が指導している。青梅市立総合病院では高野省吾・総合内科部長が臨床実習を指導している。

小児科コース講義は発生発達病態学・水谷修紀教授、森尾友宏准教授が企画し、奈良（医療安全)、荒木特任教授（復帰支援)、曙町クリニック・泉田直己先生（小児循環器)、東京ベイ・浦安市川医療センター・神山潤センター長（小児神経病)、磯田健志先生（小児血液病、小児感染症)、錦織先生（一般小児科）が担当している。シミュレーション実習は鈴木准教授が指導し、青梅市立総合病院では横山美貴小児科科長が臨床実習を指導している。

産婦人科コース講義は生殖機能協関学・久保田俊郎教授が企画し、奈良（医療安全)、別府講師、国立がんセンター中央病院婦人科・加藤友康医長、錦織先生（復帰支援)、須藤乃里子先生、岩原由樹先生、鳥羽三佳代先生が担当している。シミュレーション実習は鈴木准教授と別府講師が指導し、病棟・外来実習は本学医学部附属病院において石川智則病棟医長が指導している。

シミュレーション実習は心音聴診、呼吸音聴診、静脈採血、外科縫合、直腸診、胸腔穿刺、腰椎穿刺、上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、中心静脈穿刺、救命救急実習など系統立てたプログラム内容である。産婦人科コースでは内診、経膣超音波検査なども行われる。参加者からは「医学生のときに外科縫合の訓練を受けたことはなかった。このように系統的な内容の臨床スキル訓練を受けたかった。」というプログラム内容を高く評価する意見が大部分であった。

最終日は本学で筆記試験に引き続いて OSCE を行う。筆記試験、OSCE、ポートフォリオ（青梅市立総合病院での実習内容の報告）による総合評価から、修了レベルに達していると判断された場合に修了証を授与している（図1）。

今までに内科コースに7名、小児科コースに 5 名、産婦人科コースに4名の参加者があった。修了後、参加者は外来クリニックや健康診断を手伝い、積極的に社会復帰している。子供の面倒をみるために当直義務のある病院に就職することは難しく、外来業務につく者が大部分である。開始して 1 年が経つが、いまだプログラムの存在が周知徹底されていない。いかに多数の復職希望女性医師に参加してもらうことができるかが今後の課題である。

紹介 URL：http://www.tmd.ac.jp/mdc/mama/gaiyou.html

図1　スキルスラボでの修了証授与。奈良

社会的なニーズに対応した歯科衛生士および歯科技工士への再教育プログラム

取組責任者：歯学部附属口腔保健教育研究センター長　高木裕三　教授

この取組では、就労中あるいは再就労を希望する歯科衛生士と就業歯科技工士に、最新のエビデンスに基づいたスキル向上を図る再教育プログラムを提供し、就業者にはスキルアップと離職の抑制を図り、離職者には再就労の促進を図ります。

このプログラムには歯科衛生士コースと歯科技工士コースを設け、それぞれ昨今の医療の急激な変化に対応する科目横断的教育カリキュラムを設定しています。平成 16 年度から歯科衛生士教育が 2 年制から 3 年制以上へと移行しつつあるのを受けて、歯科衛生士コースでは過去に 2 年制の教育をうけた歯科衛生士が対象になります。また、歯科技工士コースでは卒後満 2 年から 10 年までの就業歯科技工士が対象になります。

受講生には問題解決型教育を行い、単なる知識・技術の習得だけでなく、自学自習の態度が身に付くように教育を行います。また、講義・実習の教育効果を高めるために、職場あるいは自宅からインターネットを介した遠隔教育・e-learning が利用できる環境を提供しています。

中堅看護職のキャリアトランジションニーズに対応した学び直し教育プログラム

取組責任者：大学院保健衛生学研究科　本田彰子　教授

プログラム概要

本教育プログラムは、看護師として実務経験があり、現場復帰および活動範囲の拡大をめざしている者、また、現在実務についているが更なる職業人としての実践能力の向上、および専門領域での自立をめざしている者に対して、社会人としての継続した学習姿勢を持ち、自ら教育学習を企画運営できる自立した看護職の育成、および専門職者として納得できる働き方を実現するキャリアトランジションを果たせる看護職の育成を目的とする。

また、本プログラムは、看護職者のキャリアトランジションニーズに基づき、学び直しの基礎となるジェネラリスト養成コースと4つの専門コース（在宅看護専門･助産師専門･研究･臨床指導）を設置し、独自のプログラム内容に加え、学部・大学院における教育資源を活用するものである。

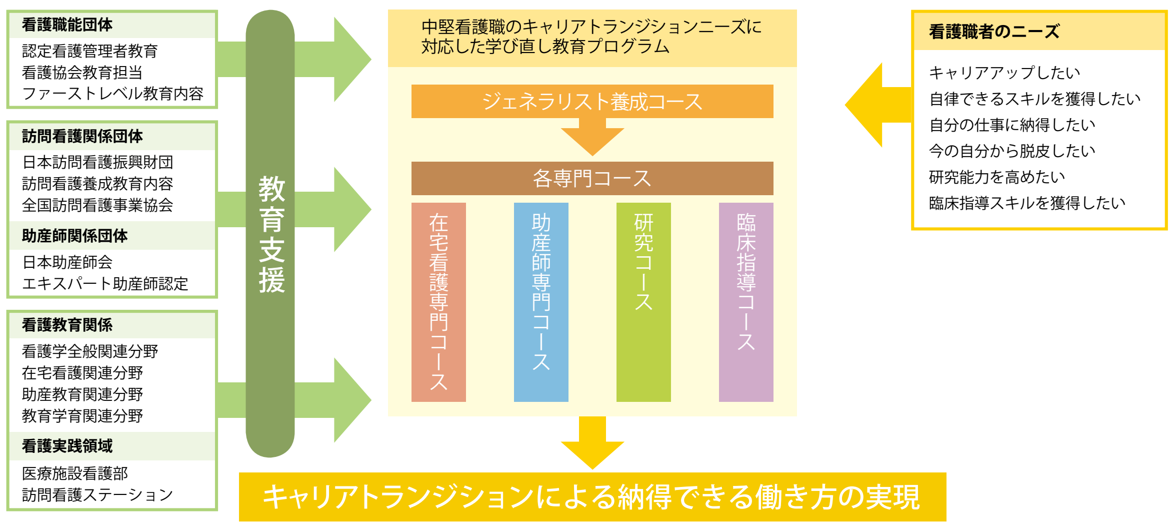
プログラム受講を契機として、質の高い生涯学習への更なるチャレンジにつなげる、また履修証明を協力団体の認定する専門資格の取得に活用し、新たなトランジションの実現（フォローアップコース、認定看護師教育課程、大学院進学等）を可能にする。

教育目標

「専門職として納得できる働き方を実現すること」、および「専門職としての転換期を自立的に乗り越える能力を身につけること」を長期的教育目標とし、そのために本事業においては、プログラム実施期間内の以下の短期的教育目標の達成を目指す。

①自立的、主体的学習姿勢を持ち、社会人としての学習方法を習得する。
（ジェネラリスト養成コース）
②専門領域における看護実践の展開、およびマネジメント能力を習得する。
（在宅看護専門コース）（助産師専門コース）
③看護実践の発展に関わる教育的能力、および探究的能力を習得する。
（研究コース）（臨床指導コース）

プログラムの仕組み



大学院教育改革支援プログラム
Support Program for Improving Graduate School Education

大学院教育改革支援プログラムは、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化を推進することを目的としています。また、採択された取組を広く社会に情報提供することで、今後の大学院教育の改善に活用します。

国際産学リンケージプログラム

取組実施担当者：大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

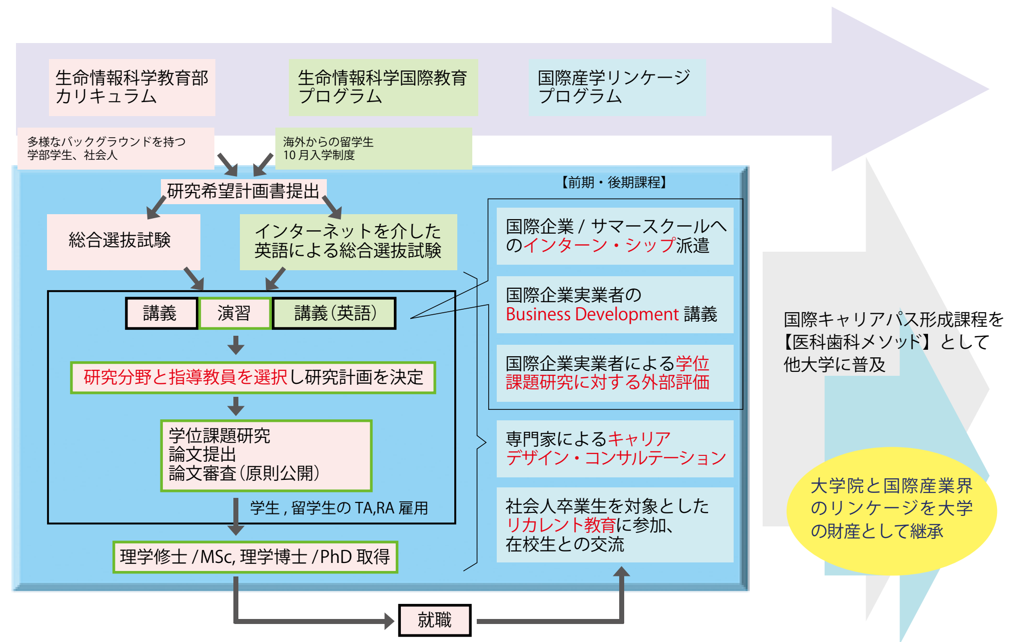
本学大学院生命情報科学教育部は異分野融合型を目指し、疾患を指向した最先端の生命科学の教育を目的としたプログラムを整備してきました。発足後は「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に「生命情報科学国際教育プログラム」が採択され、大学院教育の国際化を実現することにより、英語で討論をリードし活発に発言する新しいタイプの研究者が養成されてきています。

「国際産学リンケージプログラム」は、この国際的なコミュニケーション能力を、国際産業界で活用できる総合的実践力にまで高め、社会のニーズに適合した国際キャリアパス形成について修業年限内に準備できるよう組織的に支援するものです。これまでの生命情報科学教育部のカリキュラムで養成された基礎力に対して、本教育プログラムはそれを結実させる応用編として位置づけられます。

これまでのカリキュラムでは座学と演習が中心でありましたが、本教育プログラムはケーススタディ体験型コースとして実現されることが特徴です。学生自らが企画して、国際企業へのインターン・シップを実施しています。国際社会のリアルタイムの動向と求められる人材像を、国際的企業や研究所の現場に滞在し、体験的に学習することを目標としています。インターン・シップが単なる見聞に終わらぬよう、事前にキャリアパス形成に関する専門家のコンサルテーションを実施し、明確な目的と豊かな知性を持ってインターン・シップに臨むためのカリキュラムも整備しています。さらに、国際産業界と連携して国際産学スクールを開催し、ビジネス戦略について学び国際産業界と会話する力を鍛えるよう指導します。

このように本プログラムでは、国際産業界と大学院のリンケージを重点的に整備して、養成した人材の国際社会貢献を支援しています。

組織的大学院教育、国際化、社会要請に応える人材養成へと発展



大学院から医療現場への橋渡し研究者教育

取組実施担当者：大学院医歯学総合研究科　田上順次　教授

従来、医歯学系大学院では生命科学と医歯工学が研究・教育の主要な柱とされてきました。しかし、近年では生命科学が医療の発展に大きな役割を果たしていることから、大学院教育も生命科学に特化し、高度化する傾向があります。外科系や多くの歯科系が含まれる機能再構築学系と機能再建学系の臨床医歯学でも、医療の発展に生命科学が大きく関っています。しかし、これらの臨床では医用材料や医用機器、さらには医療技術が診療結果を大きく左右しており、先端医療の開発等による医療の高度化に医歯工学研究が不可欠となっているのも事実です。

本大学院教育改革プログラムでは、通常の医歯学系、生命科学系、工学系科目のうち工学系科目を再編し、系統的教育を行って大学院から臨床現場への橋渡し役となる工学的センスを持った医療人研究者の養成を行います。従来も学内外で医歯工連携教育はされていましたが、理工系学生のための教育が主で、医師・歯科医師への系統的な教育は行われていませんでした。本プログラムは医師・歯科医師のためのプログラムであり、生体材料工学研究所が医歯系大学では国内唯一設置されている本学だからこそ可能なプログラムです。

大学院から医療現場への橋渡し研究者教育

特　徴
○生命科学教育に偏重しない工学的センスを持つ医療人の養成
○医師・歯科医師のための医歯工連携教育

目標とする人材像
○工学的センスを持ち、医療現場と研究開発現場を橋渡しできる医歯学研究者・臨床家
○先端医療機器・医療デバイスを自在に使いこなせる医師・歯科医師
○国際的視野で行動（国際的リーダーシップ）できる人材

医歯学総合研究科と生体材料工学研究所の実質的連携が構築できる本学でのみ可能なプログラム

先端医療の安全・安心化
医療事故の撲滅
医療現場のニーズを反映した研究開発

科学技術振興調整費
（国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型共同研究））
Special Coordination Funds for Promoting Science and Technology

科学技術振興調整費は、科学技術会議の方針に沿って科学技術の振興に必要な重要研究業務の総合推進調整のための経費として、昭和 56 年度に創設されたもので、各省庁、大学、民間といった既存の研究体制の枠を超えた横断的・総合的な研究開発の推進を主たる目的としています。

鳥インフルエンザ治療薬の国際共同開発研究

研究代表者：大学院疾患生命科学研究部　萩原正敏　教授

ベトナムでは現在も、旧来の日本の農家のように家禽は人家と近接して飼育されているため、ヒトへの感染例もインドネシアと並び世界最多で、高病原性鳥インフルエンザの脅威は現実となりつつある。研究代表者らが東京医科歯科大学で開発した抗ウイルス薬は、宿主細胞の蛋白リン酸化酵素を標的とし、鳥インフルエンザウイルスに対しても効果が期待できるので、両国の研究者が協力して開発を推進し、次世代研究者の組織的交流を促し、最新の創薬技術の普及と研究者育成を図る。

研究代表者は国際医療センターや感染症研究所とも密接な共同研究を行っており、両国の研究機関のネットワークと連携強化が期待される。またハノイ医科大学はベトナム社会主義共和国医療省と密接な連絡・協議を行っているので、本国際共同研究が実施されればベトナム医療省の全面的な協力を得られる可能性が高い。

高病原性鳥インフルエンザのパンデミックは国境を越えた世界的脅威であり、両国の研究機関が相互補完的に密接に協力して新規抗ウイルス薬を共同研究開発する必要がある。本プロジェクトでは、抗鳥インフルエンザ薬開発という目標を共有して先端技術開発を行い、同時に人材の養成と研究者の交流を進めようという、従来にない仕組みの国際共同研究である。鳥インフルエンザのヒトへの感染症例はベトナムのみならず、インドネシアや中国南部で多発しており、世界的な問題となっている。本国際共同研究の成果は、アジア諸国を中心に関係諸外国において活用され、国際臨床試験等を通じて協力関係の強化・構築へ発展できるものと予想される。

国際共同開発研究実施体制

（1）鳥インフルエンザ治療薬の合成と作用機序の解明
（代表機関：国立大学法人東京医科歯科大学）
1）鳥インフルエンザ治療薬の合成（担当：細谷孝充・教授）
2）鳥インフルエンザ治療薬の作用機序解明（担当：奥野友紀子・助教）
3）鳥インフルエンザ治療薬の構造最適化（担当：萩原正敏・教授）
4）標的構造解析、創薬研究者、技術者の育成（担当：伊藤暢聡・教授）

（2）鳥インフルエンザ治療薬投与後の効果分析
（国外参画機関：ハノイ医科大学）
ハノイ医科大学に新設予定の分子生物学研究室の設備を利用して、定量 PCR などにより鳥インフルエンザウイルスの体内変化を定量化するとともに、病理切片を作成し免疫組織染色により、組織変化を観察する。
（担当：Loi Do Doan 副学長）

（3）鳥インフルエンザ治療薬の in vivo 評価試験
（国外参画機関：国立ワクチン・微生物研究所）
鳥インフルエンザ感染鶏実験系を樹立して、鳥インフルエンザ治療薬候補物質を鳥インフルエンザウイルス感染鶏（総計 60 羽を予定）に投与し、体温、体重、食餌摂取量などを測定する。（担当：Le Van Phung 所長）

科学技術振興調整費

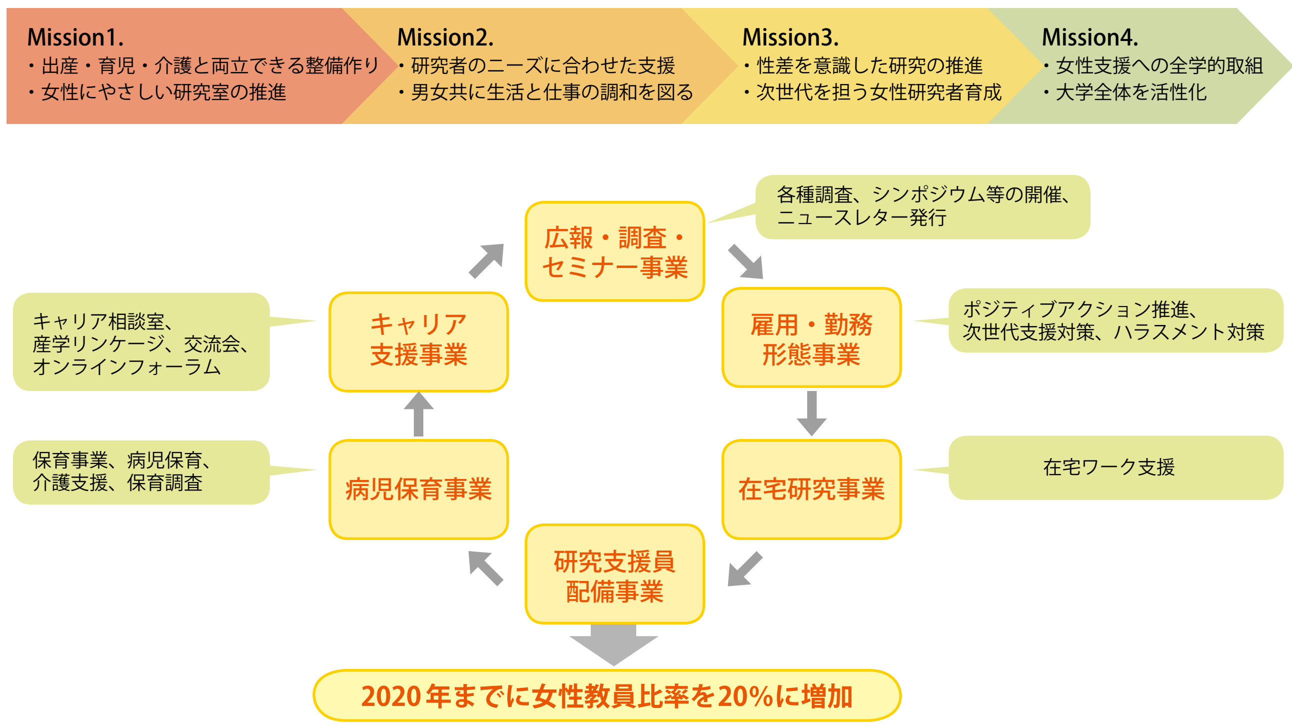
女性研究者への革新的支援

業務責任者 : 大山喬史　学長

平成 20 年度に採択されました「女性研究者への革新的支援」事業は、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」として展開し、2 年目を迎えました。本年度からは、その対象を拡大し、昨年度の三部局（疾患生命科学研究部、難治疾患研究所、生体材料工学研究所）から医歯学総合研究科（医学部、歯学部を含む）も対象とする全学への展開を実施しております。全学への展開に伴い、運営委員会メンバーに医学部長、歯学部長にもご参画いただきました。また、全ての部門メンバーから構成される女性研究者支援対策会議を組織し、雇用・勤務形態・評価事業、在宅研究事業、研究支援員配備事業、保育に関する事業、交流会、ロールモデル研修、キャリアカウンセリングなどのキャリア支援事業、意識改革事業、性差医学を基盤とした研究・啓発事業、広報事業など 11 の事業を展開する予定です。各事業のリーダーは本学メンバーが務めます。女性研究者支援室と女性研究者支援対策会議で女性研究者支援協議会を形成し、両者の有機的な連携・協力のもとで、多様性のある女性研究者が最大限の力を発揮できる職場環境を構築すべく、活動を行います。

本事業は 3 年時限のモデル育成事業であり、本学がどのような女性研究者支援が可能なのかへの言わば挑戦でもあります。来年度（最終年度）に向けて発展させながら、その後の継続的活動・実施に繋がる基盤構築を行っていく所存です。

東京医科歯科大学　女性研究者支援協議会 活動内容



若手研究者の自立的研究環境整備促進「メディカル・トップトラック（MTT）制度の確立」

研究代表者 : 難治疾患研究所長　北嶋繁孝　教授

難治疾患研究に従事する若手研究者を育成するために、外部・内部審査員からなる MTT 推進委員会を設置し、書類審査と英語によるプレゼンテーションよりなる厳正な 2 段階審査により多様かつ優秀な若手研究者をメディカル・トップトラックフェロー（MTT フェロー）として国際公募により採用します。これまでに高い研究業績を有しており、今回の任用期間内においても、競争的資金を獲得して先端的研究活動を推進し、キャリアパスの展開を目指す若手研究者を採用し、ポスドク終了後、または、これに準ずる研究経歴の方（博士号取得後概ね 10 年以内）を対象とします。

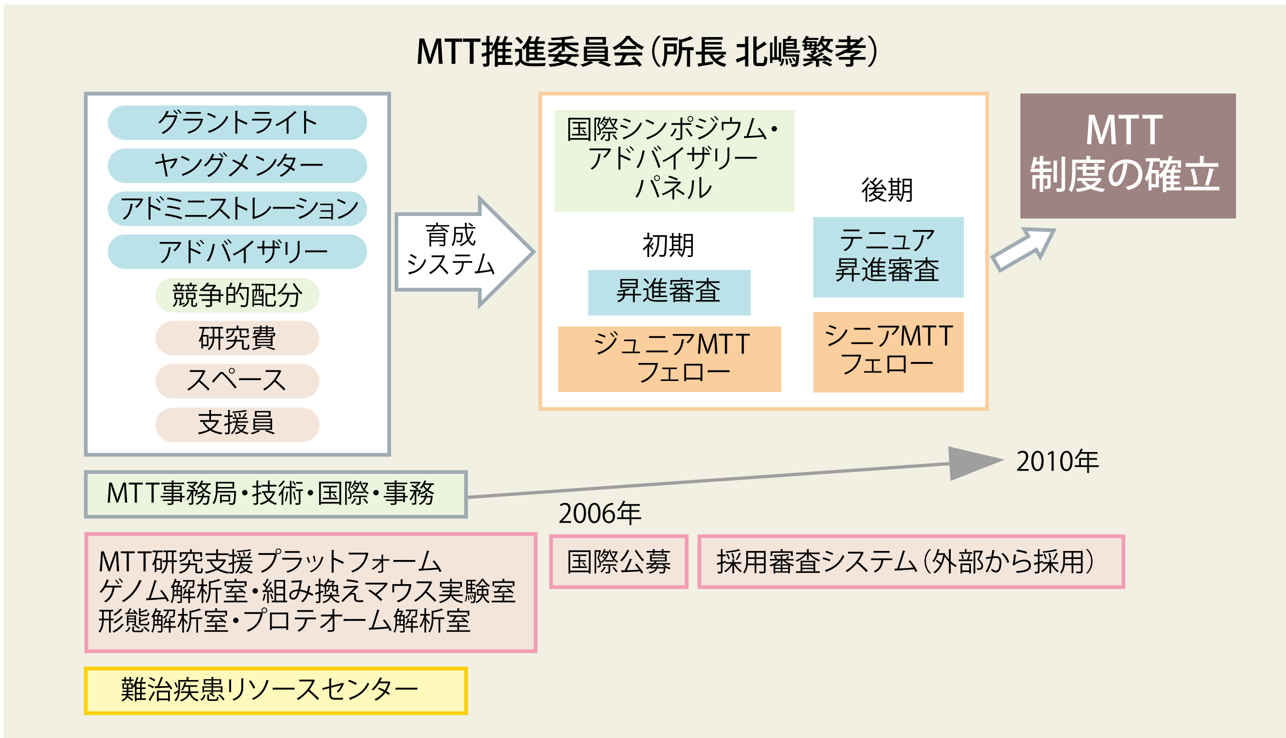
審査結果に応じて、競争的にそれぞれの MTT フェローの(1)スタートアップファンドの額、(2) 博士後研究員の有無、(3) 研究スペース配分を決定します。前期には、MTT フェローはジュニア MTT フェローとして競争的環境で育成され、本研究所の若手研究支援プラットフォームや難治疾患リサーチリソースセンターをフル活用し、研究活動に専念します。

期間中に一定の成果を挙げた一部のジュニア MTT フェローは、後期のシニア MTT フェローの段階に進み、研究活動を継続するとともにヤングメンターシステム、アドミニストレーション参加、グラントライティングコースにおいて、研究、教育、競争的研究費獲得の各々の面において独立した国際的に通用する若手研究者として育成されます。優れた研究成果を挙げたシニア MTT フェローは、国内外の審査委員によるテニュア昇進審査の結果に基づいて本研究所のテニュア教員（本研究所の正式職員）に採用される可能性があります。

以上のように、本事業の MTT フェローは准教授あるいは助教などのテニュア教員の前段階として位置づけられ、若手の育成と人材の流動化を促進することにより将来のテニュア制度及びテニュア・トラック制度の確立を目指します。若手研究者による自立的・競争研究環境整備の新しいモデルとなることが期待されます。

紹介 HP　http://www.tmd.ac.jp/mri/mtt/mtt.html

メディカル・トップトラック（MTT）制度



新興分野人材養成「バイオ医療オミックス情報学人材養成プログラム」

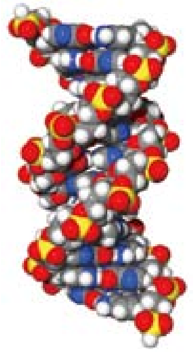
研究代表者：大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

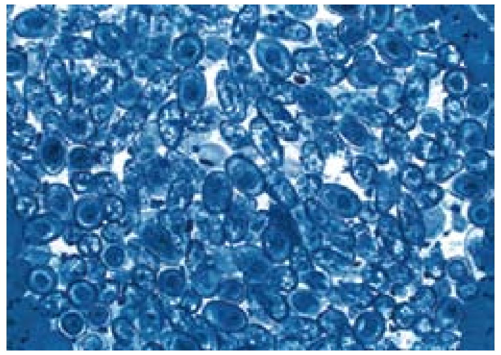
ヒトゲノム解読計画で実証されたように、情報科学やコンピュータが生命科学研究に欠かせない手段になりつつあります。生命科学と情報科学の融合領域はバイオインフォマティクスと呼ばれ、新しい分野ですが、この分野を担う人材が不足しています。また一方生命科学の分野もゲノム解読計画終了以降、遺伝子発現のマイクロアレイによるゲノムワイドな観測、細胞内たんぱく質の質量分析器による網羅的測定など、ゲノム以外の網羅的分子情報、いわゆるオミックス情報へと範囲を広げていますし、その医療への応用が叫ばれています。

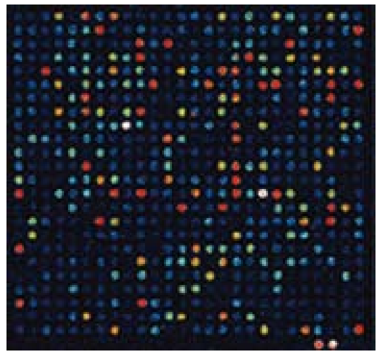
東京医科歯科大学では、生命科学と情報科学に素養のある医療人を育てる「バイオ医療オミックス情報学」人材養成プログラムを平成17年度から5年間にわたって科学技術振興調整費委託事業として実施しています。このプロジェクトは、これからのオミックス医療を支えるために、「臨床に応用できる生命科学の知識と情報科学を有効利用できる素養をもった医師を始めとする医療人」の養成を第一の目標としています。

また、この人材養成プログラムでは、これまで生命科学の分野で活動していたバイオインフォマティストも対象とし、彼らがその活躍の場を医療へと広げるように、医学・医療の基礎的かつ実践的な知識を教授し、オミックス医療の実際的な情報管理を担うためにコースも設けました。この人材養成コースの修習をとおして新たなオミックス医療を実現する優秀な人材の輩出を目指します。

これまでの4年間で延べ100名超の社会人が本プログラムを聴講し、52名（見込み20名）が修士課程相当の全課程を修了しました。10名（見込み5名）の修了生が本学の博士後期課程に進学し、自らオミックス医療の実現に取り組んでいます。







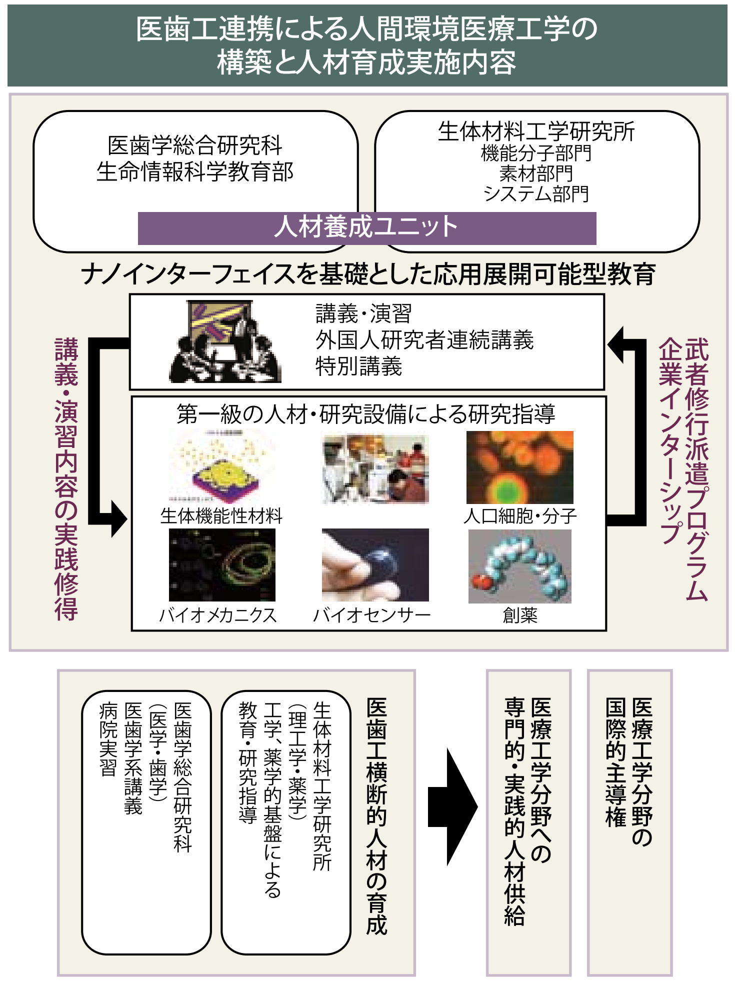
新興分野人材養成「医歯工連携による人間環境医療工学の構築と人材育成」

研究代表者：生体材料工学研究所長　山下仁大　教授

本学医歯学総合研究科及び生命情報科学教育部の修士課程及び博士課程学生、また希望に応じて企業からの派遣学生を対象に、ナノテクノロジー融合領域を基盤とした、近未来に必要な理想的医療環境を構築するための基礎的科学及び応用的技術を修得させ、自力で発展的に実用展開できる人材を養成して、産業界、研究機関へ供給することを目指しています。

ナノインターフェイス、すなわちナノメートルレベルでの界面反応制御を共通的基盤技術と位置づけ、基盤となる科学及び技術の緊密な連携によって、高機能生体材料、薬物徐放材料、診断システムなどの医療用デバイスを創出できる人材の育成を第一義とし、教育を進めます。

本学の特色を生かした医学、歯学に関する教育に加え、理学、工学、薬学の講義・演習・研究実習のみならず、外国人講師による連続講義、学生の国外研究機関への武者修行的派遣、企業への派遣を行い、実践力を高めるとともに、国際社会の中での日本の実情を把握できるカリキュラムとしています。



地球規模課題対応国際科学技術協力事業

Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development

本事業は、開発途上国のニーズを基に、地球規模課題を対象とし、将来的な社会実装の構想を有する国際共同研究を政府開発援助（ODA）と連携して推進し、地球規模課題の解決および科学技術水準の向上につながる新たな知見を獲得することを目的としています。また、その国際共同研究を通じて開発途上国の自立的研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図ります。

開発途上国のニーズを踏まえた感染症対策研究 — ガーナ由来薬用植物による抗ウイルス及び抗寄生虫活性候補物質の研究 —

取組責任者 : 大学院医歯学総合研究科　山岡昇司　教授

本学はこれまで、野口英世博士を記念して設立された西アフリカのガーナにある野口記念医学研究所に特任教授・准教授を派遣して研究拠点を設立、ウイルス学、寄生虫病学の研究を進めてきました。今年度からは新たに、科学技術振興機構（JST）と国際協力機構（JICA）による地球規模課題対応国際科学技術協力事業として、ウイルス複製、寄生虫増殖を抑制する薬用植物中の有効成分の研究を開始しました。この研究事業はガーナ側からの強い要請にもとづいて企画され、日本側から本学ウイルス制御学、国際寄生虫病学の太田伸生教授、免疫治療学の神奈木真理教授と長崎国際大学薬学部の正山征洋教授の各グループが参加し、ガーナ側の野口記念医学研究所と生薬科学研究センターの研究グループと感染症治療に有効な生薬有効成分について共同研究を行います。ガーナでは主に経済的、地理的要因から西洋医学の普及が十分でなく、国民の多くが歴史的に普及している生薬伝統医療に頼っている現状から、ガーナ政府も本研究に大きな期待を寄せています。チョコレート原料のカカオ豆で有名なガーナですが、研究を開始して間もなくその生豆の中に抗ウイルス活性物質が多く含まれることもわかり、今後の進展が期待されます。

野口記念医学研究所での協議風景

Nyarko 野口記念医学研究所長（中央）と Okine 生薬科学研究センター長（右）

（上）カカオ豆が入っている鞘、
（下）割面と取り出した生豆

若手研究者交流支援事業 — 東アジア首脳会議参加国からの招へい —

Exchange Program for East Asian Young Reseachers

本事業は、我が国の大学等研究機関による計画的な研究者交流を支援することにより、アジアを中心とした国々との研究者間のネットワークの形成・強化、当該地域における高度人材育成及び科学技術コミュニティの形成等を目的としています。

医歯学領域の若手研究者育成事業 — 東南アジア国際医療ネットワークの構築 —

事業推進責任者 : 大学院医歯学総合研究科　田上順次　教授

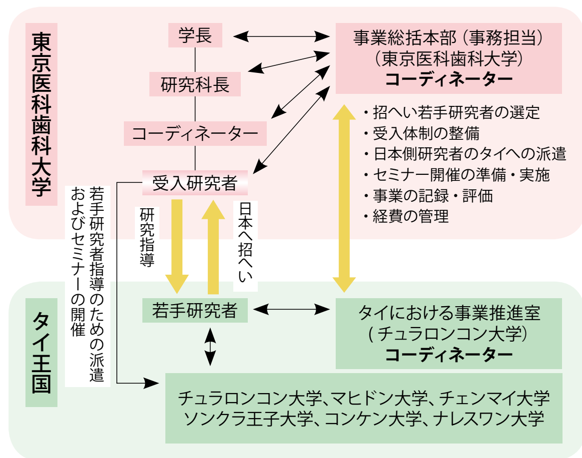
本事業の目標は、若手研究者の人材育成を行い、日本を中心とした医歯学領域の国際医療ネットワークを東南アジア諸国に構築することです。若手研究者を継続して支援していくことで、保健医療分野の研究の推進、高度専門医療人の育成、医歯学領域の研究・教育・臨床における国際化の推進、教育者・研究者・医療人の国際ネットワークの形成・強化を図ることができます。

本学は数多くの東南アジアの大学と学術交流協定を締結しています。また、東南アジアには、本学で学んだ帰国留学生が多く、医師・歯科医師（病院・診療所・歯科診療所）、大学教員（医歯学教育）、保健省の役人（医療行政）、研究者として現地で活躍しているので、継続した連携をとっていくことが可能です。東南アジア諸国は、医療を取り巻く諸環境（社会経済状況、教育レベル、有病状況、医療システム等）が似ていて、医療ネットワークを形成しやすいと考えられます。

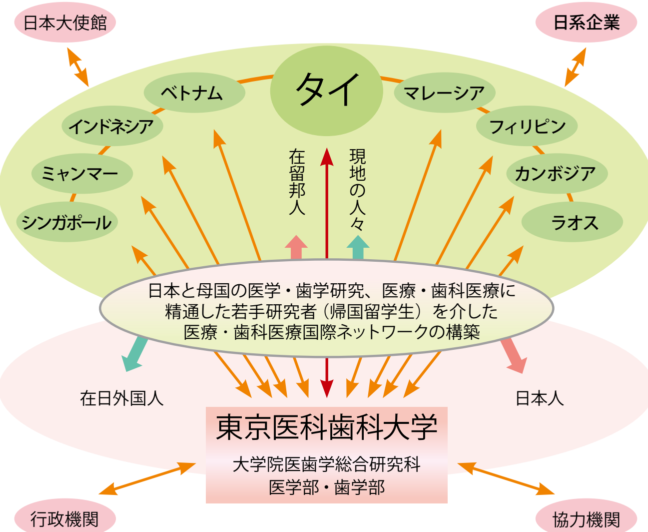
平成 21 年度第 1 回の事業目標としては、対象国としてタイを選定し、本学の大学院医歯学総合研究科で学位を取得した歯学・歯科医療分野の帰国留学生を中心とした学術交流を行いました。4 ～ 9 月までの半年間に、本学と学術交流協定を締結しているチュラロンコン大学、マヒドン大学、チェンマイ大学、ソンクラ王子大学、コンケン大学、ナレスワン大学歯学部から、計 13 名の若手研究者が来日し、受入研究者の指導・支援の下で、さまざまな専門領域の研究に取り組みました。また、本学から 4 名の研究指導者をタイに派遣し、若手研究者を対象としたセミナーを 2 回実施いたしました。

今後、歯学・歯科医療領域における若手研究者の招へい事業を継続していくと同時に、医学・医療分野にも範囲を拡大して、また、タイ以外の東南アジア諸国からも若手研究者も招へいして、医歯学領域の研究の推進、高度専門医療人の育成、教育者・研究者・医療人の国際ネットワークを形成していく予定です。

事業の概要



東南アジア 国際医療ネットワークの構築



日中韓フォーサイト事業
A3 FORESIGHT PROGRAM

本事業は、我が国と中国・韓国の研究機関が連携して、世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目的としています。

胃がん発症におけるエピジェネティック変化の関与

研究代表者 : 大学院医歯学総合研究科　湯浅保仁　教授
中国側研究代表者：北京大学腫瘤学院　Deng Dajun　教授
韓国側研究代表者：ソウル国立大学医学部　Kim Woo Ho　教授

独立行政法人日本学術振興会は、日本・中国・韓国の研究機関が連携して世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び優秀な若手研究者の育成を行うことにより、3カ国を中核としてアジアに世界的水準の研究拠点を構築することを目的として、先見性や将来への展望などを意味する "foresight" の名を冠した「日中韓フォーサイト」事業を実施している。本事業においては、3カ国の研究機関は、「共同研究」、「学術会合（セミナー）」、「研究者交流」を効果的に組み合わせて実施する。

研究交流目標

胃がんは日本・中国・韓国において頻度の高いがんであり、胃のがん化過程には、エピジェネティックな変化（遺伝子そのものには変化は無いが発現が変化する）が重要である。3カ国の当事業に参加する胃がん研究者が所属する各施設は、研究拠点として既に世界的レベルにある。これらが、交流·共同研究を行うことで、3カ国の多数の胃がん症例におけるエピジェネティックな変化を徹底的に解析して、共通点・違いを明らかにする。疫学的にも3カ国の胃がんの相違点を解析する。これらの共同研究により、胃がんの新たな早期診断、予防、治療法を開発することを目標とする。以上により、研究拠点としてもさらにレベルをあげることを目指す。

人的交流にも力を入れる。研究者同士の共同研究を通じて日中韓3カ国の相互理解を深める。さらに国際的に活躍できる人材育成のため、若手研究者の相互訪問及び研究代表者による研究指導にも力を入れるとともに、それにより将来にわたる3カ国間の継続的交流発展を目指す。


大学前での記念撮影（2009年8月）


左から湯浅・Kim・Dengの各代表者


2009年8月開催の会議風景

新興・再興感染症研究拠点形成プログラム
Program to Create an Infectious Diseases Research Center

本プログラムは、国内外に設置した研究拠点において新興・再興感染症の研究を実施し、新興・再興感染症対策に資する基礎的知見の集積を図るとともに、研究を通じた感染症研究分野の人材の育成を目的として実施されています。

西アフリカ地域の研究拠点を核とした感染症研究の戦略的展開

研究代表者：大学院医歯学総合研究科　太田伸生　教授

感染症は21世紀の全地球的課題として、医学はもとより、社会、経済、政治など多方面に大きな影響を及ぼす問題である事が認識されるようになりました。私たちは何時、何処で、如何なる感染症でも起こりうる時代に生きています。新興感染症という私たちが未だかつて遭遇した事のない感染症も視野に入れる必要があります。

感染症の対策のために一番大切な事は情報の収集です。新興・再興感染症の多くは発展途上国で発生しており、情報収集のためにはそのような地域の研究者との連携が欠かせません。文部科学省の「新興·再興感染症研究拠点形成プログラム」は、この緊急の社会的ニーズに基づき、これまで築いて来た日本と途上国の研究者の連携をさらに強化し、日本が世界の感染症研究や対策に主導的役割を果たすことを目指して平成17年度から開始されました。

**野口研における本学の
研究交流拠点開始セレモニー**

東京医科歯科大学は結核予防会結核研究所と共同で、ガーナ共和国野口記念医学研究所（野口研）を拠点とした感染症研究展開を進めています。ガーナが位置する西アフリカ地域は感染症の宝庫といっても過言でなく、エイズ、結核、マラリアはもとより、ラッサ熱や黄熱などのウイルス性出血熱、アフリカ睡眠病や住血吸虫病などの寄生虫疾患、ブルリ潰瘍など西アフリカに特有の細菌感染症などが流行しています。その医学研究の整備が急務であり、信頼に足る疫学情報の構築が必要です。また適切な治療プロトコールや新規治療法開発など、応用医学の面でも多くの課題が山積しています。私たちは、これらの感染症をon-siteで研究できる拠点を形成する事により、研究強化はもとより、人材育成、疾病対策などが効率的に図られると考えています。

野口研は野口英世博士に因んで日本政府の協力によって設置された研究所です。P3実験室や実験動物センターなどを設置し、西アフリカではトップレベルの研究環境を持っています。本学からは2名の研究者を常駐させて、ウイルス、寄生虫感染症の研究を野口研の研究者と協力して開始しました。野口博士がガーナで黄熱病に斃れて80年余が経ちました。その他に日本人研究者が現地に滞在して感染症に関する先端医学研究を推進し、本学が中心となって日本と西アフリカの感染症研究の向上と若手研究者育成を進める事は大きな意義があることと考えています。

独創的シーズ展開事業 大学発ベンチャー創出推進

Japan Science and Technology Agency Project to Develop "inovative seeds" Supporting Program for Creating University Ventures

この事業は、大学の独創的シーズを基盤に、ベンチャー企業を創出推進することを目指しています。基礎研究、臨床応用、産学連携を通して、大学の基盤技術を企業に技術移転し、新しい産業の創出、研究成果の社会への還元を目指します。

ディスポ式、磁気浮上遠心血液ポンプの研究開発

開発代表者：生体材料工学研究所　髙谷節雄　教授

本研究開発は、ミニマム抗凝固剤の使用により、1ヶ月間安全な循環補助が可能な、生体適合性に優れた、ディスポ式、磁気浮上遠心血液ポンプの技術を基盤に企業を興し、製品化、臨床応用を目指します。本研究は、4大学連合（東京医科歯科大学、東京工業大学、一橋大学、東京外国語大学）の一環として、2004年から、東京医科歯科大学生体材料工学研究所と東京工業大学精密工学研究所の協力で研究開発が進められてきた磁気浮上技術を遠心血液ポンプ技術に応用し、従来のメカニカルベアリング構造を有する血液ポンプの耐久性、生体適合性を改善し、ミニマム抗凝固剤の使用で、最低一ヶ月間は、安全・安心な循環補助を可能とする循環補助デバイスの研究開発を目指す。使いやすさ、簡便性並びに低コストを実現するために、ポンプシステムは、ディスポ式ポンプヘッド部と再利用可能な駆動制御部に分ける（図1）。研究は、基礎性能、耐久性を確認した後、仔牛を用いデバイスの安全性、有効性について評価し（図2）、産学連携を通して企業化を行い（組織図3）、国内外での臨床治験を進め、社会への還元を目指す。

図1
Prototype Model

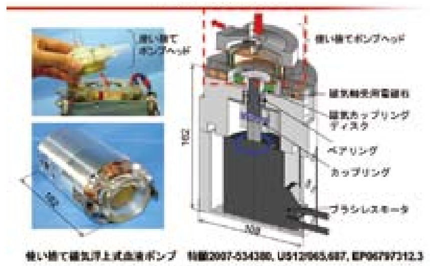
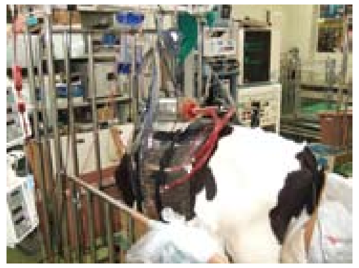
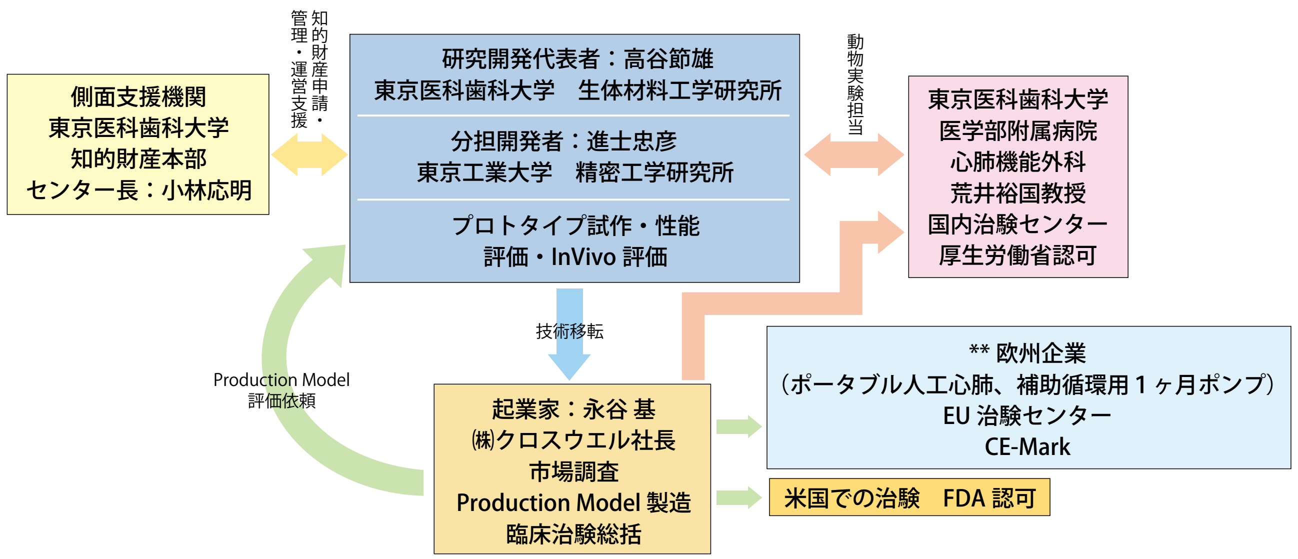


図2
仔牛によるポンプシステムの評価風景



研究開発組織図　図3



分子イメージング研究プログラム

Molecular Imaging Research Program

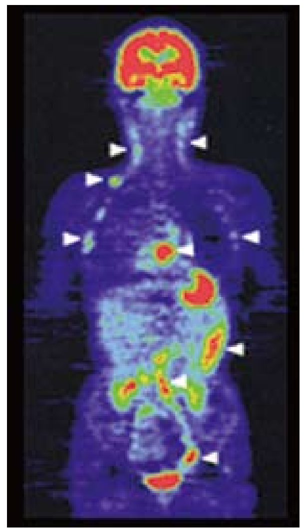
生物が生きた状態のまま外部から生体内の遺伝子やタンパク質などの様々な分子の挙動を観察する分子イメージング技術について、PET（Positron Emission Tomography）を中心としたイメージング技術を利用し、創薬プロセス改革、疾患の診断技術及び治療の評価技術の開発を目指します。

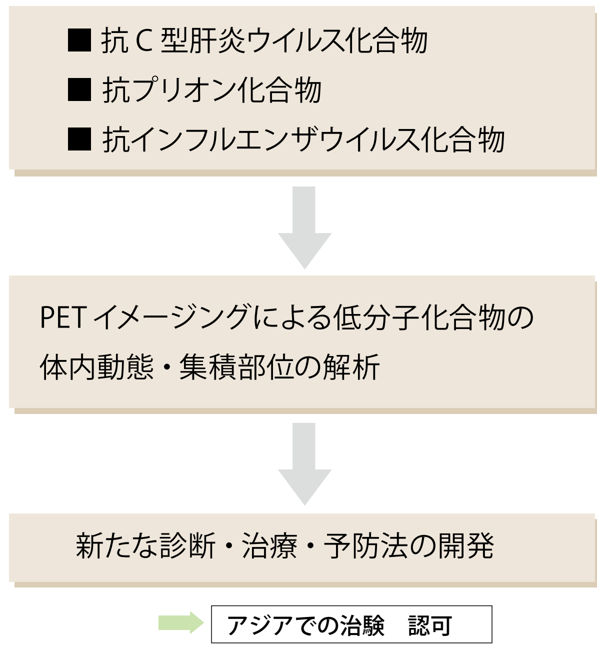
難治感染症に対する新規治療薬開発のためのイメージング研究

研究責任者：大学院疾患生命科学研究部　萩原正敏　教授

C型慢性肝炎から肝硬変、肝癌へと進行する病変を抱える200万人の患者の治療法確立が社会的急務となっていますが、インターフェロン等以外には有効な治療方法が無く、C型肝炎ウイルスを根絶できる新規治療薬が待望されています。BSEなどプリオン病は，現在，日本に大きな社会不安を引き起こしていますが、これはプリオン病に対する有効な治療方法がないことが原因です。鳥インフルエンザウイルスはその変異の速さから、ワクチンの効力は完全とはいえず、経口薬タミフルも安全性に問題があることが明らかとなっており、タミフルとは異なる作用点を有する薬剤の創製が社会的に強く求められています。

本研究では、近年脅威が増大しつつあるが有効な治療法がない難治の感染症、特に新規治療薬開発に対する社会的希求度が高いC型肝炎、伝染性海綿状脳症（プリオン病）、新型インフルエンザの3疾患を対象に、新規治療薬を開発・研究している研究者を結集してリード化合物を創製します。具体的には、研究代表者萩原らが、C型肝炎の in vitro 評価系で著効を示した新規化合物を合成展開し、分子イメージング用プローブの開発を行なう予定です。また研究参画者桑田らがプリオンの立体構造に基づいて論理的に見出した新規抗プリオン化合物は、動物実験レベルでもその有効性が証明できています。また研究参画者間は NP 蛋白質に対する薬剤を理論的に設計することによって、多くのインフルエンザウイルス株間に共通に効果のある薬物を創製する予定です。これらの新薬候補化合物から高速 C- メチル化反応を応用して分子イメージング用プローブを合成し、理化学研究所創薬候補物質探索拠点（神戸）と連携して PET イメージングによる薬物動態解析を行い、新たな創薬手法の確立を目指します。





ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業
Integrated Database Project

現在、我が国のライフサイエンス分野の国内主要データベースの統合化と継続的な維持方策の必要性が指摘されています。そこで本事業では、我が国のライフサイエンス関係のデータベースの利便性の向上を図るため、我が国のライフサイエンス関係データベース整備戦略の立案・評価支援、データベース統合化の基盤技術開発、ポータルサイトの整備等を行い、統合化を推進します。

統合医科学データベース構築方式の開発

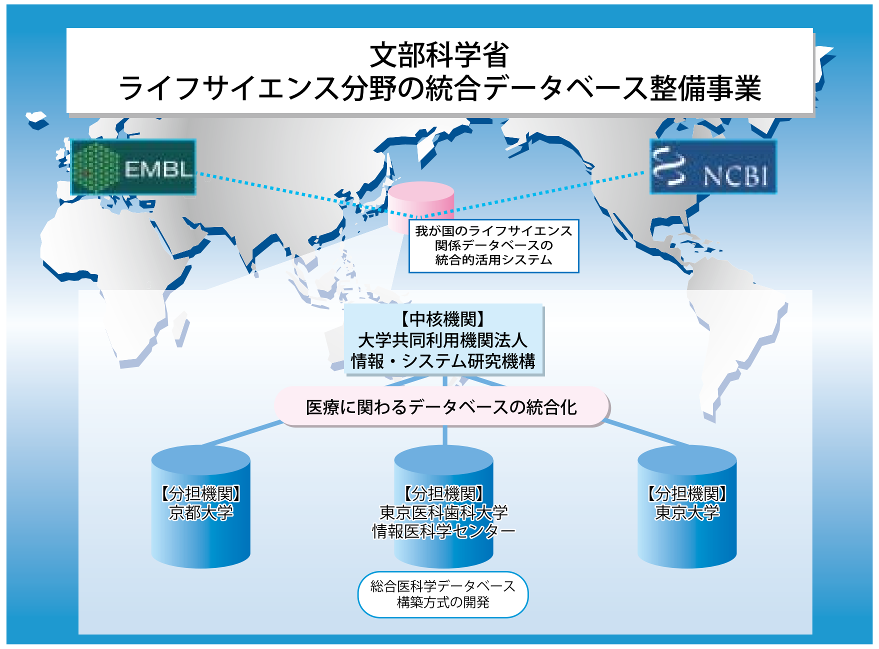
研究代表者 : 大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

2003 年のヒトゲノム解読計画以降、ライフサイエンス分野の情報は爆発的に増加しつつあり、わが国においても多数の大学、研究所において、ゲノムを始めとする様々な網羅的分子情報を蓄積したデータベースが構築されています。しかし、わが国においては、これらデータベースは分散していて米国の NCBI やヨーロッパの EBI などのように、これを統合するナショナルセンターが存在しません。

そこで文部科学省では数年前から、ライフサイエンスの全分野、すなわち網羅的分子情報から疾患情報まで「生命情報を統合的に扱うナショナルセンター機構」を構築することを目的として、「ライフサイエンス分野の統合データベース整備事業」が進められてきました。平成 19 年、それを実現する機構として、わが国のライフサイエンス分野の情報を統括する「中核機関」と、中核機関と連携してそれぞれの専門分野でのデータベースを担当する「分担機関」によって、この統合化事業を行うことが決まりました。

各機関の公募の結果、東京大学、京都大学とならび、本学の情報医科学センターが「ライフサイエンス分野統合データベース事業」を国が委託する 3 つの分担機関の 1 つとして選ばれ、平成 19 年度より 4 年間で事業を実施しております。

本学の情報医科学センターが科学技術振興調整費を受託し開発した、網羅的分子情報と臨床情報を集積した統合的医療データベース（iCOD; http://omics.tmd.ac.jp/）および大阪大学の神経難病（パーキンソン病）データベースを実証的に統合し、統合医科学データベース検索のプロトタイプシステム（http://ibmd.tmd.ac.jp/）を公開しております。国内の医科学データベース統合のための基盤構築を目標とし、戦略の立案及び統合化技術の開発を行います。



日本学術振興会先端研究拠点事業
JSPS Core to Core Program

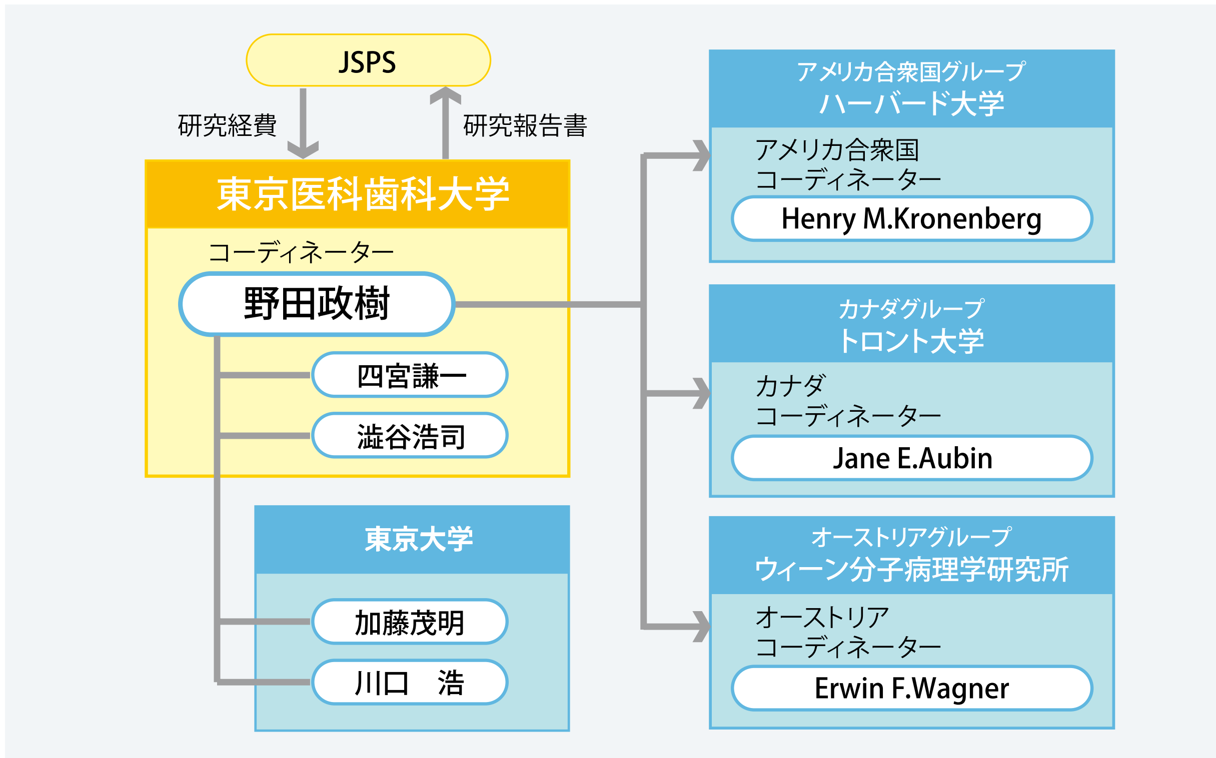
先端研究拠点事業は、先端的な学問領域において、日本と複数の先進諸国の中核的な研究拠点機関間のネットワークを形成し、従来の二国間交流の枠を超えた多国間交流として、より一層の国際共同研究の推進を図るとともに、将来を担う次世代の若手研究者間の交流促進を目的としたもので、本学では下記のプログラムが採択されました。

骨・軟骨疾患の先端的分子病態生理学研究の国際的拠点形成

コーディネーター : 難治疾患研究所　野田政樹　教授

わが国と世界の科学先進国 15 ヶ国を指定して、その中における先端的な研究拠点を形成する事業であり、本学における拠点形成型の 2 年間の実績を踏まえ、“国際戦略型”の先端研究拠点の形成事業が設置されました。東京医科歯科大学は、先端的な学問領域において日本と複数の先進諸国の中核的なネットワークを形成し、一層の国際共同研究の推進を図ると共に将来を担う次世代の若手研究者の国際的交流の促進を目的とした日本学術振興会の先端研究拠点事業の中核拠点として活動するものです。研究交流計画においては、骨・軟骨疾患の先端的分子病態生理学の国際的研究拠点形成を目指し、東京医科歯科大学・ハーバード大学（米国）・トロント大学（カナダ）・ウィーン分子病理学研究所（オーストリア）の 3 カ国とわが国における東京大学分子細胞生物学研究所ならびに同大学院医学系研究科の連携の下に研究が推進されます。既に、国際的な先進研究者の共同研究体としての先端研究推進フォーラムが 10 回以上開催され、また若手の交流と育成を目指す国際的な若手研究者ネット会議も 15 回以上にわたり開催され、国際シンポジウムと合わせた 3 つの活動、即ち共同研究、若手育成、シンポジウムを柱とした研究活動が推進されています。

骨・軟骨疾患の先端的分子病態生理学の国際的拠点形成



大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援（総合戦略型））
Program for Accelerating Internationalization of Higher (University) Education

大学教育の国際化加速プログラムは、大学等が行う教職員や学生の海外派遣の取組や海外の大学との積極的な連携等を行う取組のうち、文部科学省が特に優れた取組みを選定し財政支援を行うことで、「国際社会に貢献できる人材の養成」や「大学の国際競争力の強化」等を促進することを目的としたプログラムです。

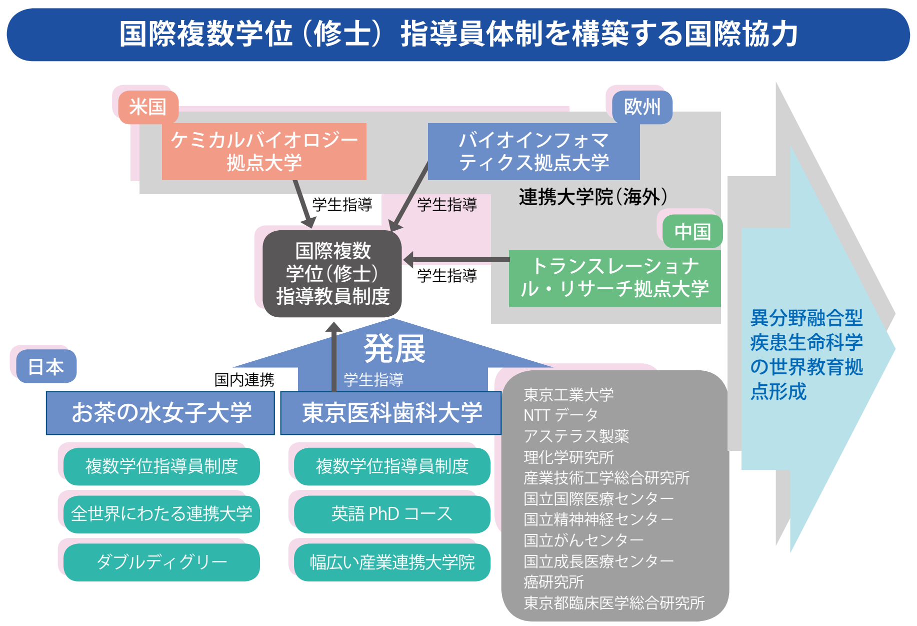
異分野融合型疾患生命科学教育の国際連携

取組実施責任者：大学院生命情報科学教育部長　田中 博　教授

大学院生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部は、異分野融合型疾患生命科学を教育研究の理念に掲げ、官民の先端的研究所と連携大学院を構成し、多様でかつ選択可能なカリキュラムを実現するとともに、英語のみで大学院教育を受けPhD を取得できる教育カリキュラムを整備して、大学院教育を実質的に国際化してきました。本事業では、これまで推進してきた連携大学院制度と教育の国際化を、国境を越えて展開し、海外の教員と協力した国際複数学位（修士）指導員制度を実現して、国際教育研究拠点形成へ向けて高度化することにあります。

欧州米国アジアの高等教育機関（本学、お茶の水女子大学、ドイツハイデルベルク大学、中国協和医科大学、中国医科大学、等他、約 10 大学）の間でグローバルな連携を構築し、異分野融合型疾患生命科学という同じ教育理念の下に教育資源を再構成して国際ネットワーク型ダブルディグリー教育プログラム(博士 5 年間）を開発し、本取組が終了する 3 年後に開始を目指します。大学院生が本学に在学しながら海外の先進的大学の学位（修士）研究指導を享受できる制度を整備し、学位研究指導を実質的に国際化し、大学院教育の国際水準を確保します。

本大学院が受託している、大学院教育改革支援プログラム「国際産学リンケージプログラム」で実現する国際産学連携を相互補完し、大学教育の国際化加速プログラム「異分野融合型疾患生命科学教育の教員研修」で実施する教員交流の成果を結実させて、ダブルディグリー・プログラムの構築まで高度化する施策として取り組んでいきます。



産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）
Project for the Strategic Development of Industry-University-Government(I-U-G) Collaboration

産学官連携戦略展開事業は、国際的な基本特許の権利取得などを図る国際的な産学官連携体制の強化や国公私立大学間連携等による地域の多様な知的財産活動体制の構築など、大学等の活動としては実施のリスクが高く、かつ、国として政策的観点から積極的に促進すべき活動を重点的に支援し、産学官連携活動全体の質の向上を図ることを目的とした事業です。

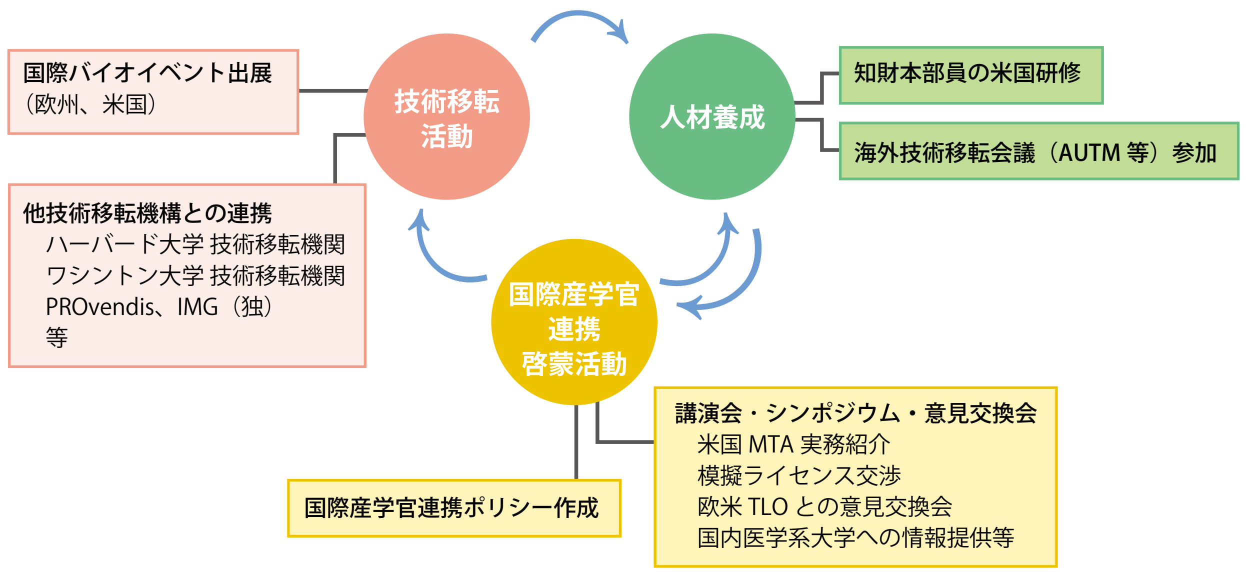
国際的な産学官連携活動の推進

取組責任者：知的財産本部技術移転センター長　小林応明　特任講師

本事業は、イノベーション創出の原動力である大学等の知的財産戦略などが持続的に展開されるよう主体的かつ多様な特色ある取り組みを支援し、産学官連携活動全体の質の向上を図ることを目的としています。基本特許の国際的な権利取得の促進、海外企業からの共同研究・受託研究の拡大、知的財産人材の育成・確保など、国際的な産学官連携体制の強化を図ります。

東京医科歯科大学は知的財産本部を平成 15 年 9 月に立ち上げ、その後平成 16 年 4 月に国立大学が法人化されてから、大学研究者の発明を本学帰属として出願を開始しました。また、同年 8 月に知的財産本部内に技術移転センターを設置し、企業への技術移転活動を開始しました。技術移転センターは平成 20 年 3 月に承認 TLO として文部科学省・経済産業省の認可を受け、より一層の広報活動を展開し多くの技術移転成果を生み出す予定です。平成 19 年 5 月には国際産学官連携部門を立ち上げ、米国等の技術移転機関との連携交渉を進め、欧州の技術移転イベントへ出展するなど、海外への技術移転活動を活発に行っています。

国際産学官連携戦略として、出願する特許の質の向上を図り技術移転活動を効率的に行い、国内外の技術移転機関を活用した活動を展開して、より多くの技術移転を図ります。特に海外はその国情を把握した欧州、米国等複数の連携する海外技術移転機関と定期的に意見交換を行いながら、互いに効率的な技術移転を実施できるようなシステムの構築を目指します。このような活動の成果として、模擬ライセンス交渉などの研修会の開催や技術移転に関わる事例集などを発行し、広く社会に発信します。



特別教育研究経費
Special Funds for Education and Research

特別教育研究経費は社会経済の変化や学術研究の進展性を踏まえ、特に配慮が必要となる諸課題に対応した各国立大学法人が取り組む事業等への支援を目的とします。本学の採択プロジェクトは以下の 6 件です。

パソ・シグナリングバイオロジー推進研究プログラム

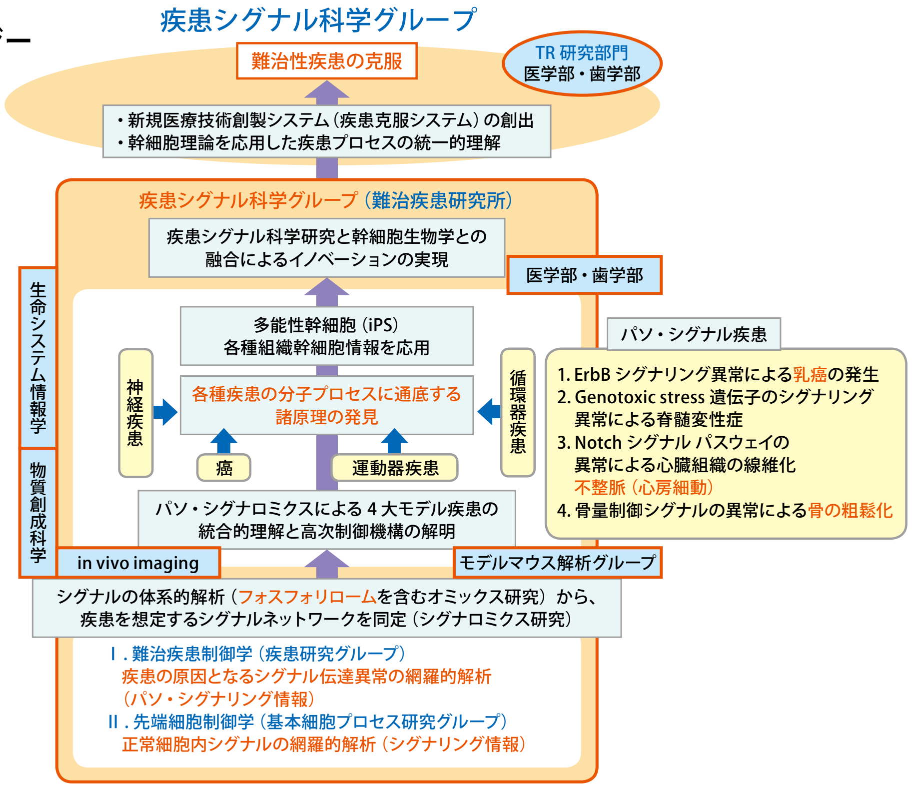
取組責任者 : 難治疾患研究所　三木義男　教授

文部科学省の特別教育研究経費により「パソ・シグナリングバイオロジー推進研究プログラム」が開始されました。本プロジェクトでは、病態の発端となる生命体のシグナル異常のことを、“pathogenic signaling” を略しパソ・シグナリングとし、現代の治療困難な疾病の克服を目的として、疾患シグナル研究を推進いたします。具体的には、神経疾患、癌、循環器疾患、運動器疾患をモデルとして疾患プロセス（正常から発病への分子メカニズム）を解明するため、全学の基礎ならびに臨床の研究集団を有機的に結集させ、ゲノム、トランスクリプトームおよびフォスフォリローム情報を基軸とした疾患生命科学研究（パソ・シグナリングバイオロジー）を展開いたします。特に高精度・次世代型の質量分析器を導入し、リン酸化蛋白情報を収集、フォスフォプロテオミクスに基づいた新しい疾患理解を目指します。

この解析システムは、難治疾患研究所の大学院教育研究支援実験施設の中に設置し、専任の技術者を置くことによって、全学の研究者に使用していただくよう計画しています。さらに、分子間相互作用解析装置を組み合わせ、構造変化に由来する結合タンパクの変化を網羅的に捉えることはシグナル研究においてきわめて重要な解析と考えます。

本事業では、このような疾患シグナル研究に必要な解析基盤を整備し、全学の研究者に使用していただけるよう組織・システムの構築を目指し、それを駆使してシグナルを基軸とした疾患生命科学研究を展開していきます。

パソ・シグナリングバイオロジー推進研究プログラム



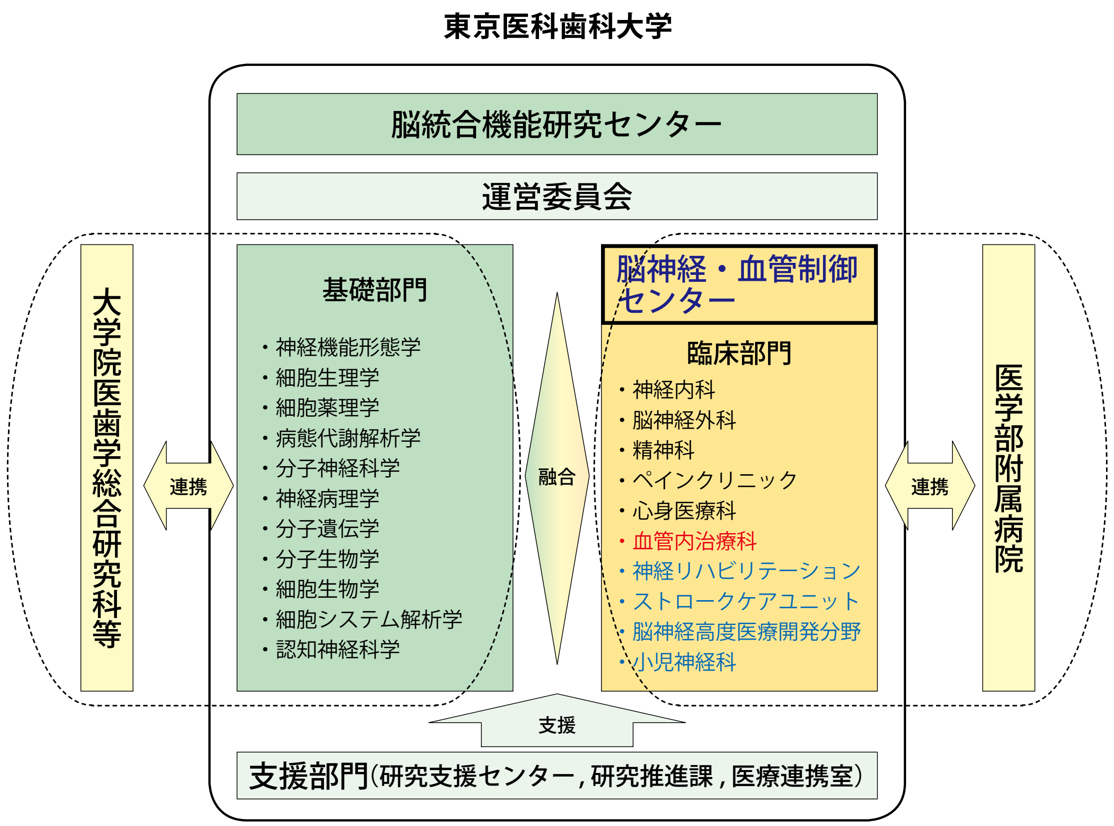
脳神経・血管制御センターの設立

取組責任者：脳統合機能研究センター長　水澤英洋　教授

現代の日本は、少子超高齢化社会かつ小児から成人に至る心の発達障害が問題になる一方、高い QOL を目指す豊かな社会への膨大なニーズが存在する。近代の先進国は、感染症の克服に始まり消化器疾患、循環器疾患など次々に克服しつつありガンとても例外ではない。しかしながら、他の全ての臓器と異なり取り替えが不可能であり、豊かな人間生活の要ともいうべき脳神経系の疾病についてはまだまだ対応が不十分であり、その充実は我が国のみならず世界の多くの人々の切実なる望みである。

本学は、この脳科学・脳神経疾患領域において、先端を拓く伝統があり、21 世紀 COE プログラム「脳の機能統合とその失調」の成功を経て「脳統合機能研究センター (Center for Brain Integration Research: CBIR)」を設立、2009 年にはその臨床部門としての「脳神経・血管制御センター」が発足した。脳神経・血管制御センターは、世界の脳神経疾患克服のニーズに応えるため、本学における脳神経科学の基盤と新たな戦略を融合的に発展させた、脳・神経・脊髄・精神疾患の高度先進医療の研究・教育を実践する拠点であり、今後、新たな中期目標・中期計画の重点項目の一つとしてその整備、発展を図るものである。

CBIR には図に示すような基礎部門もあり、臨床部門と密接な連携を保っている。脳神経・血管制御センターには、神経内科、精神科、脳神経外科、心身医療科、ペインクリニックの他、概算要求にて、今年度から、血管内治療科の新設が認められ、教授 1 名、准教授 1 名、助教 2 名、医員 1 名の大学院医歯学総合研究科の分野として、教授等教員の選考、診療施設の整備が始まっている。これにより、脳脊髄や頭頸部の血管性病変の治療あるいは腫瘍性病変の術前塞栓などを対象とする、わが国でも有数の総合的血管内治療・研究・教育分野が誕生することになる。さらに、ストロークケアユニット、神経リハビリテーション、小児神経科、脳神経高度医療開発分野などの整備も計画されており、世界的にもユニークな脳、神経、脊髄、精神疾患の高度先進医療研究教育拠点となることが期待されている。



センシングバイオロジーにおける基盤技術の戦略的推進事業

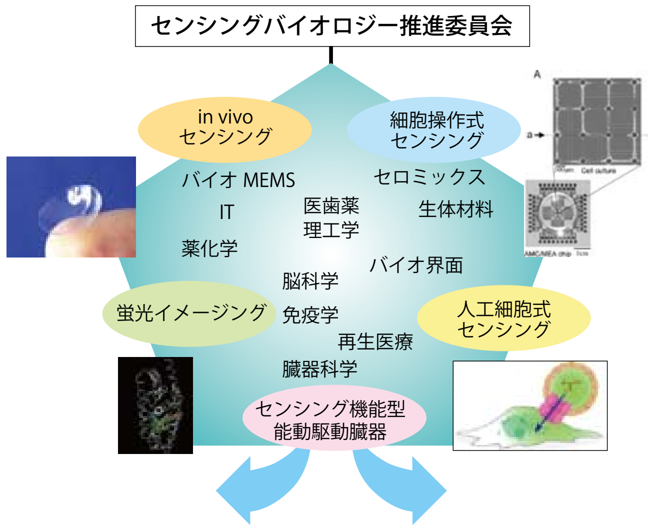
取組責任者 : 生体材料工学研究所　三林浩二　教授

細胞や個体、病理等など様々なレベルで生命現象や疾病情報を直接生体内で計測（in vivo センシング）する研究が重要となっています。この事業では、本学がこれまでに培ってきたセンシングデバイスや計測プローブ等の技術及び手法を発展させ戦略的に推進することにより、生命現象及び生体機能を理解し、医学や歯科の領域への発展に貢献するものです。

例えば、細胞内部及び組織においてリアルタイムに連続モニタリングすることは生命現象解明や難治疾患研究において極めて重要で、従来の「ある瞬間の」状態を検査する検査手法から、「ある一定の期間」継続的に変化を計測して、その結果を解析する「時系列解析」の需要がますます高まっています。また、生体への長期組み込み性や装着性を考慮し、臓器表面や皮膚、患部、術後部位への装着が可能な、柔らかく生体適合性に優れた計測デバイスや、細胞と接着し膜タンパク質を介して細胞との化学情報の直接対話ができる高分子デバイス、細胞個々について内部情報を評価できるチップ等が求められています。さらに、臓器科学においても、生体情報をセンシングし自律的且つ能動的に機能する、有機系臓器デバイスの研究が近未来医療として期待されています。

そこで本事業では、生体材料工学研究所・難治疾患研究所・大学院疾患生命科学研究部・大学院生命情報科学教育部が横断的な組織を形成し、①柔らかく生体適合性に優れた有機系センシングデバイス技術、②セルソーターや培養機能を有するセロミックスチップ技術、③細胞情報との対話が可能な有機高分子デバイス、④リアルタイムイメージングのための蛍光プローブ、⑤化学認識・能動駆動型有機臓器等の技術をもって、細胞から個体までを総合的にセンシングすることで生命現象を理解し、医科・歯科の領域における疾病診断及び治療へと展開いたします。またケミカルバイオロジーとの連携により、従来にない国内で唯一の相補性を持った独創的な研究開発協力体制を実現し、生命現象や難治疾患医療、健康科学に貢献する次世代の研究開発モデルを提案するものです。

「センシングバイオロジーにおける基盤技術の戦略的推進事業事業」



国際的な生命倫理学に関する研究創出事業

取組責任者 : 生命倫理研究センター長　水谷修紀　教授

当センターは 2005 年度、「ポストゲノム時代に即応した生命倫理・医療倫理の構築」として、国内拠点創出及び国際的研究支援を推進することを目的として設立されました。

1. 研究倫理審査支援についての事業

ハーバード大学公衆衛生学倫理審査部門にスタッフを派遣し、実際に研究倫理審査を効率的にかつ迅速化するようなシステムを掌握し、それらを本学に適応するため、以下のいくつかの試みを開始しました。

① 研究倫理審査申請書類の事前審査
② 倫理審査委員会における審議の効率化を図るための、ピアレビュー委員会創設
③ 研究計画・倫理審査についての教育セミナー実施
④ 研究計画前後の個別相談（電話、メール）
⑤ 学内各倫理委員会への申請書類の統一化

今後は問題点を共有し、解決を図る方法を開発することを目指しています。

2. 生命・医療・研究倫理に関する教育

本学医学部医学科・保健衛生学科、生命情報科学教育部、保健衛生学研究科及び他大学など、大学院レベルから基礎教育まで、遺伝カウンセリングを含めた生命・医療倫理の講義等を担当しました。また、研究倫理についての教育啓蒙活動として、研究倫理講習会を開催し、臨床研究指針の改正に伴い、倫理審査に申請するために必須項目として、修了証を発行しました。

3. 医療倫理の基本となる遺伝カウンセリングにおける臨床実践

自費診療による遺伝子診療外来において遺伝カウンセリングを実践し、臨床遺伝専門医研修施設として 10 名余の研修を行うとともに、認定遺伝カウンセラーの養成実習を受け入れ、カンファレンスやセミナーなどを通して、関連する診療科のスタッフへ、卒後教育などの啓発活動を行っています。

また、引き続き、疾患別ではなく、遺伝性疾患に対する意識を共通項に、画期的な遺伝カウンセリングデータベースの開発をさらに進めます。

4. 国際連携拠点の拡大

これまでの Hastings Center, Harvard school of public hearth/OHRA に加え、Emory University School of Medicine IRB を拠点として拡大し、全米最大の研究倫理審査関連学会である、PRIM&R（Public Responsibility in Medicine and Research）の日本版を創設する準備を始めました。また、これらと全国組織である医学系大学倫理審査委員会連絡会議との連携を図り、研究倫理審査の国内拠点の基盤を強固にしました。




硬組織疾患研究プロジェクト

取組責任者：硬組織疾患ゲノムセンター長　野田政樹　教授

文部科学省の特別研究教育経費により「硬組織疾患研究プロジェクト」が開始されました。本プロジェクトにおいては東京医科歯科大学における硬組織疾患研究の臨床ならびに基礎の研究集団を有機的に結集し、全学の横断的な研究の集合体として疾患情報と病態情報、さらにはこれらの基盤となる分子生命科学的な情報を基盤とした疾患科学研究を推進することを目的としています。

このプロジェクトに基づき「硬組織疾患ゲノムセンター」が発足しました。

本研究の組織は

1. 硬組織疾患分子医科学研究部門
2. 硬組織疾患ゲノム構造解析部門
3. 硬組織疾患ゲノム機能解析部門
4. 骨軟部疾患・病理情報解析部門
5. 口腔領域腫瘍疾患・病理情報解析部門
6. 先端的診断法開発部門
7. 先端的治療法開発部門
8. 未来医療展開部門

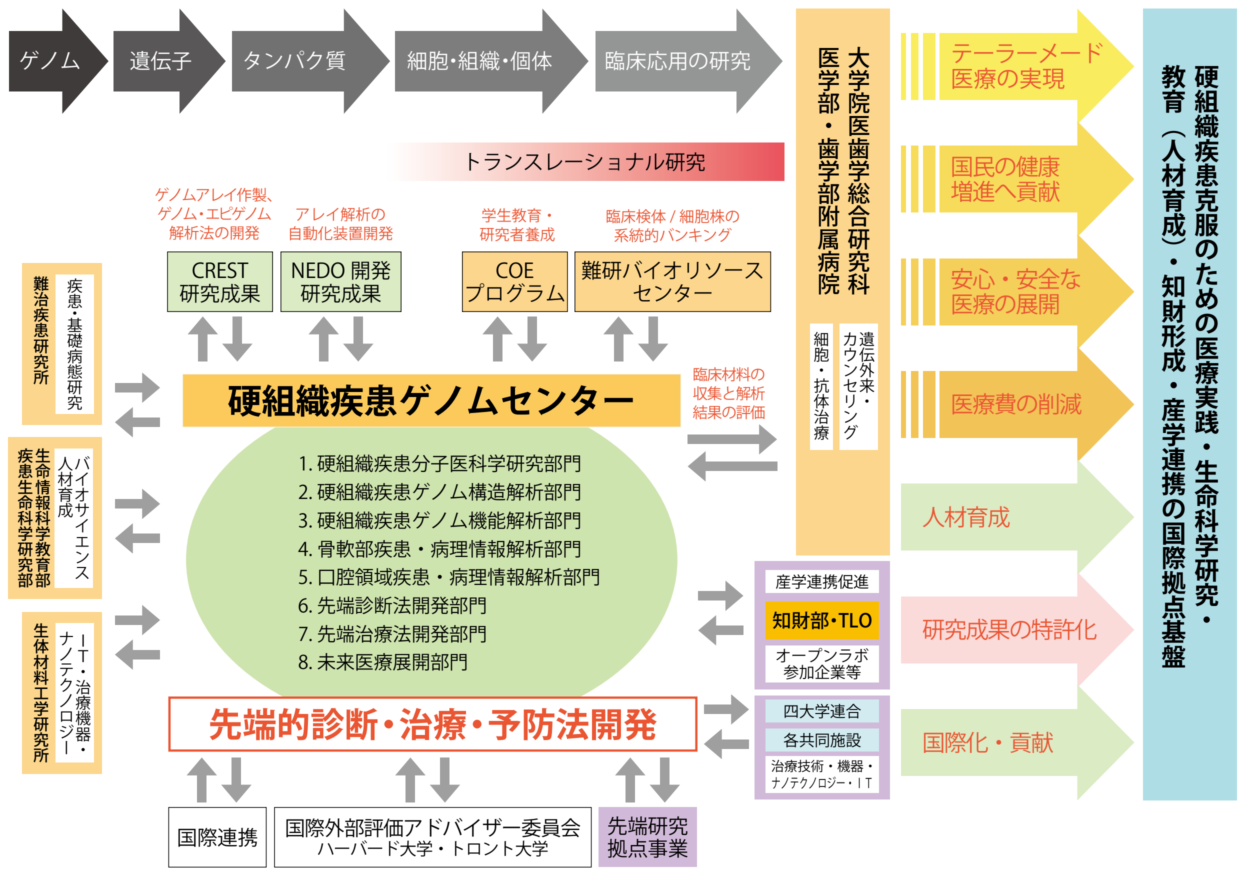
の 8 部門（センター長　野田政樹）より成ります。

本研究費をもとに医学部・歯学部・研究所の融合的な横断組織を形成し、そこに二人の特任教員が就任し研究が開始されました。ゲノムセンター構成員による研究推進会議を開催し、臨床データならびにゲノムデータの双方からの情報を解析する研究を展開しています。

既に国際評価パネルのもとに方針の評価を行っていただき、サイエンスレベルならびに研究費の使用の方向性などの上で高い評価を受けるとともに、今後の研究の方針についてもアドバイスを頂き研究の推進がなされています。

硬組織疾患ゲノムセンターにおいては、硬組織疾患のテーラーメイド医療の実現を目指すとともに、硬組織疾患のトランスレーショナルリサーチへの発展を視野に入れた活動を行い、本研究センターは硬組織におけるベンチからベッドサイドへの医療の貢献を目指して統合的な全学的組織として研究を展開しています。

硬組織疾患研究プロジェクト　概念図



組織と機能　硬組織疾患ゲノムセンター

1. 硬組織疾患分子医科学研究部門：
（教授併任 野田政樹、准教授併任 江面陽一）
骨軟部腫瘍、口腔領域腫瘍をはじめとする硬組織疾患における細胞増殖・細胞接着関連分子機能の解析、骨浸潤・骨転移の病態生理学、硬組織細胞の増殖・分化制御と疾患病態解析の研究を、ゲノム解析に対応する分子病態生理学として形態学、分子生物学の観点から推進する。

2. 硬組織疾患ゲノム構造解析部門：
（教授併任 稲澤譲治、准教授併任 井本逸勢、特任准教授 小崎健一）
骨軟部腫瘍、口腔領域腫瘍を対象とする硬組織疾患のゲノム多型、網羅的染色体構造異常、エピジェネティック遺伝子制御の解析研究から疾患（癌）の原因遺伝子の同定、悪性度診断（個性診断）のバイオマーカーの探索、治療の分子標的のスクリーニングを行い、疾患の診断、治療、予防法を開発しテーラーメイド医療の実現に資する成果を目指す。

3. 硬組織疾患ゲノム機能解析部門：
（教授併任 三木義男）
骨軟部腫瘍、口腔領域腫瘍を対象とする硬組織疾患の体系的遺伝子発現解析、プロテオミクス解析研究、機能ゲノミクス的視点から疾患遺伝子、治療の分子標的の探索、同定を行い、抗がん剤の個別感受性、疾患の診断、治療、予防法を開発しテーラーメイド医療の実現に資する成果を目指す。

4. 骨軟部疾患・病理情報解析部門：
（研究教授 石田剛）
骨軟部腫瘍を対象とする硬組織疾患の病理診断、腫瘍細胞の形態学的解析、機能解析で得られたデータからのより有用な情報の抽出や、疾患関連遺伝子の機能予測、罹病性予測等を行う。

5. 口腔領域腫瘍疾患・病理情報解析部門：
（研究教授 津田均）
口腔領域腫瘍を対象とする硬組織疾患の病理診断、腫瘍細胞の形態学的解析、機能解析で得られたデータからのより有用な情報の抽出や、シミュレーション解析による疾患関連遺伝子の機能予測、罹病性予測等を行う。

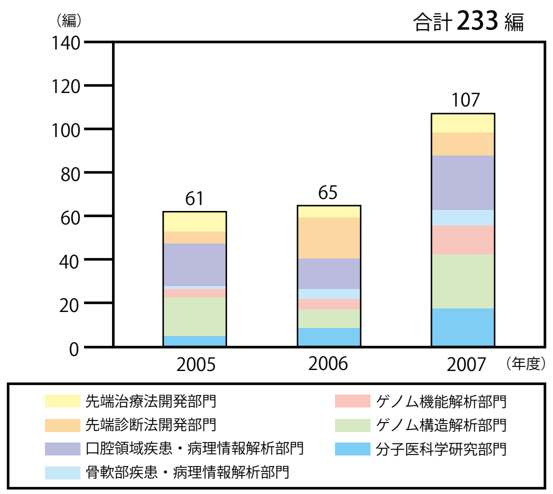
6. 先端的診断法開発部門：
（教授併任 小村健、特任講師 長谷川正午）
口腔領域腫瘍疾患を対象とする硬組織悪性疾患の先端的診断法の開発を行う。

7. 先端的治療法開発部門：
（教授併任 四宮謙一、助教併任 阿江啓介）
骨軟部腫瘍疾患を対象とする硬組織疾患の先端的治療法開発を行う。

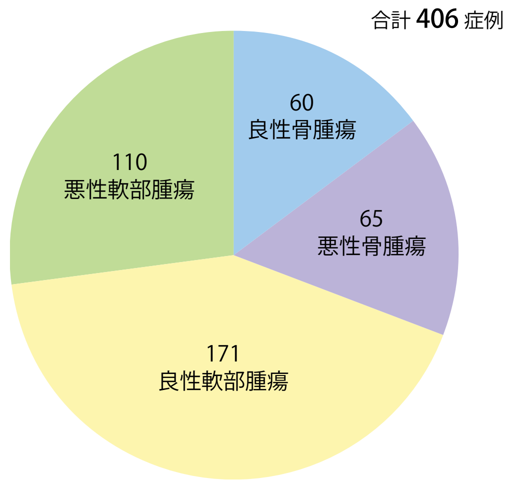
8. 未来医療展開部門：
（教授併任 森山啓司）
顎顔面異常を伴う遺伝性難治疾患の病態解明と診断、治療法の開発、ならびにその研究成果を実地医療に展開する。

硬組織疾患ゲノムセンターの実績

国際誌英文原著発表論文数



収集・保存された骨軟部腫瘍症例数



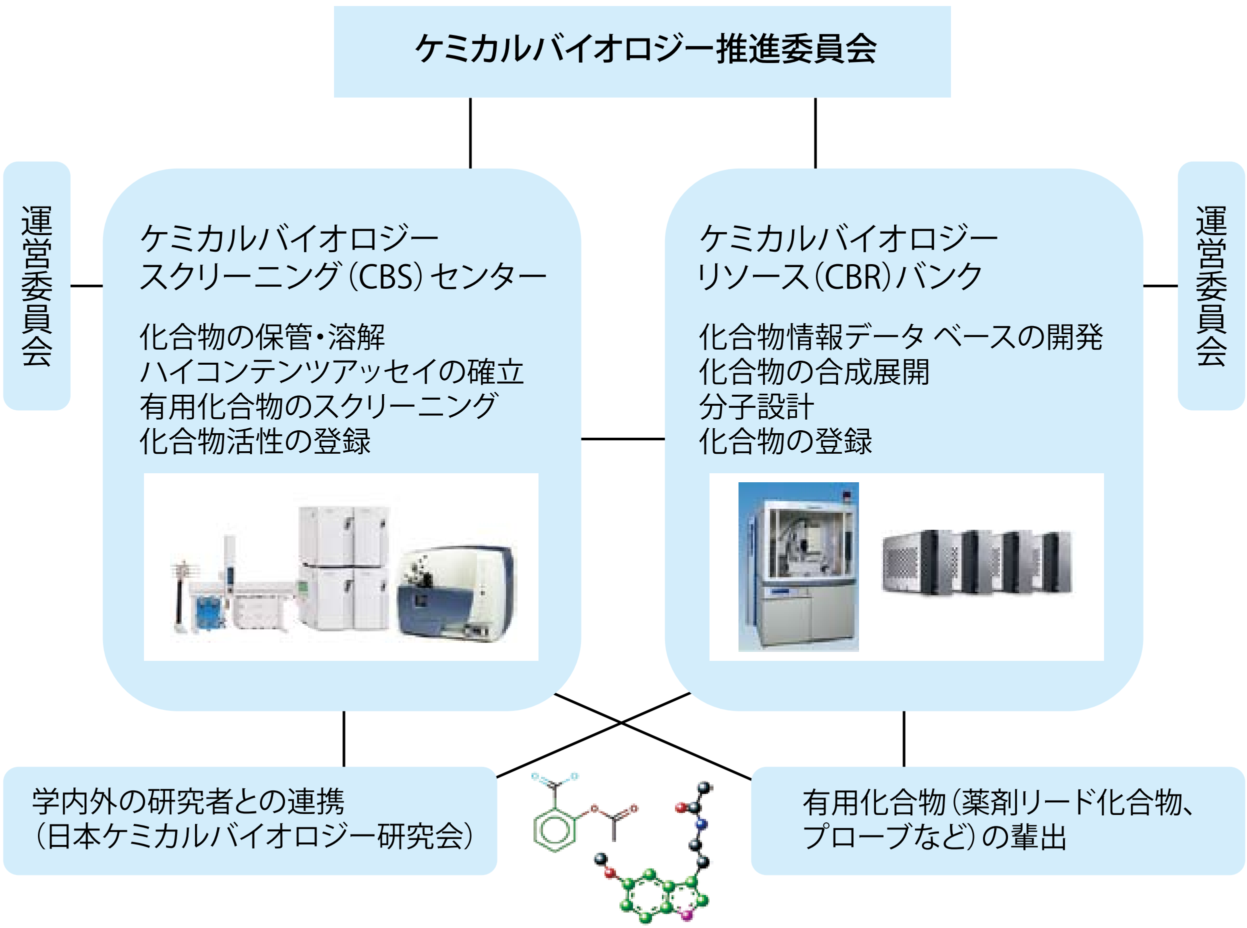
ケミカルバイオロジー推進基盤整備事業

取組責任者 : 大学院疾患生命科学研究部長　鍔田武志　教授

ケミカルバイオロジーとは、化学の考え方や化合物を駆使して生命現象の解明とその制御法の開発を行うという化学と生命科学の新たな融合領域です。この領域は、これまでの学問とは異なった方法論によって生命現象にアプローチすることにより、生命科学・医学の飛躍的な発展が期待できるとともに、化合物を用いた研究を展開するために、治療薬および可視化プローブを含む診断薬の創出に直結するという特徴を持ち、米国 NIH のロードマップ 5 本柱の 1 つとして重要視されています。また、この領域はバイオインフォマティクスや材料学などの学問分野との相互作用によりさらに発展することが期待されています。本学では、これまで優れた疾患研究を行うとともにケミカルバイオロジーの教育研究において我が国をリードしてきました。この成果をもとに、本学より申請していた、ケミカルバイオロジー推進基盤整備事業が平成 19 年度に採択され、5 年間の予定で事業の推進を行っています。この事業により、ケミカルバイオロジー領域の教育研究のますますの推進が期待されます。

本事業では、ケミカルバイオロジースクリーニングセンターとケミカルバイオロジーリソースバンクを整備拡充することにより、ケミカルバイオロジー教育研究のためのプラットフォームを整備しています。すでに本学に多数の化合物を集積した化合物ライブラリーが設置されるとともに、その構造や活性情報がデータベース化され、今後、学内外の研究者がそのデータベースにアクセスすることが可能になります。このことにより、種々の疾患の診断および治療に役立つ薬剤リード化合物の同定が容易になるとともに、生命科学および医学研究がますます推進されます。

ケミカルバイオロジー推進基盤創出事業



政策課題対応経費

Funds for Subjects Related to Policies

政策課題対応経費は国立大学として緊急に対応し、かつ、社会に対して早急な成果の発信が望まれる取り組みへの支援を目的とします。本学からは下記のプログラムが採択されました。

国際性豊かな医療人・世界的競争に打ち勝つことのできる研究者の養成

取組責任者 : 医学部長　大野喜久郎　教授

現代的教育ニーズ取組支援プログラム「国際的医療人育成のための先駆的教育体系」で達成される「国際化へ対応するための準備教育」の成果を踏まえ、「国際水準の臨床および研究教育」を行う取組です。

具体的には

(1) ハーバード大学でのクラークシップ・プログラムへの参加

(2) 本学のクラークシップ・プログラムの内容充実および環境整備

(3) 海外提携大学における研究および発表体験

からなり、実際には、医学部医学科 6 年生が正規のカリキュラムの一環として米国ハーバード大学医学生と共に臨床実習を行い、4 年生が英国インペリアルカレッジで研究に従事するプログラムが実動しています。

また、ハーバード大学から臨床実習の指導員を招聘して、本学教員と共にクラークシップの改善に取り組んでいます。

医歯学系大学教養教育の高度化とモデル形成
－東京医科歯科大学におけるリベラルアーツ教育の充実を例として－

取組責任者：教養部長　和田 勝　教授

この取り組みは、東京医科歯科大学教養部で行っている教養教育をもとにして教養教育の高度化をはかり、医療関係のプロフェッショナルとして次世代のリーダーとなりうる人材の育成を目指すとともに、医歯学系大学の教養教育のモデルを提示することを目指している。

高度職業人である医療人に必要な教養としては、人文社会自然科学系の多角的な視点、高い言語能力と他者とのコミュニケーション能力、専門知識を得るために必要な自然科学の基礎学力、自己の心身を把握し管理する能力を身につけることが挙げられる。そこで、

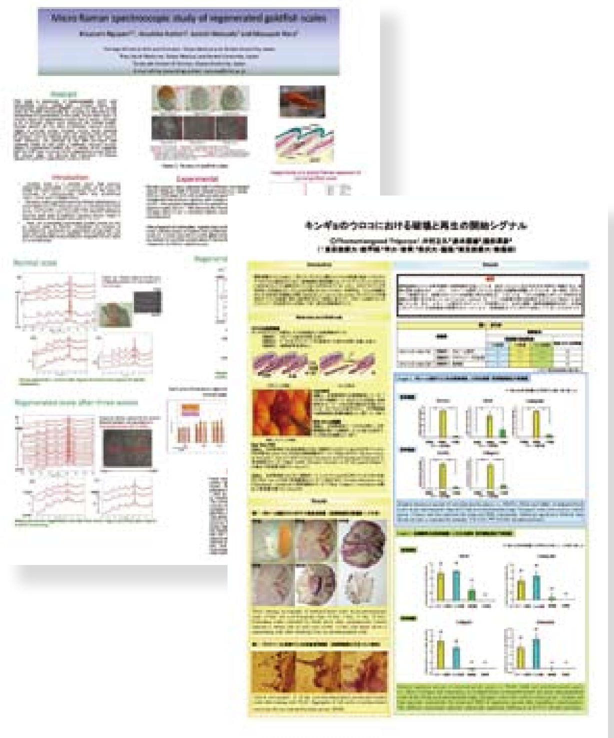
1）英語だけでなく自然科学計科目においてもプレースメントテストを実施して習熟度別クラス編成を拡大し、学習の達成度を学力認定試験により判定して、その後の履修指導に利用する。特に優れた学生は研究の実施を含むアドバンスドコースを履修させる。また、アドバンスドコースとして英語でおこなう自然系講義も用意する。

2）人文社会系科目では少人数セミナー教育を中心に据え、外国語科目とともに、読み・書き・発表する能力の高度をはかる。

3）心身の正しい理解に根ざした自己管理能力を獲得させ、他者理解の能力を涵養するため、自己管理マネジメントツールを活用して実践を図るとともに、スモールディスカッショングループを通して、コミュニケーション能力を高める。

を実施する。このような教養教育によって、リサーチマインドを涵養するとともに、多角的な視点と科学的な批判能力を育成し、専門教育を学ぶ基盤を形成し、自己管理能力とコミュニケーションスキルを身に付けることが期待される。

紹介 URL：http://www.tmd.ac.jp/artsci/Gaisan/index.htm



成績優秀で意欲のある学生は、
学会（化学系と生物系）に参加して発表を行なった。

大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻（修士課程）医療管理政策学（MMA）コース
Medical and Dental Sciences Master of Medical Administration Course

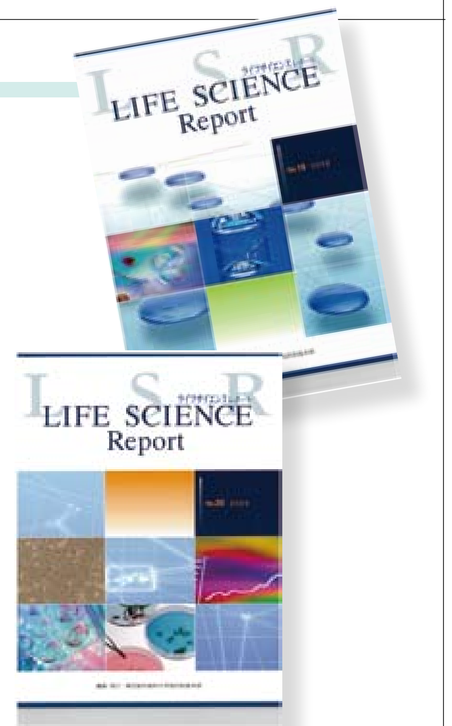
本学では、戦略的な管理運営・医療管理政策に携わる専門職の養成を目的として、平成 16 年度から医療管理政策学〔MMA：Master of Medical Administration《医療管理学（1 年）・医療政策学（2 年）》〕コースを四大学連合（本学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学）を基盤に開設し、好評を得ています。

本コースは、医療管理並びに医療政策の分野において指導的立場で活躍する人材の育成を図り、医療サービスに関わる社会的ニーズに応えようとするもので、急速な制度改革、グローバル化が進む医療の分野にあって、患者中心のより良い医療を効率的に提供できる社会システムの構築に寄与する人材を輩出しようとするものです。

履修内容は、これまでの医療管理における組織管理や安全管理を含む医療関連分野を網羅した包括的なもので、法学・経済学・工学・社会学・倫理学をも含む以下の項目について修得します。

① 医療政策
② 医療の質確保とリスク管理
③ 医療関連法規と医の倫理
④ 病院情報とセキュリティー
⑤ 医療の国際文化論
⑥ 施設設備と衛生管理
⑦ 経営戦略と組織管理
⑧ 人的資源管理と人材開発
⑨ 医療における情報発信
⑩ 臨床疫学

知的財産本部・技術移転センター（TLO）
Intellectual Property Division・Technology Licensing Organization



21 世紀において豊かで潤いある社会を実現していくため、大学などにおける知的創造活動に対し大きな社会的期待が寄せられています。とりわけ医歯学を含む生命科学領域は、IT に変わる 21 世紀の基幹産業となると予測され、「知的財産立国」構築に向けて本学も多大な貢献ができるものと期待されています。こうした社会的要請に応えていくため、本学は、医療、生体材料、バイオなどの領域に特化したユニークな知的財産本部を平成 15 年 9 月に発足させ、さらに平成 16 年8月より技術移転センター（TLO）を発足させました。学内組織として知的財産本部と TLO を合わせ持ち、両者の密接な連携により、本学の研究成果の権利化及びライセンシング活動を促進し、産業界と協力して新しい医療関連技術の開発と普及を目指しています。

また、特許情報誌“ライフサイエンスレポート”を発行してライフサイエンス分野の特許情報の分析・発信を行うとともに、ライフサイエンス分野の知的財産を評価できる人材養成を行うなど、独自の活動を推進しています。

国際交流

パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育提携
国際交流協定校／学部等間協定
外国人留学生在籍者数

International Exchange

世界トップレベルの医師、歯科医師、コ・メディカル・スタッフを育成

パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育提携

Tokyo Medical and Dental University and Partners Harvard Medical International, Inc.
Alliance for Medical Education

本学では、平成14年度にHMI（ハーバード・メディカル・インターナショナル、平成20年からPHMI／パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナル）との医学教育提携契約を締結しました。この提携は、世界トップレベルの医師、歯科医師、コ・メディカル・スタッフを育成するとともに、世界をリードする医学・歯学研究者を養成することを目標としています。

現在、世界最先端の医学教育方法の研究及び研修のために、ハーバード大学教員を本学へ招聘するばかりでなく、多数の本学教員をハーバード大学に派遣し、教育研修を実施し、着実に成果を上げています。

また、この教育連携の大きな特色としては、本学医学部医学科の正規のカリキュラムとして、「ハーバード大学の学生と共に学ぶ臨床実習」が選択コースとして設定されており、年々充実を図り、過去5年間で32名の学生が参加し、大きな成果を上げています。

更には、本提携の高い評価により、平成17年度には、特別教育研究経費「国際性豊かな医療人・世界的競争に打ち勝つことのできる研究者の養成」が措置され、カリキュラム改革等の推進に積極的に取り組んでいます。

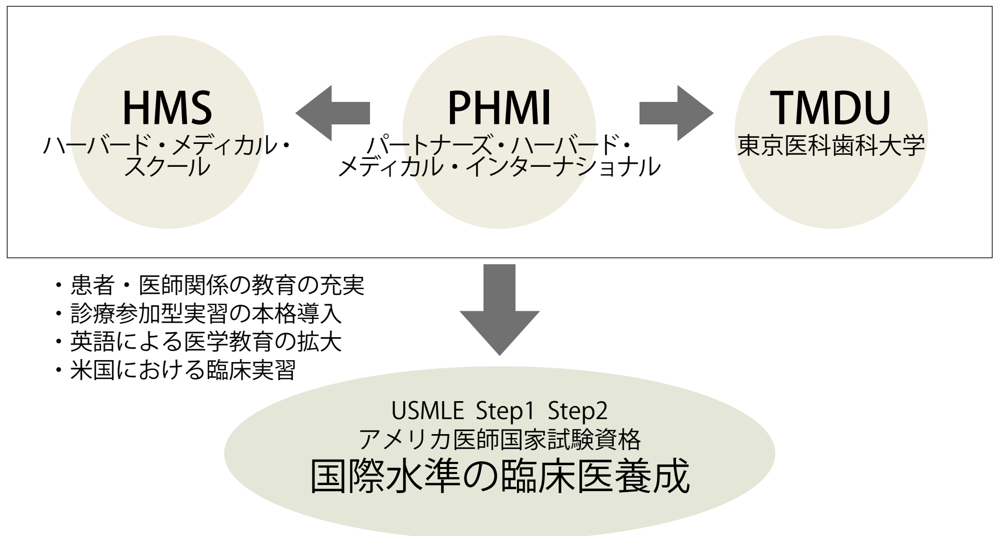
また、本年度、PHMIとの教育提携が7周年を迎えました。

本提携は広範囲におよび、学生派遣（6年次3ヶ月の臨床実習　6年間で40名、来年度10名予定）のほか、右記のような活動を行っています。

①月例テレビ会議
（カリキュラム改革案についてテレビ会議システムを利用して米国PHMIと協議を継続し、その実施経過を逐次検討）、
②教育リーダー派遣調査および協議
〔平成14年6月2名、同年12月14名、16年2月14名、17年4月14名、18年9名、19年10名、21年16名（内訳　延べ　医学部65名、歯学部11名、教養部3名、期間5-10日間）〕、
および
③HMS教員を招聘した教員研修会
（全学規模で平成12年より5回、医学科のみ平成13年より12回延べ1176人参加）
が実施されています。

このような多段階、多様な提携の結果、本学のカリキュラムは様変わりし、最終段階としてクリニカルクラークシップの改変が今始まっています。この改革には、ハーバードに派遣された教員のみならず学生、その後本学の研修医となっている卒業生の意見を反映させながら、英米では長い歴史を持つものの我が国では形式に止まっている診療チームの一翼を担う臨床実習の「真の実現」を目指し準備が進められています。

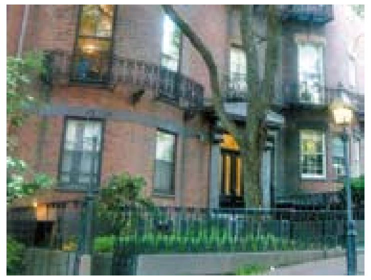
概念図




〈ハーバード大学医学部（HMS）正面〉









パートナーズ･ハーバード･メディカル･インターナショナルとの医学教育提携

国名・地域等	法人名	締結年月日 (注)〈Y/M/D〉
アメリカ合衆国	ハーバード・メディカル・インターナショナル Harvard Medical International, Inc. （2008 年から PHMI ／パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナル）	2002/07/01

国際交流協定校 / 学部等間協定

大学院医歯学総合研究科（医学系）・大学院保健衛生学研究科・医学部

国名・地域等	大学名	締結年月日
フィンランド共和国	セイナヨキ応用科学大学 Seinajoki University of Applied Sciences タンペレ大学看護学科 University of Tampere Department of Nursing Science	2004/09/08 2004/09/12
アメリカ合衆国	ワシントン大学看護学部 University of Washington School of Nursing コロラド大学デンバー校看護学部 University of Colorado Denver College of Nursing	2008/07/01 2005/10/24
イギリス	インペリアル・カレッジ医学部 Imperial College London Faculty of Medicine シェフィールド大学看護・助産学科 The University of Sheffield School of Nursing and Midwifery	2003/04/30 2008/06/11
タイ王国	チュラロンコン大学医学部 Faculty of Medicine, Chulalongkorn University	2009/04/16
フランス共和国	リヨン高等師範学校 École Normale Supérieure de Lyon	2005/04/01
ガーナ共和国	ガーナ大学野口記念医学研究所 Noguchi Memorial Institute for Medical Research	2008/05/28

大学院医歯学総合研究科（歯学系）・歯学部

国名・地域等	大学名	締結年月日
大韓民国	ソウル大学校歯科大学 College of Dentistry, Seoul National University 慶北大学校歯科大学 School of Dentistry, Kyungpook National University 全南大学校歯学部 School of Dentistry, Chonnam National University	1983/10/10 1995/09/04 2006/10/20
タイ王国	チュラロンコン大学歯学部 Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University マヒドン大学歯学部 Faculty of Dentistry, Mahidol University チェンマイ大学歯学部 Faculty of Dentistry, Chiang Mai University ソンクラ王子大学歯学部 Faculty of Dentistry, Prince of Songkla University コンケン大学歯学部 Faculty of Dentistry, Khon Kaen University	1991/01/18 2001/05/03 2001/12/07 2003/03/21 2008/01/08
中華人民共和国	吉林大学口腔医学院 College of Stomatolgy, Jilin University 大連医科大学口腔医学院 Stomatology College of Dalian Medical University 北京大学口腔医学院 School of Stomatology, Peking University 首都医科大学歯学部 School of Stomatology, Capital Medical University 同済大学口腔医学院 Tongji University, School of Stomatology	1993/07/27 2000/06/08 2003/09/21 2006/09/01 2008/10/14
台湾	台北医学大学口腔医学院 College of Oral Medicine, Taipei Medical University 国立台湾大学医学部歯学科 School of Dentistry, College of Medicine, National Taiwan University	2004/04/23 2005/06/14
インドネシア共和国	インドネシア大学歯学部 Faculty of Dentistry, University of Indonesia	1993/08/31
シンガポール共和国	シンガポール大学歯学部 Faculty of Dentistry, National University of Singapore	1995/07/20
マレーシア	マラヤ大学歯学部 Faculty of Dentistry, University of Malaya	1995/08/27
デンマーク王国	コペンハーゲン大学健康科学部歯学科 School of Dentistry, Faculty of Health Sciences, University of Copenhagen	1995/08/31
ミャンマー連邦	ヤンゴン歯科大学 Institute of Dental Medicine, Yangon	1995/09/08
ベトナム社会主義共和国	ホーチミン医科薬科大学歯学部 Faculty of Odonto-Stomatology, The University of Medicine & Pharmacy at Ho Chi Minh City ハノイ歯科大学 University of Odonto-Stomatology, Hanoi	1996/01/16 2005/06/07
モンゴル国	モンゴル健康科学大学歯学部 School of Dentistry, Health Sciences University of Mongolia	1999/01/19
スリランカ民主社会主義共和国	ペラデニヤ大学歯学部 Faculty of Dental Sciences, University of Peradeniya	1999/04/29
カンボジア王国	カンボジア健康科学大学歯学部 Faculty of Odonto-Stomatology, University of Health Sciences, Phnom Penh Cambodia	2002/09/19
ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学医科学部歯学科 Faculty of Medical Sciences, National University of Laos	2003/10/28
フィリピン共和国	フィリピン大学マニラ校歯学部 College of Dentistry, University of the Philippines Manila	2003/11/06
イギリス	キングスカレッジロンドン歯科部 King's College London Dental Institute	2008/11/04
ドイツ連邦共和国	チャリテーベルリン医学大学 Charité-University Medicine Berlin	2004/03/17
チェコ共和国	マサリク大学医学部口腔科学科 Masaryk University, Faculty of Medicine	2009/04/29
アメリカ合衆国	ペンシルベニア大学歯学部 School of Dental Medicine, University of Pennsylvania ハーバード大学歯学部 Harvard School of Dental Medicine ノースキャロライナ大学歯学部 School of Dentistry, University of North Carolina at Chapel Hill カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部 School of Dentistry, University of California San Francisco	1994/01/27 1996/07/26 1999/03/18 2000/08/28
カナダ	マギル大学歯学部 Faculty of Dentistry, McGill University	2006/08/07
オーストラリア	メルボルン大学健康科学部歯学科 School of Dental Science, Faculty of Medicine, Dentistry and Health Sciences, The University of Melbourne	1994/03/31

生体材料工学研究所

国名・地域等	大学名	締結年月日
イギリス	ストラスクライド大学バイオエンジニアリングユニット Bioengineering Unit, University of Strathclyde ロンドン大学クイーンメアリー・アンド・ウエストフィールド校生体医用材料総合研究センター Interdisciplinary Research Centre in Biomedical Materials and Science, Queen Mary and Westfield College, University of London	1993/03/26 1995/07/03
スウェーデン王国	リンシェピン大学医用生体工学科 Department of Biomedical Engineering, Linkoping University	1995/09/26
ポーランド共和国	ポーランド科学アカデミー、バイオサイバネティクス・生体工学研究所 ならびにバイオサイバネティクス国際センター Institute of Biocybernetics and Biomedical Engineering and International Center of Biocybernetics, Polish Academy of Science	1996/02/21
大韓民国	慶北大学校生体材料研究所 Institute for Biomaterials Research and Development, Kyungpook National University	1996/09/24
中華人民共和国	北京大学口腔医学院 School of Stomatology, Peking University	2006/06/06

難治疾患研究所

国名・地域等	大学名	締結年月日
シンガポール共和国	国立シンガポール大学腫瘍研究所 Oncology Research Institute, National University of Singapore	2003/01/01
アメリカ合衆国	マサチューセッツ総合病院 The General Hospital Corporation D/B/A, Massachusetts General Hospital	2005/04/25
タイ王国	チュラロンコン大学歯学部 Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University	2006/02/28
フランス共和国	リヨン高等師範学校 École Normale Supérieure de Lyon	2008/02/25

大学院生命情報科学教育部・大学院疾患生命科学研究部・難治疾患研究所

国名・地域等	大学名	締結年月日
ポーランド共和国	グダニスク医科大学 Medical University of Gdansk	2003/11/01
ドイツ連邦共和国	ドイツリウマチ疾患研究センター Deutsches Rheuma-Forschungszentrum Berlin	2004/02/01
中華人民共和国	北京大学医学部基礎医学院 School of Basic Medical Sciences, Peking University Health Science Center 中国医科大学 China Medical University	2006/02/27 2008/04/01

外国人留学生在籍者数

平成21年5月1日現在 (May1, 2009)

区分		大学院学生						学部学生				専攻生										日本語研修生	小計		計
国・地域等		医歯学総合研究科		保健衛生学研究科		生命情報科学教育部		医学部		歯学部		医学部		歯学部		生体材料工学研究所		難治疾患研究所		国際交流センター		国際交流センター	国費	私費	
アジア	韓国	1	1		1		1								1								1	4	5
アジア	中国	5	43	1		3	3		2		2		6		3		1		1				9	61	70
アジア	モンゴル	2	3				1						1										2	5	7
アジア	フィリピン	1																					1	0	1
アジア	インドネシア	5																					5	0	5
アジア	シンガポール					1																	1	0	1
アジア	ヴィエトナム	3																					3	0	3
アジア	ラオス	1																					1	0	1
アジア	カンボディア	2																					2	0	2
アジア	マレーシア	1	1																				1	1	2
アジア	ブルネイ							1															1	0	1
アジア	タイ	12	2					1														4	17	2	19
アジア	ミャンマー	1	1				1										1		1				1	4	5
アジア	ネパール		1				1																0	0	2
アジア	バングラデシュ	8	9																				8	9	17
アジア	インド	3	3																				3	3	6
アジア	スリランカ	3	2			1																	4	2	6
アジア	パキスタン					1																	1	0	1
アジア	アフガニスタン		1																				0	1	1
アジア	イラン	1	2				1								1								1	4	5
アジア	イラク	1	1																				1	1	2
アジア	ヨルダン	2																					2	0	2
ヨーロッパ	キプロス	1																					1	0	1
ヨーロッパ	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1																					1	0	1
ヨーロッパ	アゼルバイジャン	1																					1	0	1
ヨーロッパ	スロバキア	1																					1	0	1
ヨーロッパ	スウェーデン					1													1				1	1	2
アフリカ	エジプト	1	1																				1	1	2
アフリカ	リビア	1																					1	0	1
アフリカ	タンザニア	1																					1	0	1
アフリカ	ガーナ	1	1																				1	1	2
アメリカ	カナダ					1																	1	0	1
アメリカ	メキシコ						1																0	1	1
アメリカ	ブラジル	1																					1	0	1
アメリカ	パラグアイ	3																					3	0	3
オセアニア	ホンジュラス																					1	1	0	1
オセアニア	フィジー	1																					1	0	1
オセアニア	オーストラリア										1												0	1	1
	小計	65	72	1	1	8	9	2	2	0	3	0	7	0	5	0	2	0	3	0	0	5	81	104	185
	合計	国費 74		私費 82				国費 2		私費 5		国費 0					私費 17					国費 5			185
							156				7										17	5			

※大学院学生（私費）には大学院特別研究学生を含む。

国際交流会館

所在地	千葉県市川市国府台２－８－１
建築概要	鉄筋コンクリート　３階建
面　積	1,708 ㎡
居住施設	単身 33 室 15 ㎡　夫婦 10 室 40 ㎡　家族 5 室 58 ㎡
管理・共用施設	管理事務室、エントランスホール、郵便受けコーナー、倉庫、談話室、コインランドリー

国際学生宿舎

所在地	千葉県市川市国府台２－８－１
建築概要	鉄筋コンクリート　４階建
面　積	1,175 ㎡
居住施設	単身 50 室 15 ㎡
管理・共用施設	談話室、コインランドリー

※居住施設には国際交流会館の一部を含む。

統計

職員数
学生数（大学院・学部）
平成21年度入学志願者・入学者数（大学院・学部）
大学院修了者・学部卒業生数及び進路（大学院・学部）
学位授与数
附属教育施設
平成21年度科学研究費補助金採択状況
受託研究費等受入状況（平成20年度）
平成21年度厚生労働科学研究費補助金採択状況
寄附講座・寄附研究部門一覧
平成21年度収入・支出予算

Statistics 2009

職員数

平成 21 年 5 月 1 日現在 (May 1, 2009)

区分	役員	教員					その他の職員				計
		教授	准教授	講師	助教	小計	一般職	薬剤師 放射線技師 検査技師等	看護師	小計	
学長	1										1
理事	5										5
監事	2(1)										2(1)
事務局							162			162	162
大学院医歯学総合研究科		73	50	37	141	301					301
大学院保健衛生学研究科		16	5	5	14	40					40
大学院疾患生命科学研究部		8	5		1	14					14
医学部							66	7		73	73
医学部附属病院		1	8	30	94	133	4	105	652	761	894
歯学部		6	2	4	1	13	29	3		32	45
歯学部附属病院			4	12	23	39		50	57	107	146
歯学部附属歯科技工士学校				5		5					5
教養部		9	10		2	21	3			3	24
生体材料工学研究所		9	6	1	14	30	6			6	36
難治疾患研究所		17	18		24	59	9			9	68
附属図書館							5			5	5
国府台分館							2			2	2
疾患遺伝子実験センター		1		1	1	3					3
先端研究支援センター　機器分析センター			1		1	2					2
先端研究支援センター　アイソトープ総合センター			1			1	2			2	3
先端研究支援センター　医学部附属動物実験施設					1	1					1
国際交流センター			4			4					4
保健管理センター		1	1			2			1	1	3
医歯学教育システム研究センター		2	1	1		4					4
脳統合機能研究センター			2			2					2
職員数	8(1)	143	118	96	317	674	288	165	710	1163	1845 (1)

＊（　）内は非常勤役員を内数で示す。

学生数 大学院

平成21年5月1日現在 (May 1, 2009)

医歯学総合研究科

専攻	入学定員	収容定員	修士課程						博士課程										計	
			第 1		第 2		小計		第 1		第 2		第 3		第 4		小計			
医歯科学（一般コース）	50	85	52	39	32	19	84	58											84	58
医歯科学（MMA コース）	15	25	19	14	10	8	29	22											29	22
口腔機能再構築学系	42	168							59 <5>	27	51 <3>	25	48 <3>	20	32 <3>	18	190 <14>	90	190 <14>	90
顎顔面頸部機能再建学系	30	120							29 <1>	9	32	13	25 <1>	4	30 <1>	7	116 <3>	33	116 <3>	33
生体支持組織学系	18	72							21 <2>	8	14 <2>	7	11	3	14 <1>	7	60 <5>	25	60 <5>	25
環境社会医歯学系	20	80							16 [5]	6	18 [5]	8	23 [3]	14	33 [4]	15	90 [17]	43	90 [17]	43
老化制御学系	10	40							17	7	14	4	11	4	33	8	75	23	75	23
全人的医療開発学系	8	32							1	1	7	4	8	5	20	11	36	21	36	21
認知行動医学系	19	76							13	6	17	3	19	3	20	8	69	20	69	20
生体環境応答学系	17	68							13	7	11	5	14	8	18	7	56	27	56	27
器官システム制御学系	29	116							30	4	35	8	30	10	41	12	136	34	136	34
先端医療開発学系	21	84							32	8	26	8	29	15	37	10	124	41	124	41
小計	279	966	71	53	42	27	113	80	231	83	225	85	218	86	278	103	952	357	1,065	437

保健衛生学研究科

専攻	入学定員	収容定員	博士（前期）課程						博士（後期）課程										計	
			第 1		第 2		小計		第 1		第 2		第 3		第 4		小計			
総合保健看護学	前期 17 後期 8	前期 34 後期 24	22	19	22	20	44	39	12	11	11	11	26	26			49	48	93	87
生体検査科学	前期 12 後期 6	前期 24 後期 18	15	13	13	10	28	23	2	2	6	5	11	7			19	14	47	37
小計	前期 29 後期 14	前期 58 後期 42	37	32	35	30	72	62	14	13	17	16	37	33			68	62	140	124

生命情報科学教育部

専攻	入学定員	収容定員	博士（前期）課程						博士（後期）課程										計	
			第 1		第 2		小計		第 1		第 2		第 3		第 4		小計			
バイオ情報学	前期 21 後期 8	前期 42 後期 23	31 (6)	15	20 (4)	13	51 (10)	28	9	4	9 (1)	3	20	7			38 (1)	14	89 (11)	42
高次生命科学	前期 24 後期 7	前期 48 後期 20	18	3	25 (1)	9	43 (1)	12	9 (5)	5	7	4	5	3			21 (5)	12	64 (6)	24
小計	前期 45 後期 15	前期 90 後期 43	49	18	45	22	94	40	18	9	16	7	25	10			59	26	153	66

合計（修士課程・博士課程）	入学定員	収容定員	修士課程						博士課程										計	
			第 1		第 2		小計		第 1		第 2		第 3		第 4		小計			
	279	966	71	53	42	27	113	80	231 <8> [5]	83	225 <5> [5]	85	218 <4> [3]	86	278 <5> [4]	103	952 <22> [17]	357	1,065 <22> [17]	437

合計（博士前期・博士後期）	入学定員	収容定員	博士（前期）課程						博士（後期）課程										計	
			第 1		第 2		小計		第 1		第 2		第 3		第 4		小計			
	103	233	86 (6)	50	80 (5)	52	166 (11)	102	32 (5)	22	33 (1)	23	62	43			127 (6)	88	293 (17)	190

総合計	
1,358 <22> [17] (17)	627

＊（注１） 赤色は、女子院生を内数で示す。
＊（注２）〈　〉内は、先端口腔科学国際プログラム学生を内数で示す。
＊（注３）［　］内は、パブリックヘルスリーダー養成特別コース学生を内数で示す。
＊（注４）（　）内は、生命情報科学国際教育プログラム学生を内数で示す。

学生数｜学部

平成 21 年 5 月 1 日現在（May 1, 2009）

医学部

		入学定員	収容定員	第 1		第 2		第 3		第 4		第 5		第 6		計	
医学科		85 〈5〉	480	86	28	75	27	89 [6]	16 [0]	90 [6]	23 [3]	86 [5]	26 [3]	79 [5]	29 [3]	505 [22]	149 [9]
保健衛生学科	看護学専攻	55	210	59	57	55	53	48	46	48 [1]	43 [1]					210 [1]	199 [1]
	検査技術学専攻	35	130	36	27	33	28	37	26	30	22					136	103
小計		90	340	95	84	88	81	85	72	78 [1]	65 [1]					346 [1]	302 [1]

歯学部

	入学定員	収容定員	第 1		第 2		第 3		第 4		第 5		第 6		計	
歯学科	55 〈10〉	370	55	26	59	24	69 [8]	30 [6]	66 [11]	31 [9]	61 [10]	25 [7]	62 [9]	25 [6]	372 [38]	161 [28]
口腔保健学科	27 〈6〉	116	30	29	27	25	26 [6]	25 [6]	33 [7]	31 [7]					116 [13]	110 [13]

合計	入学定員	収容定員	第 1		第 2		第 3		第 4		第 5		第 6		計	
	257	1,306	266	167	249	157	269 [20]	143 [12]	267 [25]	150 [20]	147 [15]	51 [10]	141 [14]	54 [9]	1,339 [74]	722 [51]

専攻生

区分		男	女	計
医学部	医学科	27	13	40
	保健衛生学科	8	17	25
歯学部	歯学科	125	90	215
	口腔保健学科	1	5	6
生体材料工学研究所				
難治疾患研究所				
合計		161	125	286

＊（注 1）赤色は、女子学生を内数で示す。
＊（注 2）〈 〉内は、3 年次編入学定員を外数で示す。
＊（注 3）［ ］内は、3 年次編入学生を内数で示す。

平成21年度入学志願者･入学者数｜大学院

医歯学総合研究科

専攻	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
医歯科学（MMA コース含む）	65	78	91	169	18	53	71
口腔機能再構築学系	42	40	29	69	32	27	59
顎顔面頸部機能再建学系	30	22	10	32	20	9	29
生体支持組織学系	18	17	8	25	13	8	21
環境社会医歯学系	20	11	8	19	10	6	16
老化制御学系	10	10	8	18	10	7	17
全人的医療開発学系	8	0	5	5	0	1	1
認知行動医学系	19	8	6	14	7	6	13
生体環境応答学系	17	6	8	14	6	7	13
器官システム制御学系	29	30	6	36	26	4	30
先端医療開発学系	21	25	8	33	24	8	32
計	279	247	187	434	166	136	302

保健衛生学研究科

専攻	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
総合保健看護学	前期 17	7	35	42	3	17	20
	後期 8	5	24	29	1	11	12
生体検査科学	前期 12	4	20	24	2	13	15
	後期 6	0	3	3	0	2	2
計	前期 29	11	55	66	5	30	35
	後期 14	5	27	32	1	13	14

生命情報科学教育部

専攻	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
バイオ情報学	前期 21	35	24	59	14	12	26
	後期 8	7	4	11	5	4	9
高次生命科学	前期 24	31	20	51	13	3	16
	後期 7	1	4	5	1	4	5
計	前期 45	66	44	110	27	15	42
	後期 15	8	8	16	6	8	14

＊（注 1） 赤色は、女子院生を内数で示す。

平成21年度入学志願者・入学者数｜学部

医学部

専攻		入学定員	志願者			入学者		
			男	女	計	男	女	計
医学科		85 〈5〉	370 〈28〉	172 〈20〉	542 〈48〉	58 〈6〉	27 〈0〉	85 〈6〉
保健衛生学科	看護学専攻	55 [20]	2 [0]	112 [44]	114 [44]	2 [0]	53 [19]	55 [19]
	検査技術学専攻	35 [5]	33 [1]	83 [12]	116 [13]	8 [0]	27 [6]	35 [6]
小計		175 [25]〈5〉	405 [1]〈28〉	367 [56]〈20〉	772 [57]〈48〉	68 [0]〈6〉	107 [25]〈0〉	175 [25]〈6〉

歯学部

専攻	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
歯学科	55 〈10〉	160 〈9〉	131 〈21〉	291 〈30〉	29 〈2〉	25 〈6〉	54 〈8〉
口腔保健学科	27 〈6〉	8 〈0〉	91 〈19〉	99 〈19〉	0 〈0〉	27 〈6〉	27 〈6〉
小計	82 〈16〉	168 〈9〉	222 〈40〉	390 〈49〉	29 〈2〉	52 〈12〉	81 〈14〉

合計	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
	257 [25]〈21〉	573 [1]〈37〉	589 [56]〈60〉	1,162 [57]〈97〉	97 [0]〈8〉	159 [25]〈12〉	256 [25]〈20〉

＊（注１）赤色は、女子学生を内数で示す。
＊（注２）［　］内は、推薦入学生について内数で示す。
＊（注３）〈　〉内は、３年次編入学生について外数で示す。
＊（注４）志願者・入学者数は留学生を含む。

大学院修了者・学部卒業生数及び進路

大学院

区分			平成20年度	累計	進学	臨床研修医	就職 社会人大学院生を含む	その他
医歯学総合研究科	博士		206	1,242	2		153	51
	修士		60	310	15		40	5
医学系研究科	博士	医学		978 (58)				
		看護		30				
		検査		10				
	修士	看護		100				
		検査		93				
歯学研究科	博士			1,361 (28)				
保健衛生学研究科	博士（後期）		20	91			17	3
	博士（前期）		25	225	4		18	3
生命情報科学教育部	博士（後期）		9	27			6	3
	博士（前期）		42	150	10		25	7
計			362	4,617	31		259	72

学部

区分		平成20年度	累計	進学	臨床研修医	就職	その他
医学部	医学科	86	3,906	2	78		6
	保健衛生学科	94	1,615	17		72	5
歯学部	歯学科	61	4,071		51		10
	口腔保健学科	34	61	7		22	5
計		275	9,653	26	129	94	26

＊（注）（　）内の数字は、研究科（旧制大学院）を示す。

学位授与数

課程博士

区分	博士						
	医学	歯学	学術	看護学	保健学	理学	バイオ情報学
平成20年度	94	84	13	4	9	10	1
累計	1,533	1,819	104	61	35	27	1

論文博士

区分	博士				
	医学	歯学	学術	看護学	保健学
平成20年度	15	3	0	2	0
累計	1,693	475	18	10	8

課程修士

区分	修士									
	医科学	歯科学	医療管理学	医療政策学	看護学	保健学	理学	生命情報科学	バイオ情報学	学術
平成20年度	42	1	6	9	11	12	38	3	0	1
累計	244	6	45	43	223	193	142	5	2	1

学位記授与式

附属教育施設

平成21年5月1日現在 (May 1, 2009)

生徒数

学校	学年		計
	第1	第2	
歯科技工士学校	20 (10)	20 (11)	40 (21)
歯科技工士学校（実習科）	10 (6)	10 (4)	20 (10)
計	30 (16)	30 (15)	60 (31)

卒業生数

学校	平成20年度	累計
歯科技工士学校	21	1,027
歯科技工士学校（実習科）	11	465
計	32	1,492

平成21年度入学志願者・入学者数

学校	入学定員	志願者			入学者		
		男	女	計	男	女	計
歯科技工士学校	20	20	19	39	10	10	20
歯科技工士学校（実習科）	10	6	9	15	4	6	10
計	30	26	28	54	14	16	30

＊（注1）赤色は、女子学生を内数で示す。

平成21年度科学研究費補助金採択状況

平成21年5月1日現在 (May 1, 2009)

研究種目	件数	金額（千円）
特定領域研究 Grant-in-Aid for Scientific Research on Priority Areas	35	372,200
挑戦的萌芽研究 Grant-in-Aid for Challenging Exploratory Research	36	54,700
若手研究（A）Grant-in-Aid for Young Scientists（A）	7	53,170
若手研究（B）Grant-in-Aid for Young Scientists（B）	113	208,260
特別研究員奨励費 Grant-in-Aid for JSPS Fellows	37	29,000
基盤研究（S）Grant-in-Aid for Scientific Research（S）	1	21,970
基盤研究（A）Grant-in-Aid for Scientific Research（A）	15	218,920
基盤研究（B）Grant-in-Aid for Scientific Research（B）	51	284,960
基盤研究（C）Grant-in-Aid for Scientific Research（C）	111	187,850
学術創成研究費 Grant-in-Aid for Creative Scientific Research	3	277,160
若手研究（スタートアップ）Grant-in-Aid for Young Scientists (Start-up)	11	16,549
若手研究（S）Grant-in-Aid for Young Scientists(S)	2	30,550
新学術領域研究 Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas	1	19,890
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	3	1,560
研究成果公開促進費 Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Results	1	700
合計 Total	427	1,777,439

受託研究費等受入状況（平成20年度）

外部資金区分（受託事業を含む）	件数	金額（千円）
受託（委託）研究費（うち複数年契約によるもの）Entrusted Research	94 (28)	848,313 (160,569)
共同研究費（うち複数年契約によるもの）Cooperative Research	117 (73)	426,863 (271,574)
奨学寄附金 Donation for Promotion of Learning	714	1,075,892
合計 Total	925	2,351,068

＊　複数年度契約とは、研究期間が平成19年度を含み、2年度以上にまたがるものであり、当該19年度に受け入れた金額（件数も1件としてカウント）を積算したもの。

平成21年度厚生労働科学研究費補助金採択状況

平成21年5月1日現在 (May 1, 2009)

研究種目	件数	金額（千円）
エイズ対策 Research on HIV/AIDS	1	3,405
健康安全・危機管理対策総合研究 Research on Health Security Control	3	17,300
こころの健康科学研究 Research on Psychiatric and Neurological Diseases and Mental Health	1	31,200
再生医療実用化研究 Research on Regenerative Medicine for Clinical Application	3	97,381
長寿科学総合研究 Comprehensive Research on Aging and Health	1	30,000
難治性疾患克服研究 Research on Measures for Intractable Diseases	6	228,000
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究 Research on Regulatory Science of Pharamaceuticals and Medical Devices	3	36,000
感覚器障害研究 Researches on Sensory and Communicative Disorders	2	21,000
肝炎等克服緊急対策研究 Research on Hepatitis	1	110,500
循環器疾患等生活習慣病対策総合研究 Comprehensive Research on Cardiovascular and Life-Style Related Diseases	1	17,800
統計情報総合研究 Research on Statistics and Information	1	1,000
地域医療基盤開発推進研究 Research on Region Medical	8	59,300
免疫アレルギー疾患等予防・治療 Research on Allergicdisease and Immunology	1	36,000
合計 Total	32	688,886

寄附講座・寄附研究部門一覧

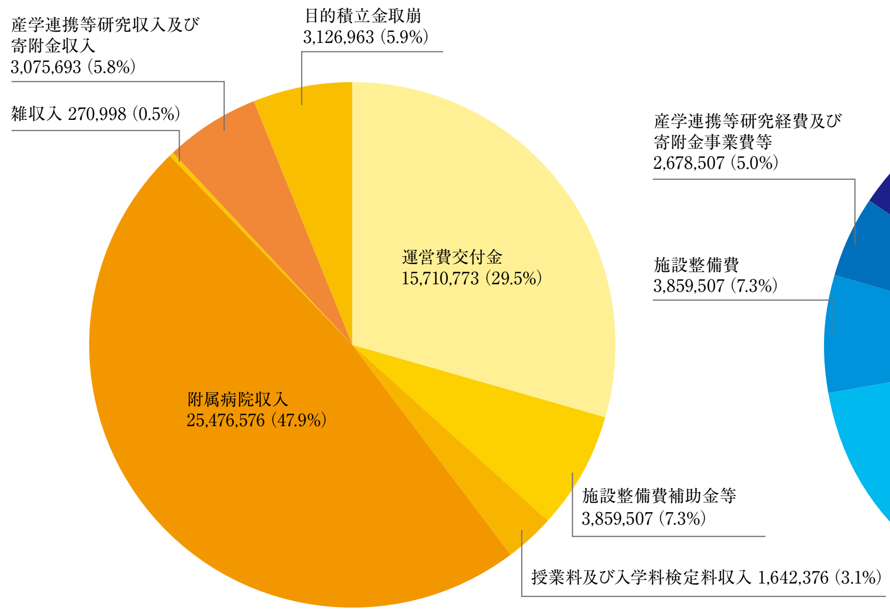
平成21年5月1日現在 (May 1, 2009)

所属部局名	寄附講座名・寄附研究部門名	設置期間	寄附者
情報処理センター	先端生命医療情報学研究部門	H16.8.1 ～ H21.7.31	日本ベリサイン（株）／富士ゼロックス（株） ティー・ティー・ティー（株）／（株）スプライト
大学院医歯学総合研究科	薬害監視学講座	H17.4.1 ～ H22.3.31	田辺三菱製薬（株）／ワイス（株）／武田薬品工業（株） アボットジャパン（株）／エーザイ（株）／中外製薬（株）
大学院医歯学総合研究科	ナノメディスン（DNP）講座	H17.4.1 ～ H22.3.31	大日本印刷（株）
大学院医歯学総合研究科	応用腫瘍学講座	H17.10.1 ～ H23.9.30	大鵬薬品工業（株）
大学院医歯学総合研究科	分子肝炎制御学講座	H18.4.1 ～ H24.3.31	シェリング・プラウ（株）
大学院医歯学総合研究科	消化管先端治療学講座	H19.4.1 ～ H22.3.31	杏林製薬（株）／旭化成メディカル（株）／味の素ファルマ（株） ユーシービージャパン（株）／大塚製薬（株）／エーザイ（株） （株）JIMRO／ゼリア新薬工業（株）／田辺三菱製薬（株）
大学院医歯学総合研究科	脊椎・脊髄再生治療学講座	H19.8.1 ～ H22.3.31	HOYA（株）／メドトロニックソファモアダネック（株）
大学院医歯学総合研究科	血管病先進制御学講座	H19.6.1 ～ H22.5.31	田辺三菱製薬（株）
大学院医歯学総合研究科	軟骨再生学講座	H19.6.1 ～ H24.5.31	日本メディカルマテリアル（株）
大学院医歯学総合研究科	睡眠制御学講座	H21.6.1 ～ H24.5.31	フクダ電子（株）／帝人在宅医療（株）／グラクソ・スミスクライン（株）

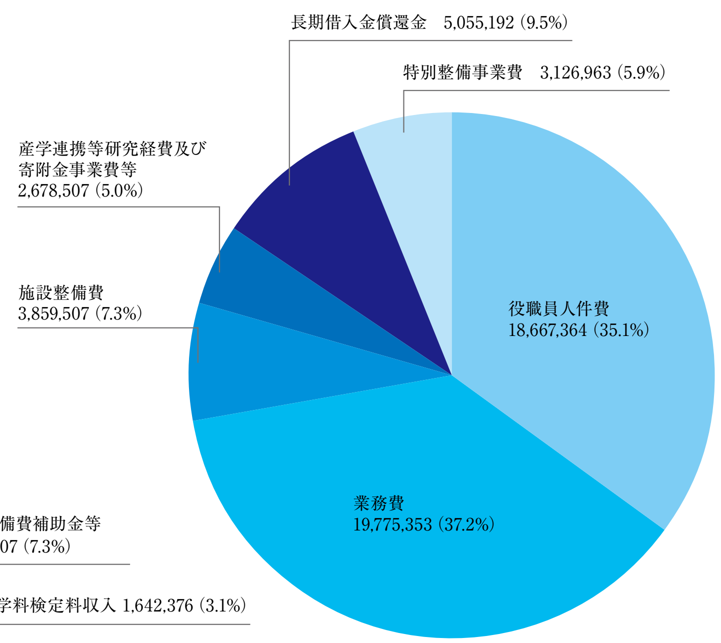
平成21年度収入・支出予算

単位：千円

収入 総額　53,162,886 千円



支出 総額　53,162,886 千円



キャンパス概要

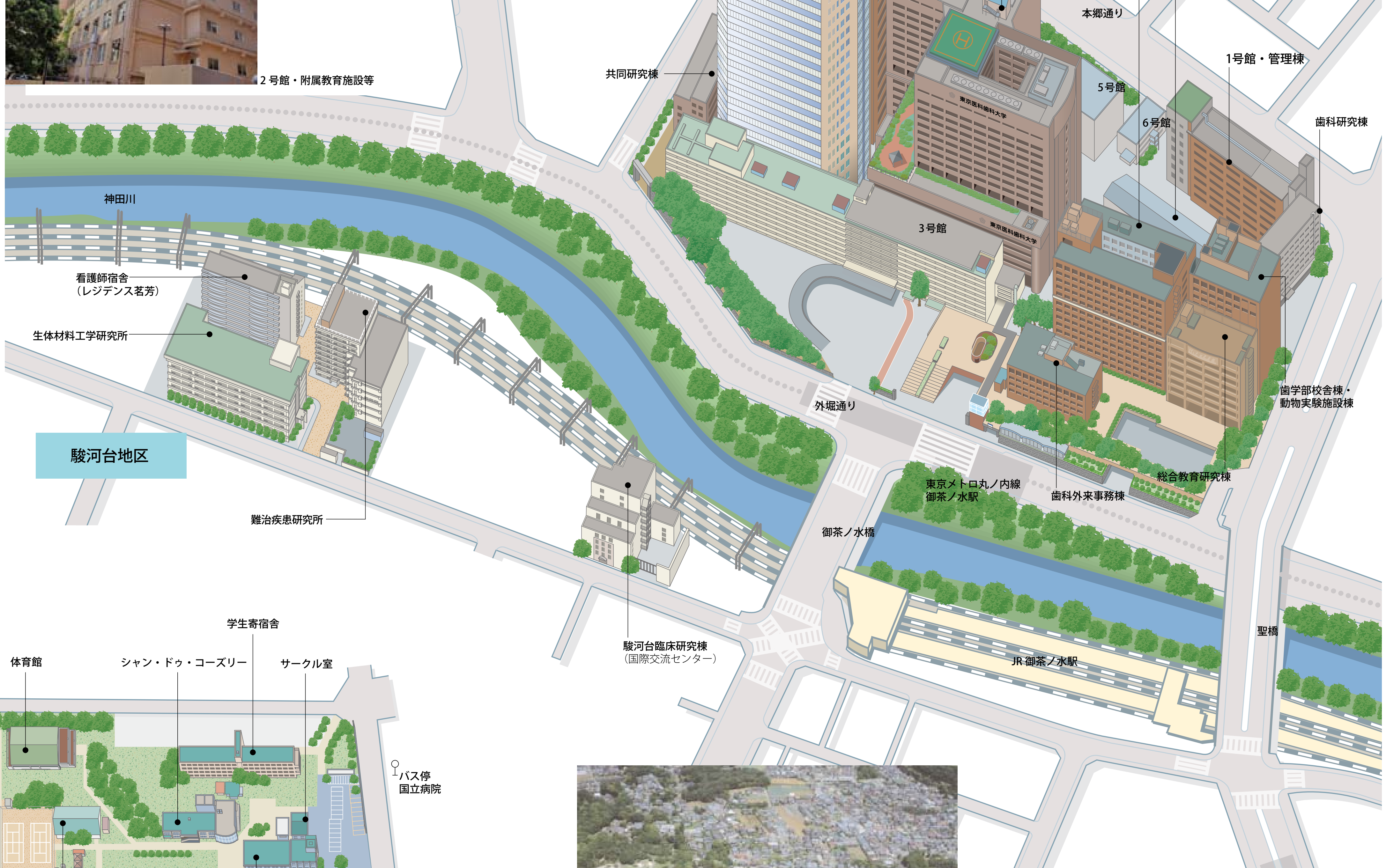
2号館・附属教育施設等

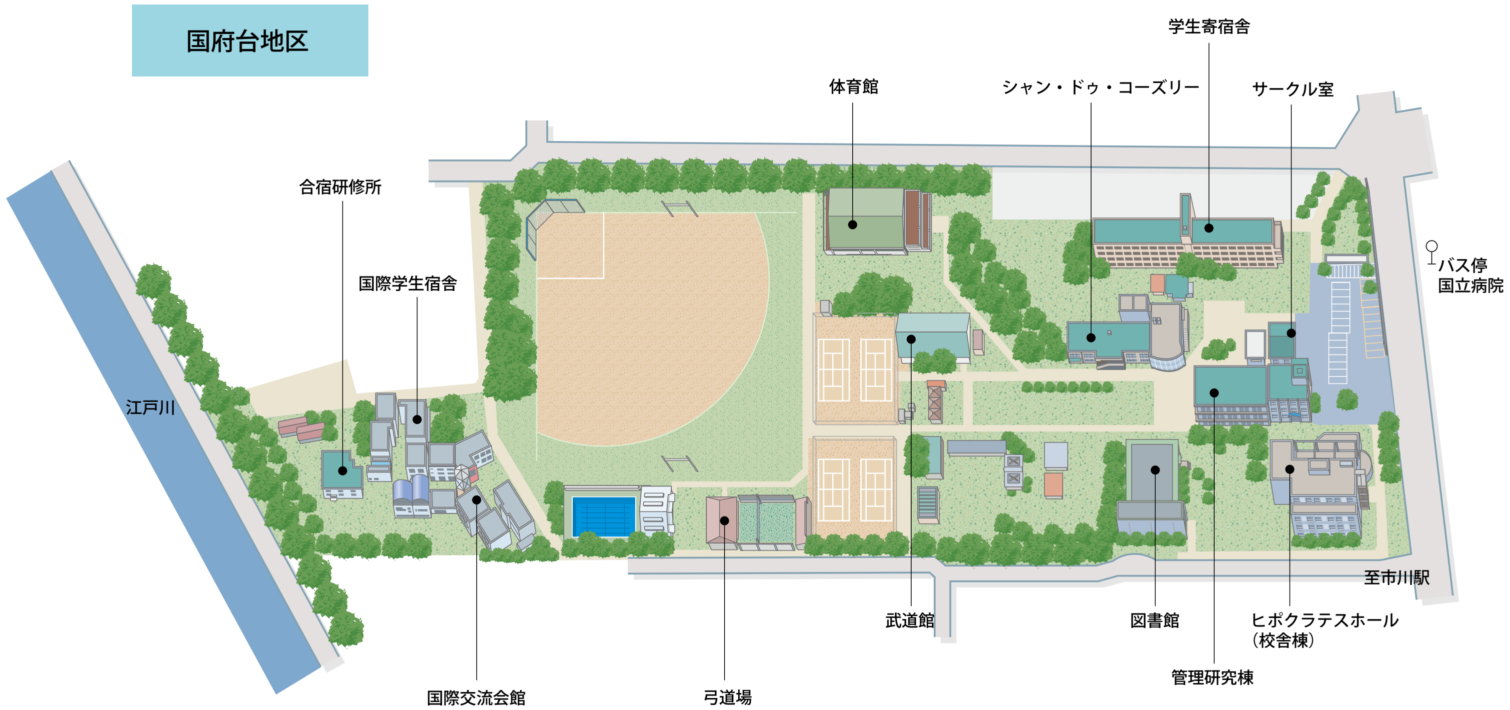
医歯学総合研究棟（II期棟）
（M&Dタワー）

医歯学総合研究棟（II期棟）の建設

本学では、21世紀のニーズに応える研究心旺盛な高度専門職業人（アカデミックドクター）と世界をリードする研究者を養成するため、その核となる施設を湯島地区に建設しました。

本施設は、先進医療分野の変化に対応できる研究実験ゾーンを確保するとともに、プロジェクト的な教育研究活動に供するオープンラボや、全学または部局などで共有するコモンラボなど、総合的・複合的な共同利用空間を確保し、施設を有効活用していきます。





土地・建物及び所在地

平成 21 年 5 月 1 日現在（May 1, 2009）

湯島地区 Yushima Campus ■土地 Grounds (sq. Metre)：45,192㎡ ■建物 Buildings (sq. Metre)：266,233㎡

名称 Name	郵便番号・所在地・電話番号 Zip code・Address・Telephone
事務局 Administration Bureau / 大学院医歯学総合研究科 Graduate School 大学院保健衛生学研究科 Graduate School of Health Sciences 大学院生命情報科学教育部 Biomedical Science PhD Program 大学院疾患生命科学研究部 School of Biomedical Science	〒 113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 5-45, Yushima 1 chome, Bunkyo-ku, Tokyo 03-3813-6111
医学部 Faculty of Medicine 医学部附属病院 University Hospital, Faculty of Medicine	〒 113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 5-45, Yushima 1 chome, Bunkyo-ku, Tokyo 03-3813-6111
歯学部 Faculty of Dentistry 歯学部附属病院 University Hospital, Faculty of Dentistry	〒 113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45 5-45, Yushima 1 chome, Bunkyo-ku, Tokyo 03-3813-6111
附属図書館 University Library / 保健管理センター Health Service Center 疾患遺伝子実験センター Human Gene Sciences Center 先端研究支援センター Research Center for Frontier Life Sciences （機器分析センター）Instrumental Analysis Research Center for Life Science （アイソトープ総合センター）General Isotope Center （医学部附属動物実験施設）Animal Research Center 情報処理センター Information Center for Medical Sciences 医歯学教育システム研究センター Center for Education Research in Medicine and Dentistry	〒 113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45 5-45, Yushima 1 chome, Bunkyo-ku, Tokyo 03-3813-6111
歯学部附属歯科技工士学校 School for Dental Technicians	〒 113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45 5-45, Yushima 1 chome, Bunkyo-ku, Tokyo 03-3813-6111

駿河台地区（1） Surugadai Campus （1） ■土地 Grounds (sq. Metre)：532㎡ ■建物 Buildings (sq. Metre)：2,156㎡

国際交流センター International Exchange Center	〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-21 3-21, Kanda Surugadai 2 chome, Chiyoda-ku, Tokyo 03-5283-5855

駿河台地区（2） Surugadai Campus （2） ■土地 Grounds (sq. Metre)：5,047㎡ ■建物 Buildings (sq. Metre)：17,946㎡

生体材料工学研究所 Institute of Biomaterials and Bioengineering	〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-10 3-10, Kanda Surugadai 2 chome, Chiyoda-ku, Tokyo 03-5280-8000
難治疾患研究所 Medical Research Institute	〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-10 3-10, Kanda Surugadai 2 chome, Chiyoda-ku, Tokyo 03-5280-8050

国府台地区 Kounodai Campus ■土地 Grounds (sq. Metre)：60,938㎡ ■建物 Buildings (sq. Metre)：13,993㎡

教養部 College of Liberal Arts and Sciences / 附属図書館国府台分館 Kounodai Branch Library 保健管理センター分室 Health Service Center, Kounodai Branch	〒 272-0827 千葉県市川市国府台 2-8-30 8-30, Kounodai 2 chome, Ichikawa-city, Chiba Prefecture 047-300-7103
国際交流会館 International House 国際学生宿舎 International Student House	〒 272-0827 千葉県市川市国府台 2-8-1 8-1, Kounodai 2 chome, Ichikawa-city, Chiba Prefecture 047-371-7936

名称 Name	所在地 Address	土地 Grounds （sq. Metre）	建物 Buildings （sq. Metre）
戸田地区 Toda Boat-House	埼玉県戸田市戸田公園 1-60　60, Todakoen 1 chome, Toda-city, Saitama Prefecture	691 ㎡	478 ㎡
妙高高原地区 Akakura Resort House	新潟県妙高市赤倉温泉　Akakura-Onsen, Myoko-city, Niigata Prefecture	1,655 ㎡	334 ㎡
館山地区 Tateyama. Oga-Resort House	千葉県館山市大賀　Oga, Tateyama-city, Chiba Prefecture	4,334 ㎡	839 ㎡
白山宿舎 Hakusan Residence Housing	東京都文京区白山 2-36-3　36-3, Hakusan 2 chome, Bunkyo-ku, Tokyo	495 ㎡	96 ㎡
若宮町宿舎 Wakamiyacho Residence Housing	東京都新宿区若宮町 26　26, Wakamiya-cho, Shinjuku-ku, Tokyo	995 ㎡	
塔の山住宅 Tonoyama Residence Housing	東京都中野区中央 1-50-3　50-3, Chuo 1 chome, Nakano-ku, Tokyo	1,960 ㎡	1,815 ㎡
越中島住宅 Etchujima Residence Housing	東京都江東区越中島 1-3　3, Etchujima 1 chome, Koto-ku, Tokyo	18,136 ㎡	28,492 ㎡
納骨堂 The Ossuary（Nokotsu-do）	千葉県市川市国府台 3-10-1　10-1, Kounodai 3 chome, Ichikawa-city, Chiba Prefecture	（115 ㎡）	
計 Total		139,975 ㎡ （115 ㎡）	332,382 ㎡

＊（注 1）駿河台地区（1）は、駿河台臨床研究棟を示す。
＊（注 2）駿河台地区（2）は、生体材料工学研究所、難治疾患研究所、看護師宿舎を示す。
＊（注 3）土地・建物の（　）内数字は、借用又は一時使用面積を外数で示す。

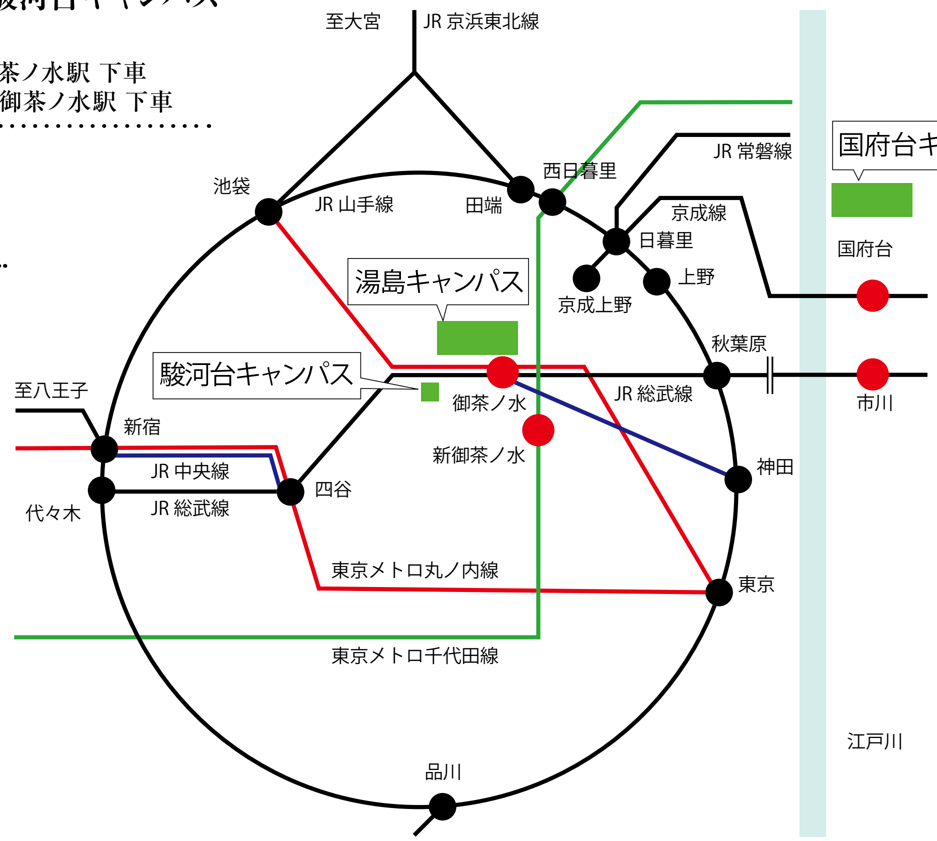
関係施設位置図

湯島キャンパス・駿河台キャンパス

JR 御茶ノ水駅 下車
東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 下車
東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 下車

国府台キャンパス

京成線 国府台駅 下車
JR 市川駅 下車



東京医科歯科大学シンボルマーク

この図は本学のシンボルマークであり、これには、次のような意味が含まれております。

1. 東京医科歯科大学の発展の歴史と、その将来へのあるべき姿を、本学の所在地、湯島にちなんで、湯島天神－学問の神－の象徴である梅の花になぞらえて図案化したものです。
2. 花の芯に当たる中央の輪は、旧東京高等歯科医学校の校章であり、これを基盤として現在の本学があることを示しております。
3. 5 枚の花弁は、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の 5 部局を表し、それらが、がっちりとスクラムを組んで花を咲かせているという本学の姿を表現しています。
4. 5 枚の花弁は、将来に向かって無限に躍進するという意図を表すために花弁の外側を肉厚にし、これによって躍動的な感覚を盛り込んでおります。

東京医科歯科大学新ロゴマーク

TMDU

本学の欧文表記 TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY の頭文字をとった TMDU を図案化し、これを本学のロゴマークとします。これには次のような意味が含まれています。

1.「M」と「D」をつなげることで、医学と歯学の融合を表現しています。
2. 太いラインは“自信”や“強さ”を表し、本学の伝統を表現しています。

国立大学法人
東京医科歯科大学

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY
TMDU